青森市障がい福祉計画策定に係る アンケート調査報告書

目 次

Ι	調査概要	1
	1 調査目的	1
	2 調査設計	1
	3 回収結果	1
	4 報告書の見方	2
${\rm I\hspace{1em}I}$	調査結果	3
1	L 障がいのある方の調査	4
	1-1 記入者・年齢について	4
	◇ お答えいただくのは、どなたですか。	4
	◇ あなたの年齢をお答えください。	4
	1-2 健康状態・日常生活・介助などについて	5
	問1 あなたの現在の健康状態はいかがですか。	5
	問 2 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。	6
	問3 あなたの介助や介護は、主にどなたが行っていますか。	11
	問3-2 あなたの主な介護者のかたの年齢、性別、健康状態、仕事の有無、悩みな	どをお
	答えください。	12
	1-3 障がいの状況について	23
	問4 あなたは身体障がい者手帳をお持ちですか。	23
	問4-2 主たる障がいをお答えください。	24
	問 5 あなたは愛護手帳(療育手帳)をお持ちですか。	25
	問6 あなたは精神障がい者保健福祉手帳をお持ちですか。	25
	問7 【18 歳未満の方のみお答えください】あなた重症心身障がいに該当しますか。	26
	問8 あなたは難病(原因が不明で治療方法が確立していない病気)にかかっている	と診断
	されていますか。	26
	問 9 あなたは発達障がいと診断されたことがありますか。	27
	問 10 あなたは高次脳機能障がいと診断されたことがありますか。	27
	問 11 【問 10 で「はい」を選択された方がお答えください】その関連障がいをお答	えくだ
	さい	28
	問 12 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。	28
	1-4 暮らしや地域生活の意向について	29
	問 13 あなたは現在どのように暮らしていますか。	29
	問 13-2 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。	30
	問 14 あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。	31
	問 $14-2$ 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。.	33

1-5 サービスの利用状況や今後の利用動向などについて37
問 15 あなたは障がい支援区分の認定を受けていますか。37
問 16 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。
問 16-2 該当する要介護度はどれですか。40
問 17 利用している介護保険サービスはどれですか。41
問 18 あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多
いですか。42
問 19 あなたは次のサービスを利用していますか。46
問 19-2 現在利用しているサービスも含めて、これから利用したいと思うサービスをお答
えください。52
問 20 サービスの利用で困っていることはありますか。58
問 20-2 それはどのようなサービスでしょうか。60
1-6 外出や移動手段について
問 21 あなたは普段、どの程度外出しますか。61
問 22 あなたが外出する際の主な同伴者はどなたですか。62
問 23 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。63
問 24 あなたは、どのような手段で外出することが多いですか。64
問 25 外出するときに困ることは何ですか。65
1-7 日中活動について67
問 26 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。67
問 27 どのような勤務形態で働いていますか。
問 28 あなたは今後収入を得る仕事をしたいと思いますか。73
問 29 収入を得る仕事をするために、職業訓練を受けたいと思いますか。73
問30 あなたは自宅や職場、学校以外で日中過ごす場は必要だと思いますか。74
問 30-2 あなたが必要だと思わないとお答えになった理由はどれですか。74
問 31 あなたが利用してみたいと思う日中活動の場所はどのような所ですか。75
問 31-2 あなたは精神疾患を抱える人々が病気を悪化させず、地域で安定して暮らすには
何が必要だと思いますか。75
1-8 就労について
問 32 あなたは、障がいのあるかたの就労支援として、どのようなことが必要だと思いま
すか。76
1-9 暮しやすさや将来の生活について80
問 33 あなたは、青森市は障がいのあるかたにとって暮らしやすいまちだと思いますか。
80
問 34 将来の生活に対する不安についてお答えください。81
1-10 相談について85
問 35 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。85

1 -	1 1	権利擁護について	89
	問 3	36 あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験がありま	. す
	か	۸	89
	問 3	7 あなたは、どのような場所で差別を受けたり、いやな思いをしましたか。	90
	問 3	7-2 あなたは、差別がなくなるために、障がいや障がいのあるかたに対する理解啓	溌
	が	う以上に進むとよいと思う先はどこですか。	94
	問3	7–3 あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした際にどこ	:(C
	相	談しましたか。	98
	問 3	8 あなたは、障がい者差別解消法を知っていますか。1	02
	問 3	39 あなたは、本年4月1日に施行された「青森市障がいのある人もない人も共に生	<u>:</u>
	る	社会づくり条例」を知っていますか。1	03
	問 4	40 あなたは、差別がなくなるために、どういった配慮や取組が必要だと思いますか	١,
		1	04
	問 4	1 成年後見制度についてご存知ですか。1	80
1 -	1 2	災害時の避難等について1	09
	問 4	2 あなたは、緊急時にどなたに助けを求めますか。1	09
	問 4	3 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。1	13
	問 4	4 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいます。	か。
		1	14
	問 4	5 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。	15
2 事	事業所	所調査1	19
問	1	基本情報について1	19
問	12	運営状況について1	19
問	3	利用者数及び今後の動向等について1	23
問	14	地域生活への移行について1	25
問	5	貴事業所からの一般就労への移行について1	27
問	6	貴事業所の重症心身障がい児(重度の肢体不自由と重度の知的障がいが重複した障が	いい
		児) の受け入れについて1	29
問	17	貴事業所の医療的ケア(痰吸引や経管栄養など)児の受け入れについて1	30

I 調査概要

1 調査目的

青森市障がい福祉計画第6期計画(障がい児福祉計画を含む)策定に先立ち、障がいのある方のニーズや意見を幅広く把握し、また、指定障害福祉サービス事業所等におけるサービスの提供体制を把握し、計画に反映させるための基礎資料とするためアンケート調査を実施しました。

2 調査設計

(1)調査対象者

①障がいのある方

身体障害者手帳、愛護手帳(療育手帳)、精神障害者保健福祉手帳所持者 計 2,500 人

②事業者

青森市内に指定障害福祉サービス事業所等を有する法人 計 159 法人 290 事業所

(2)調査期間

令和 2 年 7 月 17 日~28 日

(3)抽出方法

①障がいのある方

市内に住所を有する身体障害者手帳、愛護手帳(療育手帳)、精神障害者保健福祉手帳所持者 のうち、年齢等を考慮し、手帳所持者数の割合で按分して無作為抽出。

②事業者

全ての事業者を対象

(4)調査方法

①障がいのある方

郵送配布・郵送回収により実施しました。

②事業者

メール配布・メール回収により実施しました。

3 回収結果

区分	障がいのある方	事業所	
配付数	2,500	290	
回収数	1,270	133	
回収率	50.8%	45.9%	

4 報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセントの合計が100%にならないこともあります。
- (2) 基数となるべき実数は、件数または調査数として掲載しました。比率は、この件数を 100% として算出しています。
- (3) 複数回答が可能な質問では、比率算出の基数を回答数(その項目を選び○印をつけた数)としています。
- (4) 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、簡略化して掲載している場合があります。
- (5) 2種類以上の障がい者手帳を所持している方は「重複障がい」として算出しています。
- (6)「身体障がい」「知的障がい」「精神障がい」「重複障がい」のいずれにも該当しないものは「無回答等」として算出しています。
- (7) 障がい者手帳の所持の有無について「無回答」または全てに「所持していない」と回答した方は「無回答等」として算出しています。

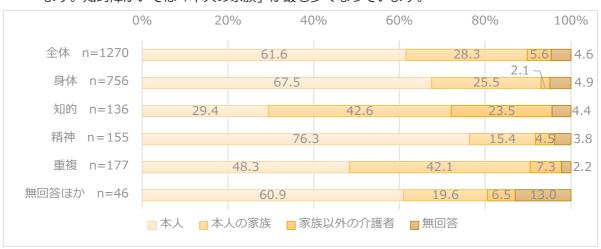
Ⅱ 調査結果

1 障がいのある方の調査

1-1 記入者・年齢について

◇ お答えいただくのは、どなたですか。

- 調査票の記入者については、「ご本人」が 61.6%と最も多く、次いで「本人の家族」が 28.3%、「家族以外の介護者」が 5.6%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がい、精神障がい、重複障がいでは「ご本人」が最も多くなっています。知的障がいでは「本人の家族」が最も多くなっています。



◇ あなたの年齢をお答えください。

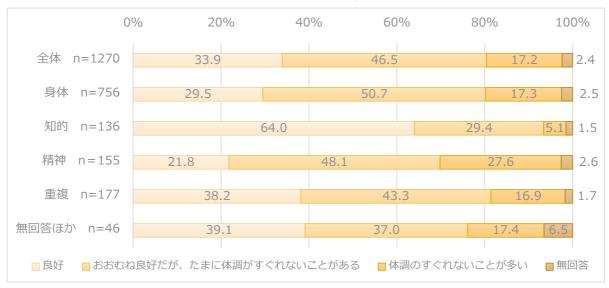
- 回答者の年齢については、「75 歳以上」が 30.6%と最も多く、次いで、「40 歳以上 65 歳未満」が 30.5%、「65 歳以上 75 歳未満」が 21.2%、「18 歳以上 40 歳未満」が 10.4%となっています。
- 障がい別にみると、最も多い年齢層は、身体障がいでは「75歳以上」が43.5%、知的障がいでは「40歳以上65歳未満」が35.3%、精神障がいでは「40歳以上65歳未満」が54.5%、 重複障がいでは「40歳以上65歳未満」が39.3%となっています。



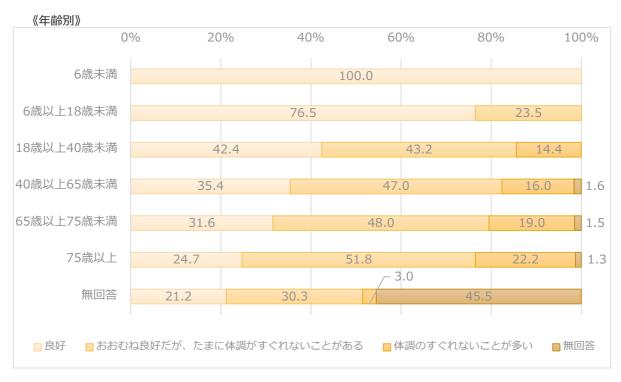
1-2 健康状態・日常生活・介助などについて

問1 あなたの現在の健康状態はいかがですか。

- 健康状態については、「おおむね良好だが、たまに体調のすぐれないことがある 46.5%と最も 多く、次いで「良好」が 33.9%、「体調のすぐれないことが多い」が 17.2%となっています。
- 障がい別にみると、知的障がいでは「良好」が 64.0%となっています。身体障がいでは「おおむね良好だが、たまに体調のすぐれないことがある」が 5割以上を占めています。

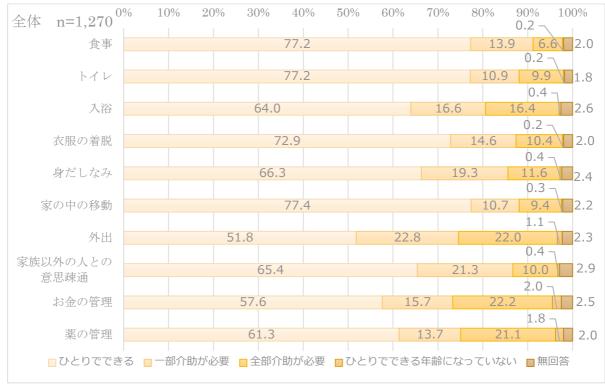


■ 年齢別にみると、年代が上がるにつれ「良好」の割合が減少しています。



問2 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

■ 障がい者の日常生活動作の介助の必要性については、「一部介助が必要」「全部介助が必要」を 合わせた"介助を必要とする人"の割合が、「外出」「お金の管理」「薬の管理」「入浴」で多くなっています。



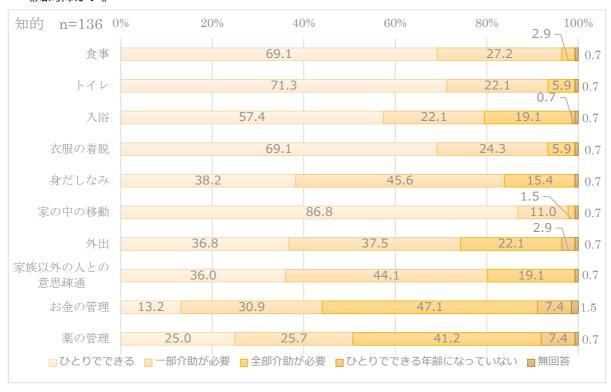
■ 障がい別にみると、身体障がいでは、「外出」で"介助を必要とする人"が 4 割程度と多くなっています。

《身体障がい》



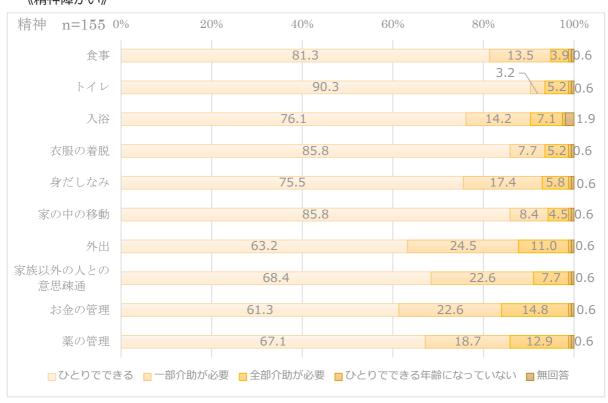
■ 知的障がいでは、「お金の管理」「薬の管理」「家族以外の人との意思疎通」「外出」「身だしなみ」で、"介助を必要とする人"が 5割以上と多くなっています。

《知的障がい》



■ 精神障がいでは、「外出」「家族以外の人との意思疎通」「お金の管理」「薬の管理」で、"介助を必要とする人"が3割以上と多くなっています。

《精神障がい》



■ 重複障がいでは、「外出」「家族以外の人との意思疎通」「お金の管理」「薬の管理」で、"介助を必要とする人"が 5割以上と多くなっています。

《重複障がい》



■ 年齢別にみると、18歳以上になると、ほとんどの項目で「ひとりでできる」の割合が5割以上となっていますが、18歳以上40歳未満では「お金の管理」が37.9%、75歳以上では「外出」が45.1%と5割以下となっています。

《年齢別》

(単位:%)

年齢	項目	ひとりででき る	一部介助が必 要	全部介助が必 要	ひとりででき る年齢になっ ていない	無回答
	食事	30	60	0	10	0
	トイレ	10	30	50	10	0
	入浴	0	30	40	30	0
	衣服の着脱	0	100	0	0	0
	身だしなみ	0	50	30	20	0
6 歳未満	家の中の移動	100	0	0	0	0
	外出	0	30	10	60	0
	家族以外の人との意思疎通	10	80	10	0	0
	お金の管理	0	0	30	70	0
	薬の管理	0	0	30	70	0
	食事	64.7	23.5	11.8	0	0
	トイレ	62.7	21.6	15.7	0	0
	入浴	52.9	23.5	23.5	0	0
	衣服の着脱	70.6	13.7	15.7	0	0
6 歳以上	身だしなみ	39.2	37.3	23.5	0	0
18 歳未満	家の中の移動	78.4	9.8	11.8	0	0
	外出	33.3	35.3	29.4	2	0
	家族以外の人との意思疎通	43.1	41.2	15.7	0	0
	お金の管理	9.8	31.4	45.1	13.7	0
	薬の管理	9.8	39.2	37.3	13.7	0
	食事	68.9	19.7	11.4	0	0
	トイレ	75.0	14.4	10.6	0	0
18 歳以上 40 歳未満	入浴	61.4	20.5	18.2	0	0
	衣服の着脱	65.2	22	12.9	0	0
	身だしなみ	56.8	25.8	17.4	0	0
	家の中の移動	79.5	10.6	9.1	0	0.8
	外出	48.5	28	23.5	0	0
	家族以外の人との意思疎通	51.5	26.5	22	0	0
	お金の管理	37.9	28.8	33.3	0	0
	薬の管理	47	22	31.1	0	0

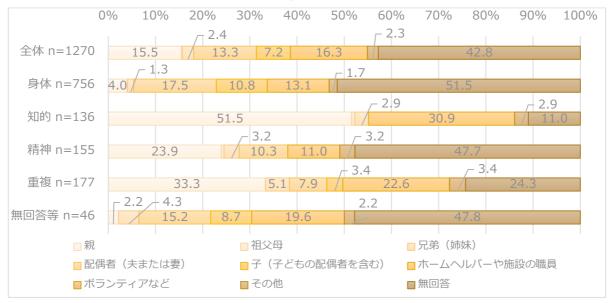
)

(単位:%)

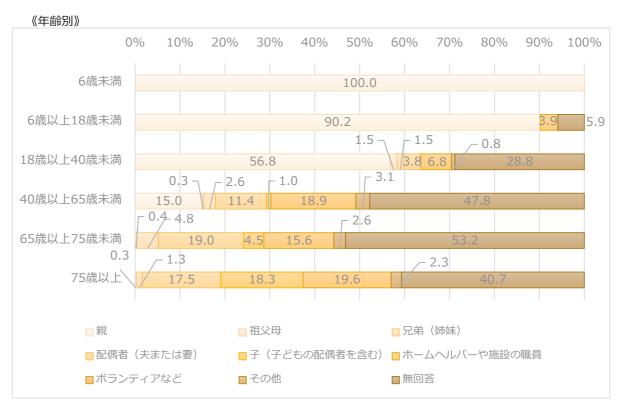
年齢	項目	ひとりででき る	一部介助が必 要	全部介助が必 要	ひとりででき る年齢になっ ていない	無回答
	食事	79.8	12.4	6.5	0.3	1
	トイレ	82.9	7.8	8	0.3	1
	入浴	72.4	12.9	12.7	0.3	1.8
	衣服の着脱	79.6	9.8	9.3	0.3	1
40 歳以上	身だしなみ	70.5	17.8	10.1	0.3	1.3
65 歳未満	家の中の移動	83.5	7.5	7.5	0.3	1.3
	外出	58.9	21.7	17.3	0.5	1.6
	家族以外の人との意思疎通	68	19.9	10.1	0.5	1.6
	お金の管理	62	15.5	20.4	0.8	1.3
	薬の管理	67.7	13.2	17.6	0.5	1
	食事	82.5	11.2	4.1	0	2.2
	トイレ	81.8	10	7.1	0	1.1
	入浴	69.9	16.4	12.3	0	1.5
	衣服の着脱	76.6	13	8.9	0	1.5
65 歳以上 75 歳未満	身だしなみ	73.6	14.9	8.9	0.4	2.2
	家の中の移動	78.4	11.9	7.8	0.4	1.5
	外出	59.9	18.2	20.1	0	1.9
	家族以外の人との意思疎通	74.3	16	7.1	0.4	2.2
	お金の管理	70.3	9.3	17.8	0.7	1.9
	薬の管理	72.9	7.1	17.5	0.7	1.9
75 歳以上	食事	78.4	13.4	5.7	0.3	2.3
	トイレ	74.0	11.3	11.9	0.3	2.6
	入浴	56.4	18.3	21.1	0.3	3.9
	衣服の着脱	69.8	15.7	11.3	0.3	2.8
	身だしなみ	67.0	18.3	11.1	0.3	3.4
	家の中の移動	70.6	13.4	12.4	0.5	3.1
	外出	45.1	23.5	27.6	0.8	3.1
	家族以外の人との意思疎通	67.8	19.6	7.2	0.5	4.9
	お金の管理	59.5	14.2	21.1	1.3	3.9
	薬の管理	60.8	13.4	21.9	1.0	2.8

問3 あなたの介助や介護は、主にどなたが行っていますか。

- 主に介助している方については、「ホームヘルパーや施設の職員」が 16.3%と最も多く、次いで「親」が 15.5%、「配偶者(夫または妻)」が 13.3%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がいでは「配偶者(夫または妻)」が最も多くなっています。知的障がい、精神障がい、重複障がいでは「親」が最も多くなっています。



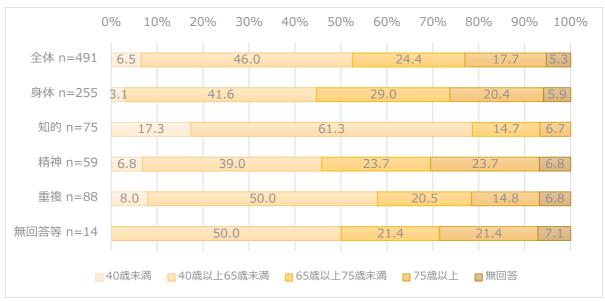
■ 年齢別にみると、18歳未満では「親」が9割以上と最も多くなっています。40歳以上65歳未満では「ホームヘルパーや施設の職員」が18.9%と最も多く、次いで「親」が15.0%となっています。65歳以上75歳未満では「配偶者(夫または妻)」が19.0%と最も多くなっています。75歳以上では「ホームヘルパーや施設の職員」が19.6%と最も多くなっています。



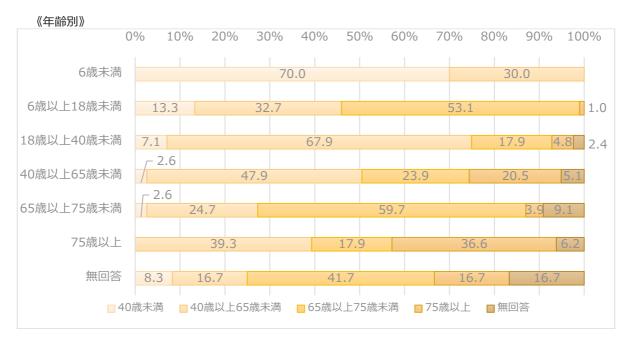
問3-2 あなたの主な介護者のかたの年齢、性別、健康状態、仕事の 有無、悩みなどをお答えください。

① 介護者の年齢

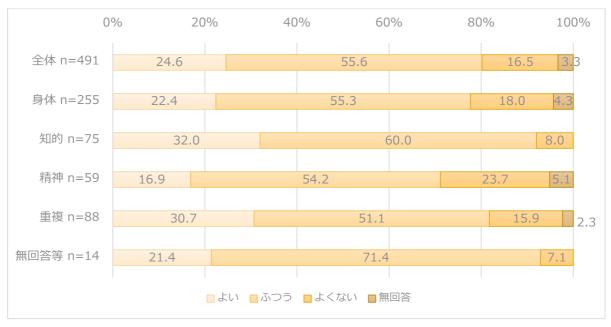
- 主に介護している方の年齢については、「40 歳以上 65 歳未満 46.0%と最も多く、次いで「65 歳以上 75 歳未満」が 24.4%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「65歳以上」の割合が少なく、「40歳未満」の割合が多くなっています。



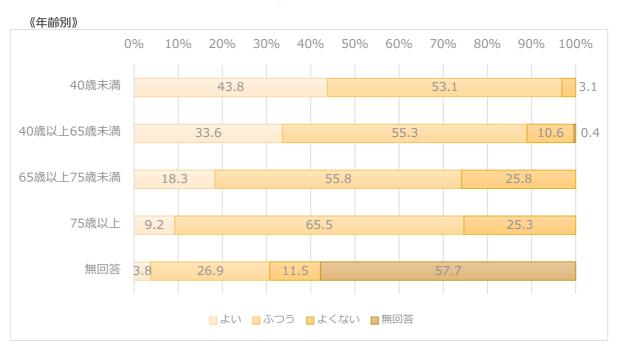
■ 対象者の年齢別にみると、6 歳未満では「40 歳未満」が 70.0%と最も多く、18 歳以上 40 歳 未満では「40 歳以上 65 歳未満」が 67.9%と最も多くなっています。40 歳以上 65 歳未満で は「40 歳以上 65 歳未満」が 47.9%、65 歳以上 75 歳未満では「65 歳以上 75 歳未満」が 59.7%、75 歳以上では「40 歳以上 65 歳未満」と「75 歳以上」が約 4 割となっています。



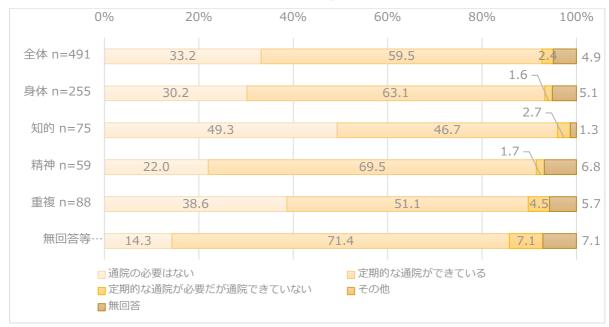
- ② 健康状態はいかがですか。
 - 主に介護している方の健康状態については、「ふつう」が 55.6%と最も多くなっています。また、「よい」が 24.6%となっているのに対し、「よくない」は 16.5%となっています。
 - 障がい別にみると、「よい」と回答した方は、身体障がいでは 22.4%、知的障がいでは 32.0%、 精神障がいでは 16.9%、 重複障がいでは 30.7%となっています。



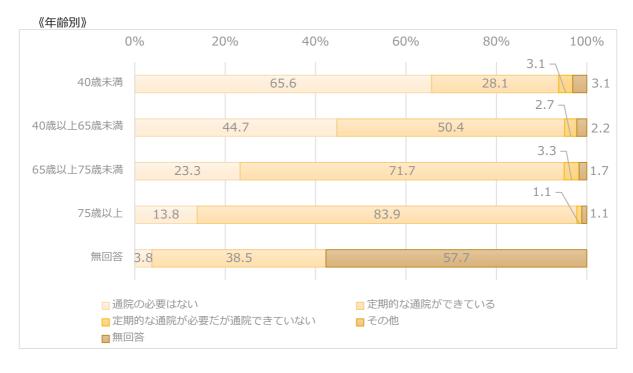
■ 介護者の年齢別にみると、全体の傾向と比べて 40 歳未満では、「よい」が 43.8%と多くなっています。65 歳以上では、「よくない」が約3割と多くなっています。



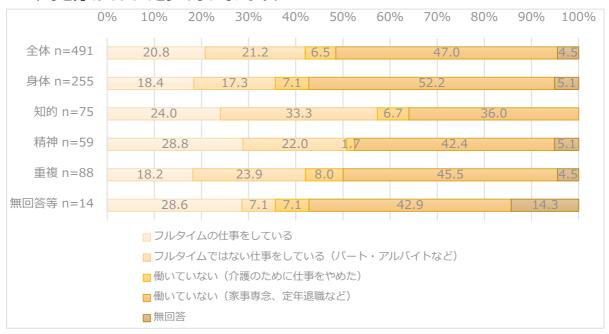
- ③ 主な介護者のかたは通院の必要性がありますか。
 - 主に介護している方の通院の必要性については、「定期的な通院ができている」が 59.5%と最も多くなっています。次に「通院の必要はない」が 33.2%となっています。
 - 障がい別にみると、知的障がい、重複障がいでは「通院の必要はない」が約4割となっています。精神障がいでは「定期的な通院ができている」が69.5%となっています。



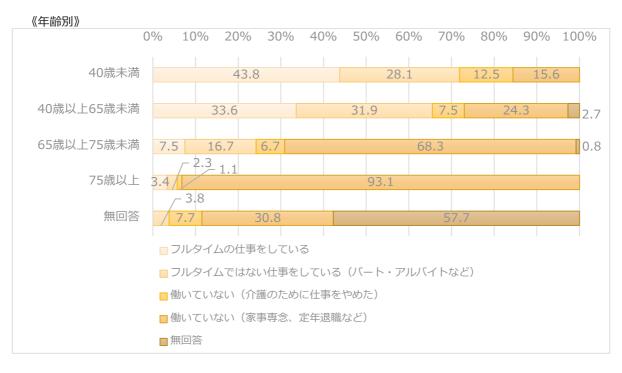
■ 介護者の年齢別にみると、「通院の必要はない」が 40 歳未満では 65.6%、40 歳以上 65 歳未満では 44.7%と最も多くなっています。「定期的な通院ができている」と回答した方は、65 以上 75 歳未満で約 7 割、75 歳以上が約 8 割と多くなっています。



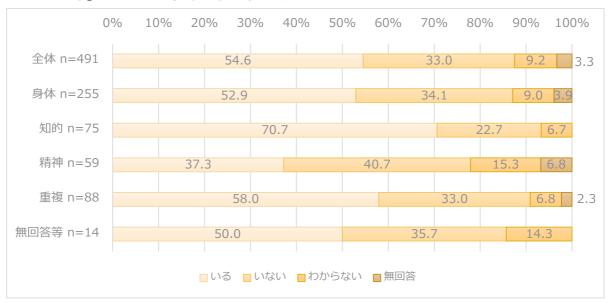
- 4) 主な介護者のかたは仕事をされていますか。
 - 主な介護者で「フルタイムの仕事をしている」と「フルタイムではない仕事をしている(パート・アルバイトなど)」を合わせた"働いている人"は 42.0%、一方、「働いていない(介護のために仕事をやめた)」と「働いていない(家事専業、定年退職など)」を合わせた"働いていない人"は 53.5%となります。
 - 障がい別にみると、知的障がいでは「フルタイムではない仕事をしている(パート・アルバイトなど)」が 33.3%と多くなっています。



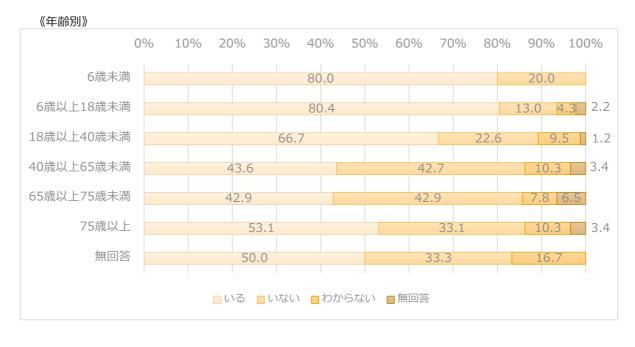
■ 介護者の年齢別にみると、40 歳未満では"働いている人"が 71.9%と多くなっています。40 歳以上 65 歳未満では"働いている人"が 65.5%と多くなっています。「働いていない(家事専業、定年退職など)」と回答した方は、65 歳以上 75 歳未満で約 7 割、75 歳以上で約 9 割と多くなっています。



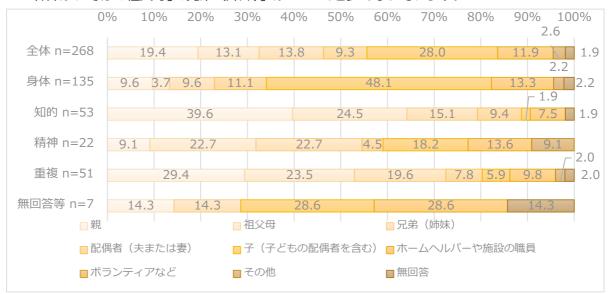
- ⑤ 一時的に、主な介護者のかたがあなたを介護できないときに、介護 を頼める人はいますか。
 - 主な介護者の方が介護できないときに、介護を頼める人の有無については、「いる」が 54.6%、「いない」が 33.0%、「わからない」は 9.2%となっています。
 - 障がい別にみると、知的障がいで「いる」が 70.7%となって多くなっています。精神障がいでは「いる」が 37.3%と少なくなっています。



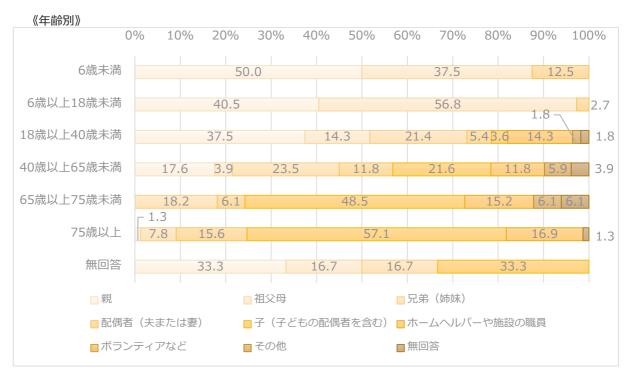
■ 年齢別にみると、「いる」と答えた方は、6 歳未満では80.0%、6 歳以上18 歳未満で80.4%、18 歳以上40 歳未満で66.7%となっています。40 歳以上75 歳未満では「いる」が4割程度となっています。



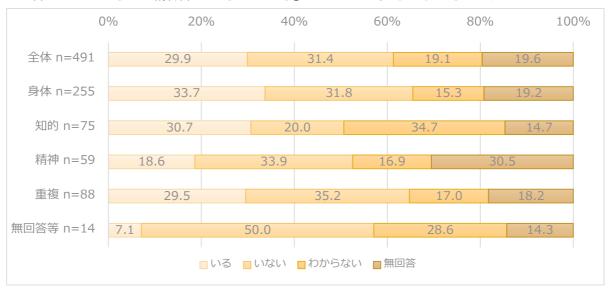
- ⑤ − 2 介護を頼める人はあなたから見てどなたですか。
 - 主な介護者の方が介護できないときに、介護を頼める人については、「子(子どもの配偶者を含む)」が 28.0%と最も多く、次いで「親」が 19.4%、「兄弟(姉妹)」が 13.8%となっています。
 - 障がい別にみると、身体障がいでは「子(子どもの配偶者を含む)」が 48.1%と多くなっています。知的障がいでは「親」が 39.6%と多く、次に、「祖父母」が 24.5%となっています。精神障がいでは「祖父母」「兄弟(姉妹)」が 22.7%と多くなっています。



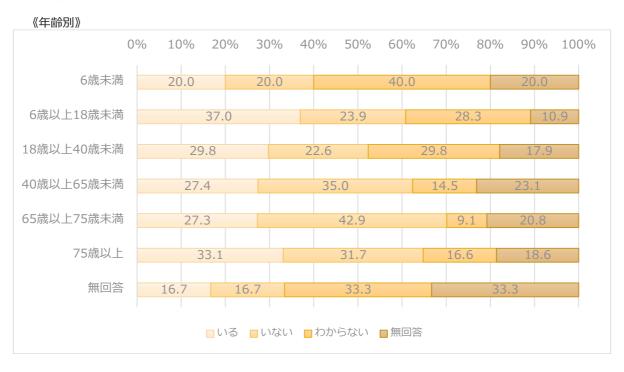
■ 年齢別にみると、18歳未満では「親」「祖父母」の割合が多く、40歳以上65歳未満では「兄弟(姉妹)」、65歳以上では「子(子どもの配偶者を含む)」が多くなっています。



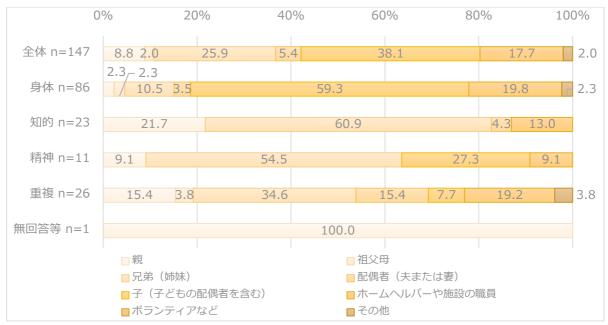
- ⑥ 将来、主な介護者のかたがあなたを介護できなくなった場合に、介護を頼める人(頼む予定の人)はいますか。
 - 将来、主な介護者の方が介護できなくなった場合に、介護を頼める人(頼む予定の人)の有無については、「いる」が 29.9%、「いない」が 31.4%、「わからない」は 19.1%となっています。
 - 障がい別にみると、精神障がいでは、「いる」が 18.6%と少なくなっています。



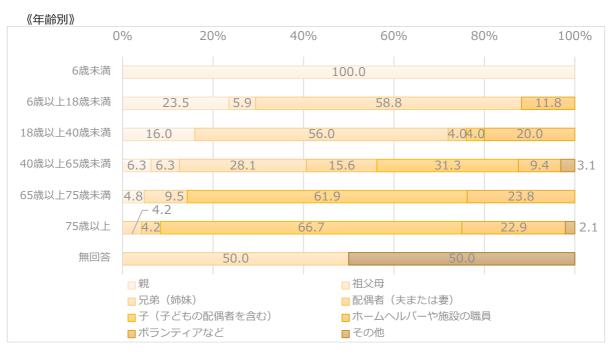
■ 年齢別にみると、「いる」の割合が最も多いのは6歳以上18歳未満、「いない」の割合が最も 多いのは65歳以上75歳未満、「わからない」の割合が最も多いのは6歳未満となっていま す。



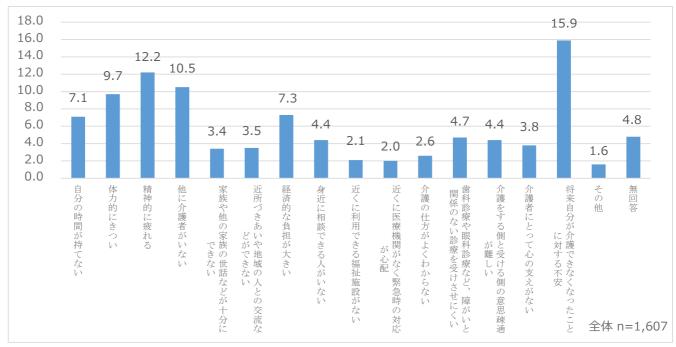
- ⑥-2 介護を頼める人はあなたから見てどなたですか。
 - 主な介護者の方が介護できないときに、介護を頼める人については「子(子どもの配偶者を含む)」が 38.1%と最も多く、次いで「兄弟(姉妹)」が 25.9%、「ホームヘルパーや施設の職員」は 17.7%となっています。
 - 障がい別にみると、身体障がいでは「子(子どもの配偶者を含む)」が 59.3%と多くなっています。知的障がい、精神障がい、重複障がいでは「兄弟(姉妹)」が最も多くなっています。



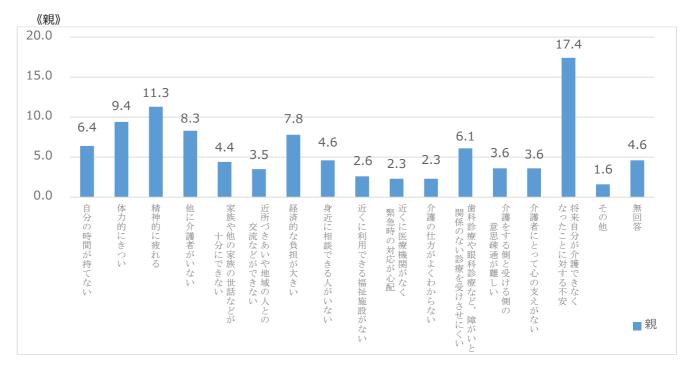
■ 年齢別にみると、6 歳未満では「親」、6 歳以上 40 歳未満では「兄弟(姉妹)」の割合が最も 多くなっています。40 歳以上では「子(子どもの配偶者を含む)」の割合が最も多くなってい ます。

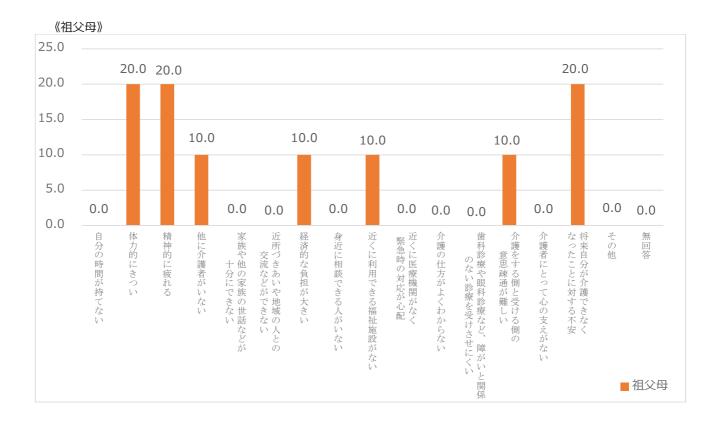


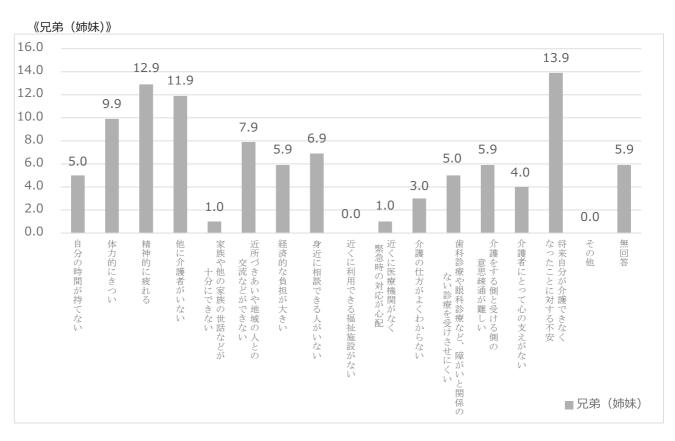
- ② 主な介護者のかたがあなたを介護する上での悩みや問題は何ですか。
 - 主な介護者の方が介護する上での悩みや問題については、「将来自分が介護できなくなったことに対する不安」が15.9%と最も多く、次いで「精神的に疲れる」12.2%、「他に介護者がいない」10.5%、「体力的にきつい」9.7%となっています。

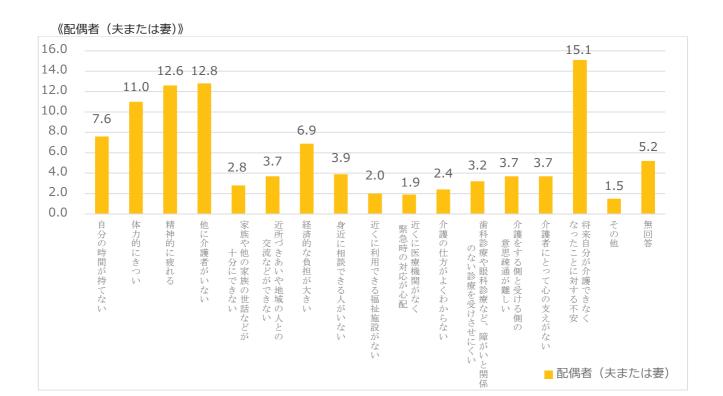


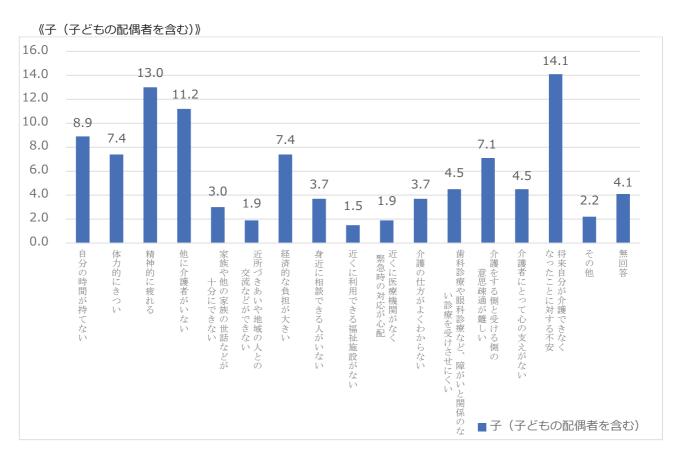
■ 主な介護者別にみると、親、兄弟(姉妹)では、全体の傾向と同様になっています。祖父母では「体力的にきつい」「精神的に疲れる」「将来自分が介護できなくなることに対する不安」がともに 20.0%となっています。子(子どもの配偶者を含む)では、他に比べ「自分の時間が持てない」の割合が多くなっています







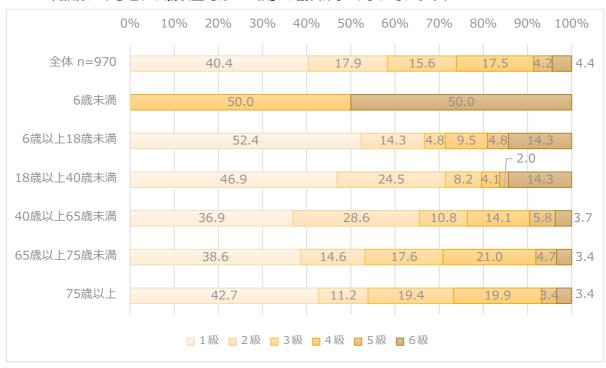




1-3 障がいの状況について

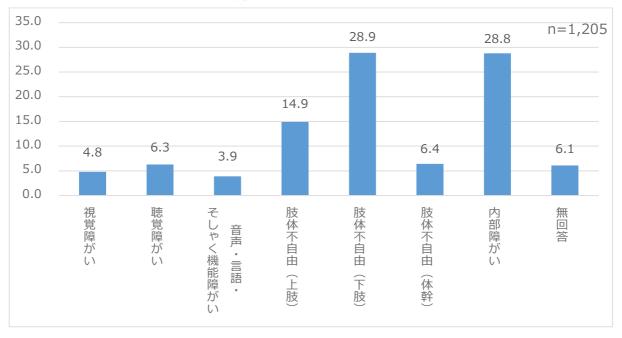
問4 あなたは身体障がい者手帳をお持ちですか。

- 身体障がい者手帳の等級については、「1級」40.4%が最も多く、次いで「2級」17.9%、「3 級」15.6%、「4級」17.5%、「5級」4.2%、「6級」4.4%となっています。
- 年齢別にみると、6歳以上では「1級」の割合が多くなっています。

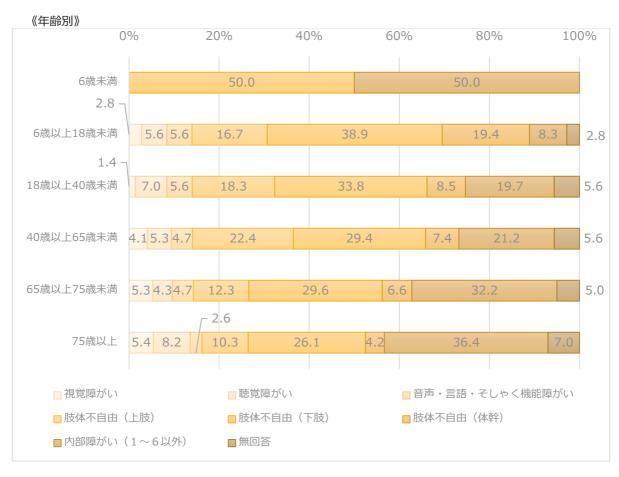


問4-2 主たる障がいをお答えください。

■ 障がいの種類については「肢体不自由(下肢)」が 28.9%と最も多く、次いで「内部障がい」 が 28.8%、「肢体不自由(上肢)」が 14.9%となっています。

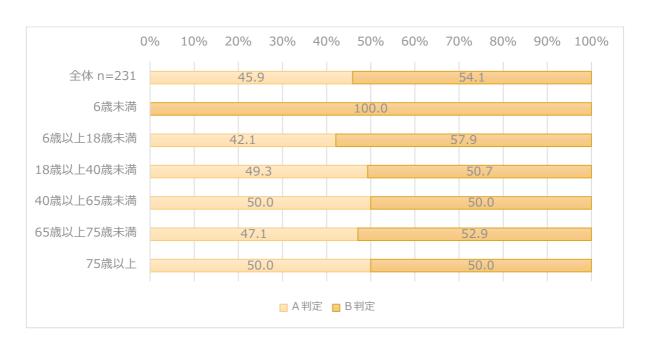


■ 年齢別にみると、65歳以上75歳未満、75歳以上で内部障がいの割合が多くなっています。



問5 あなたは愛護手帳(療育手帳)をお持ちですか。

■ 愛護手帳の等級については、「A判定」が45.9%「B判定」が54.1%となっています。



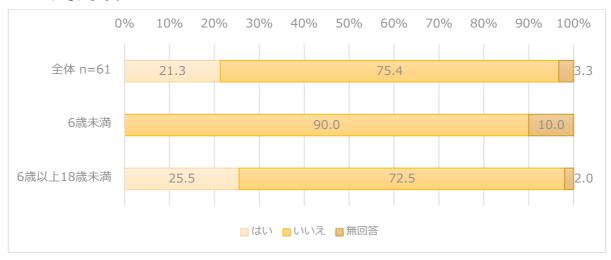
問6 あなたは精神障がい者保健福祉手帳をお持ちですか。

- 精神障がい者保健福祉手帳の等級については、「2 級」が 54.4%と最も多く、次いで「1 級」が 30.6%、「3 級」が 15.1%となっています。
- 18 歳以上 40 歳未満では、「2 級」が約7割と最も多く、75歳以上では「1 級」が約5割と多くなっています。



問7 【18 歳未満の方のみお答えください】あなた重症心身障がいに該当しますか。

■ 重度心身障がいと診断されているかについては、「はい」が 21.3%、「いいえ」が 75.4%となっています。

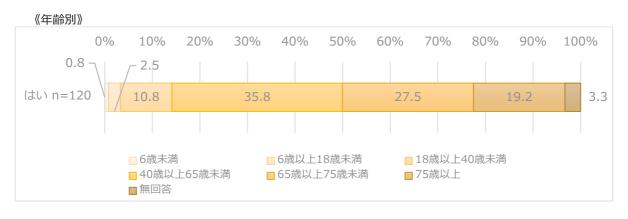


問 8 あなたは難病(原因が不明で治療方法が確立していない病気)に かかっていると診断されていますか。

■ 難病と診断されているかについては、「はい」が 9.4%、「いいえ」が 76.3%となっています。



■ 難病と診断されている方を年齢別にみると、40 歳以上 65 歳未満が 35.8%と最も多く、次い で 65 歳以上 75 歳未満が 27.5%、75 歳以上が 19.2%となっています。



問9 あなたは発達障がいと診断されたことがありますか。

■ 発達障がいとして診断されたことがあるかどうかについては、「はい」が 10.6%、「いいえ」は 74.9%となっています。



■ 「はい」と答えた方を年齢別にみると、18 歳以上 40 歳未満が 38.1%と最も多く、次いで 6 歳以上 18 歳未満と 40 歳以上 65 歳未満が 24.6%となっています。



問 10 あなたは高次脳機能障がいと診断されたことがありますか。

■ 高次脳機能障がいとして診断されたことがあるかどうかについては、「はい」が 5.1%、「いい え」が 83.5%となっています。



■ 「はい」と答えた方を年齢別にみると、「40 歳以上 65 歳未満」が 35.4%と最も多く、次いで「75 歳以上が」24.6%「65 歳以上 75 歳未満」が 23.1%となっています。

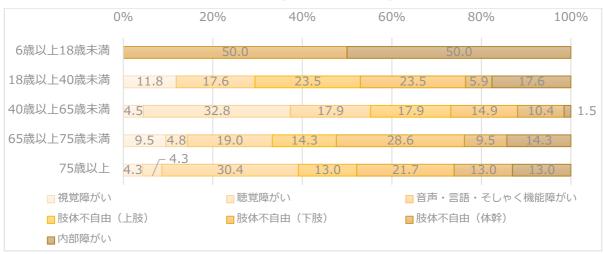


問 11 【問 10 で「はい」を選択された方がお答えください】その関連 障がいをお答えください

■ 関連障がいについては、「音声・言語・そしゃく機能障がい」が 19.9%と最も多く、次いで「肢体不自由(下肢)」が 19.1%、「聴覚障がい」が 18.4%となっています。

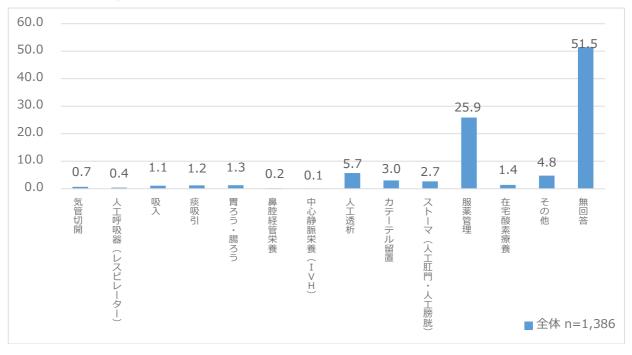


■ 年齢別にみると、「40歳以上65歳未満」で「聴覚障がい」が32.8%と多くなっています。



問 12 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。

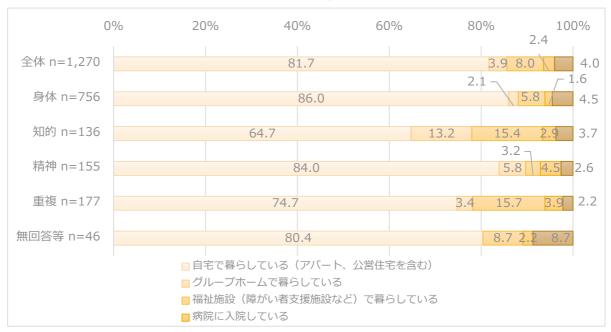
■ 医療ケアについては、「服薬管理」が 25.9%と最も多く、次いで「人工透析」が 5.7%、「カテーテル留置」が 3.0%となっています。



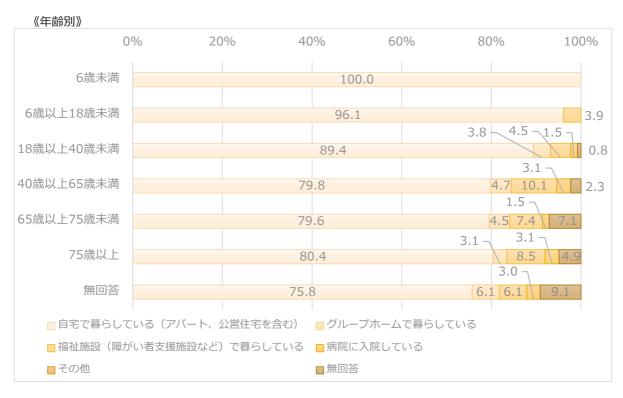
1-4 暮らしや地域生活の意向について

問13 あなたは現在どのように暮らしていますか。

- 現在の住まいについては、「自宅で暮らしている(アパート、公営住宅を含む)」が 81.7%と最も多くなっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいで「グループホームで暮らしている」「福 祉施設(障がい者支援施設など)で暮らしている」の割合が多くなっています。

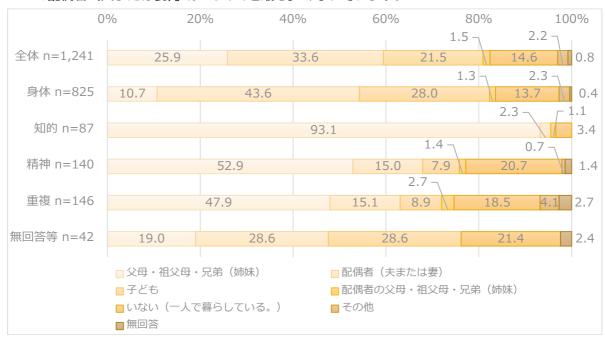


■ 年齢別にみると、年齢が上がるにつれ、「グループホームで暮らしている」「福祉施設(障がい 者支援施設など)で暮らしている」「病院に入院している」の割合が多くなっています。

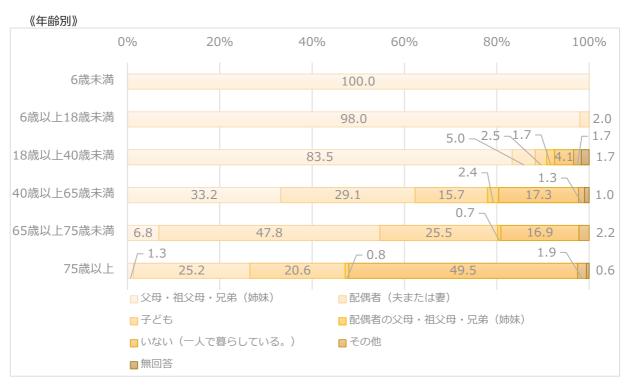


問 13-2 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。

- 「自宅で暮している」方が一緒に暮らしている人については、「配偶者(夫または妻)」が 33.6% と最も多く、次いで「父母・祖父母・兄弟(姉妹)」 25.9%、「子ども」が 21.5%となっています。
- 障がい別にみると、知的障がいでは「父母・祖父母・兄弟」が 93.1%と最も多く、精神障がい、 重複障がいでは「父母・祖父母・兄弟」が 5 割程度と最も多くなっています。身体障がいでは 「配偶者(夫または妻)」が 43.6%と最も多くなっています。

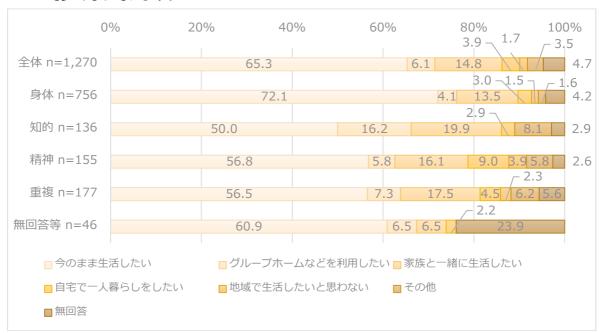


■ 年齢別にみると、6歳未満では「父母・祖父母・兄弟(姉妹)」が100%となっています。6歳以上18歳未満では「父母・祖父母・兄弟(姉妹)」が98.0%と最も多くなっています。65歳以上では「配偶者(夫または妻)」が47.8%と最も多くなっています。

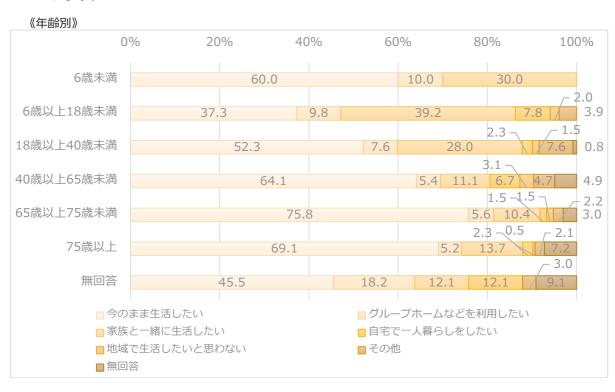


問 14 あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。

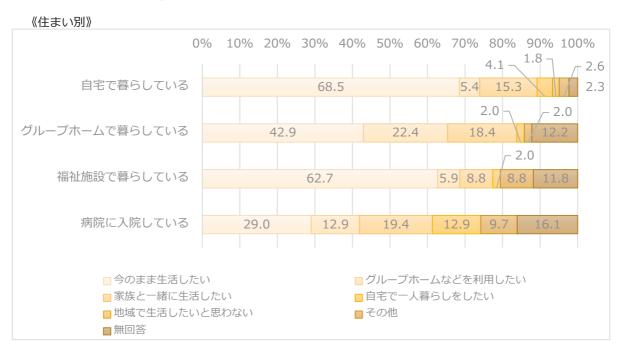
- 将来、地域で生活したいと思うかどうかは、「今のまま生活したい」が 65.3%で最も多く、次いで、「家族と一緒に生活したい」が 14.8%、「グループホームなどを利用したい」が 6.1%となっています。
- 障がい別にみると、身体障がいで、「今のまま生活したい」が 72.1%と最も多くなっています。 知的障がいでは「グループホームなどを利用したい」「家族と一緒に生活したい」が全体と比べて多くなっています。



■ 年齢別にみると、65 歳以上 75 歳未満で「今のまま生活したい」が 75.8%で最も多くなっています。

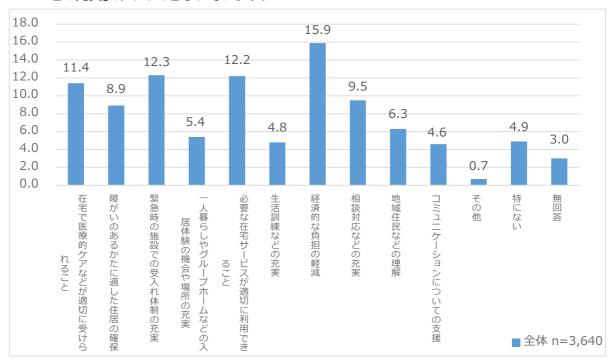


- 現在の住まい別にみると、「自宅で暮している」では「今のままで生活したい」が 68.5%と最も多く、次いで「家族と一緒に生活したい」が 15.3%となっています。
- 「グループホームで暮らしている」では「今のままで生活したい」が 42.9%と最も多くなっています。
- 「福祉施設で暮らしている」では「今のままで生活したい」が 62.7%と最も多く、次いで「家族と一緒に生活したい」と「地域で生活したいと思わない」が 8.8%となっています。
- 「病院に入院している」では「今のままで生活したい」が 29.0%と最も多く、次いで「家族と 一緒に生活したい」が 19.4%となっています。

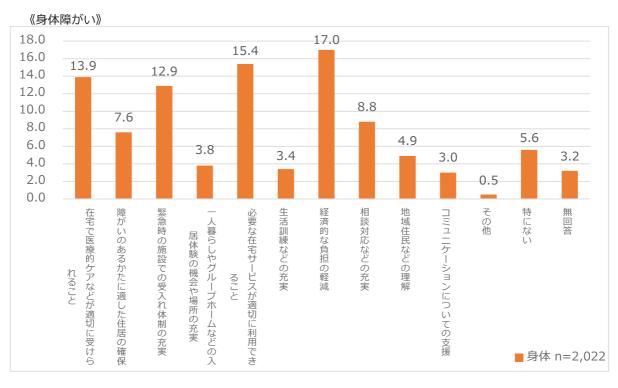


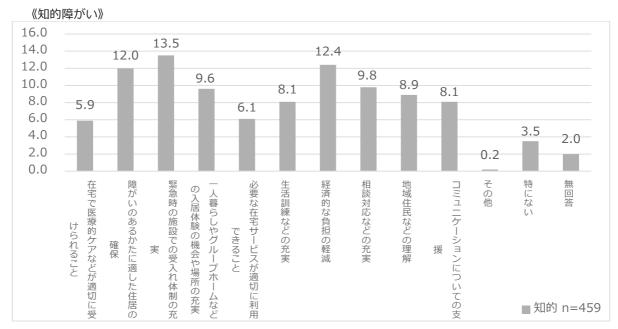
問 14-2 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。

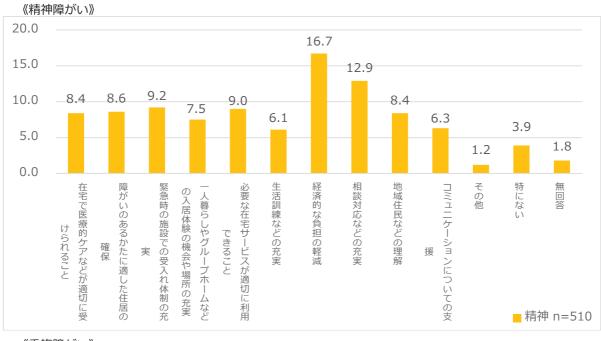
■ 地域で生活するための支援については、「経済的な負担の軽減」が 15.9%と最も多く、次いで、「緊急時の施設での受入れ体制の充実」が 12.3%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が 12.2%、「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること」が 11.4%、「相談対応などの充実」が 9.5%となっています。

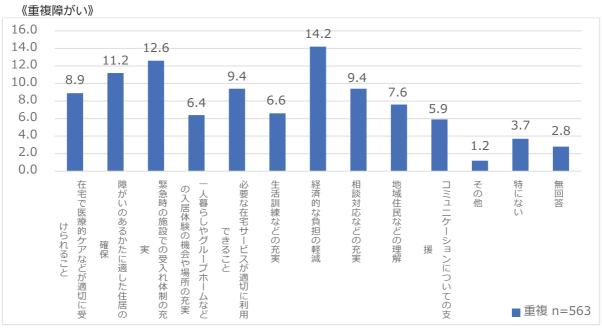


■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいで「障がいのあるかたに適した住居の確保」、「一人暮らしやグループホームなどの入居体験の機会や場所の充実」、「生活訓練などの充実」、「地域住民などの理解」、「コミュニケーションについての支援」が多くなっています。

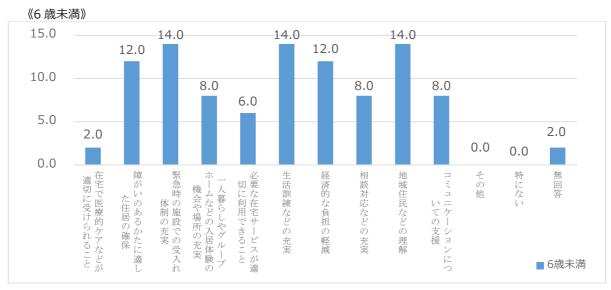


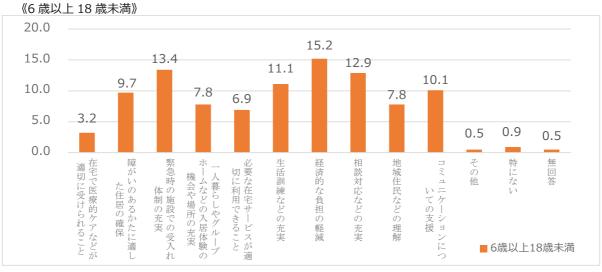


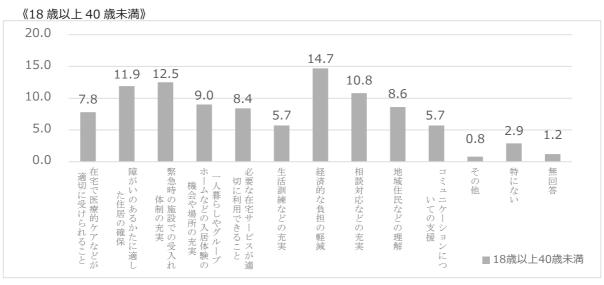




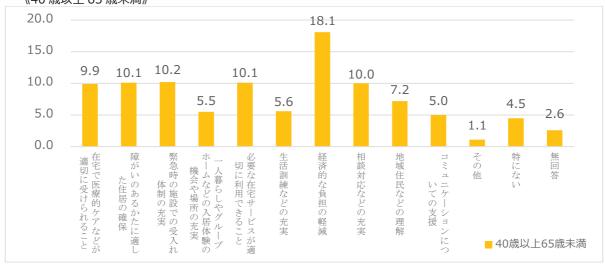
■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6歳以上 18歳未満では「地域住民等の理解」「生活訓練などの充実」「コミュニケーションについての支援」が多く、18歳以上 40歳未満では「障がいのあるかたに適した住居の確保」「一人暮らしやグループホーム等の入居体験の機会や場所の充実」「地域住民などの理解」が多く、75歳以上で「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること」が多くなっています。



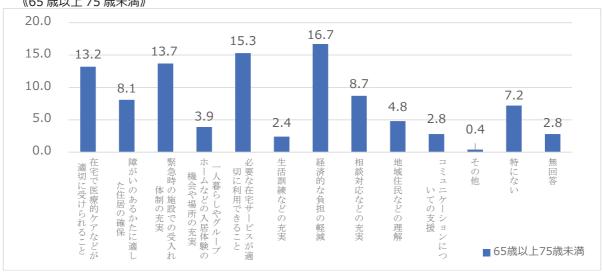




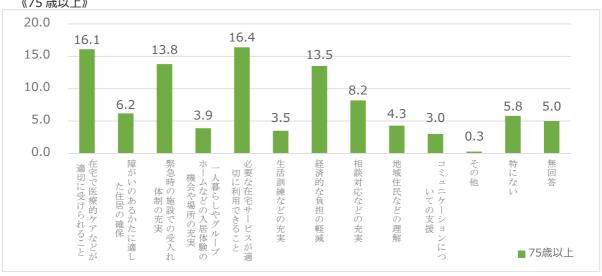
《40 歳以上 65 歳未満》



《65 歳以上 75 歳未満》



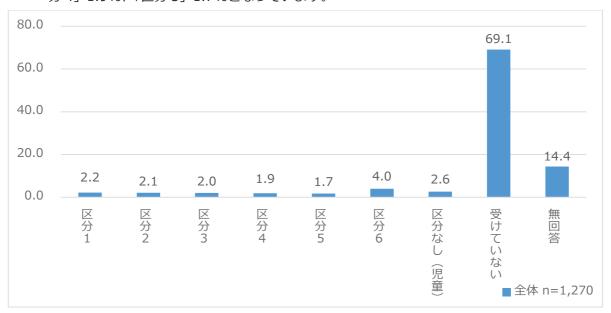
《75 歳以上》



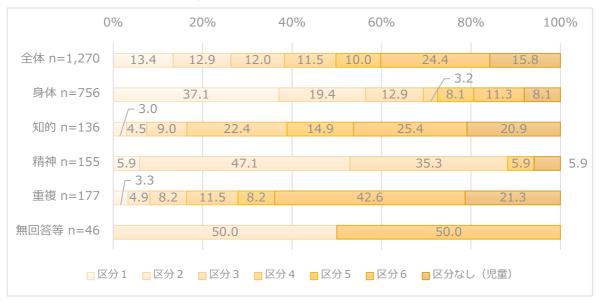
1-5 サービスの利用状況や今後の利用動向などについて

問 15 あなたは障がい支援区分の認定を受けていますか。

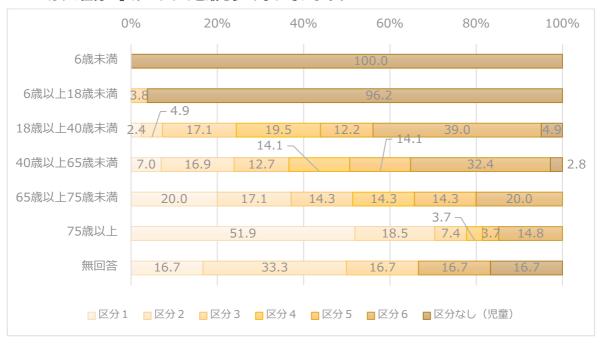
■ 障がい支援区分の認定については、「受けていない」が 69.1%で最も多く、次いで、「区分 6」 4.0%、「区分なし(児童)」2.6%、「区分 1」2.2%、「区分 2」2.1%、「区分 3」2.0%、「区分 4 | 1.9%、「区分 5 | 1.7%となっています。



■ 障がい支援区分の認定を受けている方を障がい別にみると、身体障がいでは「区分 1」が 37.1% と最も多くなっています。知的障がいでは「区分 6」が 25.4%と最も多く、次いで「区分 4」が 22.4%となっています。精神障がいでは「区分 2」が 47.1%と最も多くなっています。重複障がい者では「区分 6」が 42.6%と最も多くなっています。



■ 障がい支援区分の認定を受けている方を年齢別にみると、18歳以上40歳未満では、「区分6」が39.0%で最も多く、次いで「区分4」が19.5%となっています。40歳以上65歳未満では、「区分6」が32.4%で最も多く、次いで「区分2」が16.9%となっています。65歳以上では、「区分1」が20.0%と最も多くなっています。

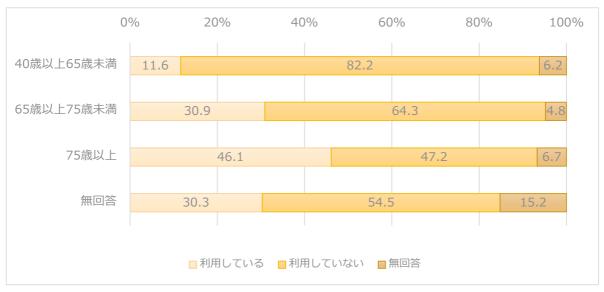


問 16 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。

- 介護保険によるサービスについては、「利用している」が 25.4%、「利用していない」 が 68.4% となっています。
- 障がい別にみると、知的障がいでは「利用している」が 5.1%、精神障がいでは「利用している」が 13.5%と低くなっています。

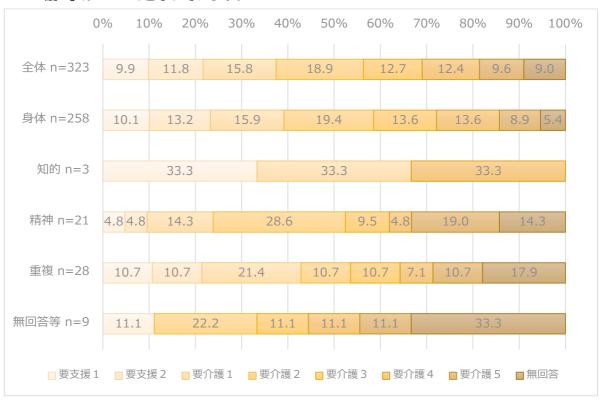


■ 年齢別にみると、「利用している」が、40 歳以上 65 歳未満では 11.6%、65 歳以上 75 歳未満では、30.9%、75 歳以上で 46.1%となっています。



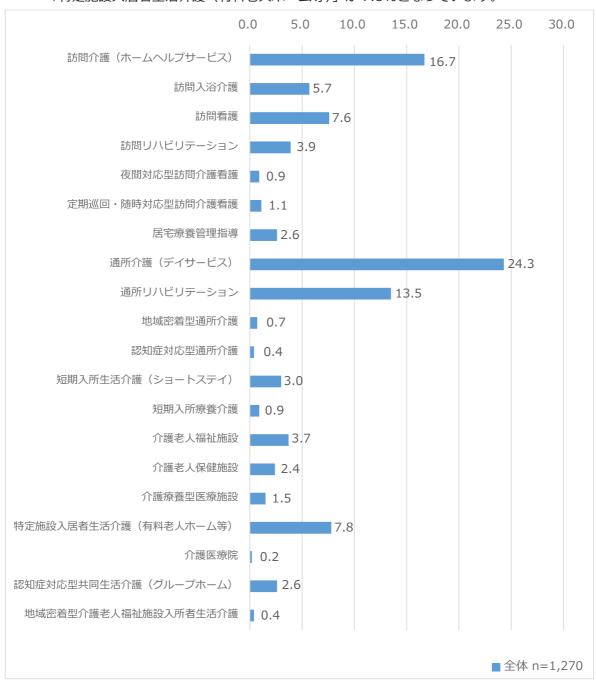
問 16-2 該当する要介護度はどれですか。

- 該当する要介護度については、「要介護 2 」が 18.9% と最も多く、次いで「要介護 1 」が 15.8%、 「要介護 3」 が 12.7% となっています。
- 障がい別にみると、身体障害では「要介護 2」が 19.4%、知的障がいでは「要支援 1」「要介護 1」「要介護 4」が 33.3%、精神障がいでは「要介護 2」が 28.6%、重複障がいでは「要介護 1」が 21.4%となっています。



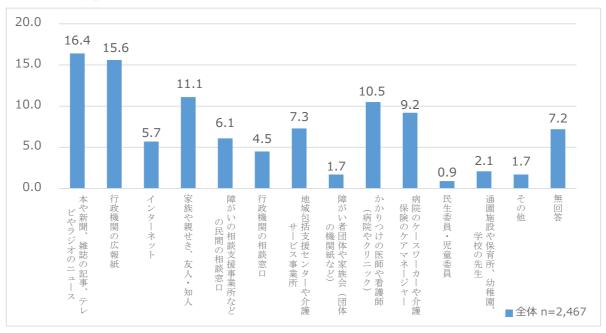
問 17 利用している介護保険サービスはどれですか。

■ 利用している介護保険サービスについては、「通所介護 (デイサービス)」が最も多く 24.3%、次いで「訪問介護 (ホームヘルプサービス)」が 16.7%、「通所リハビリテーション」が 13.5%、「特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム等)」が 7.8%となっています。

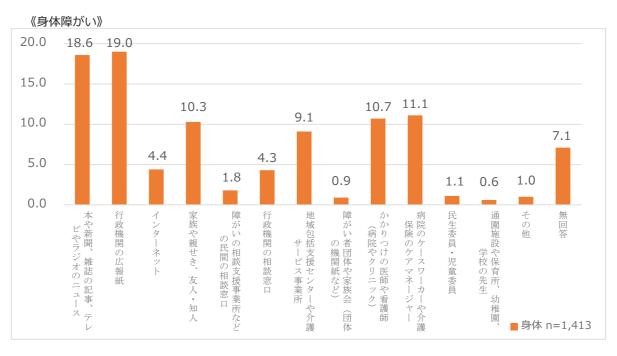


問 18 あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。

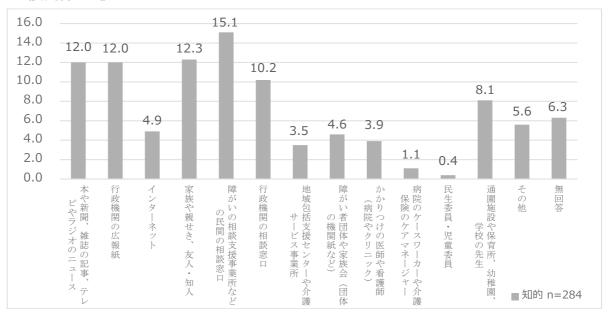
■ 障がいのことや福祉サービスなどに関する情報をどこから知るかについては、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が最も多く 16.4%、次いで「行政機関の広報紙」が 15.6%、「家族や親せき、友人・知人」が 11.1%、「かかりつけの医師や看護師(病院やクリニック)」が 10.5%となっています。



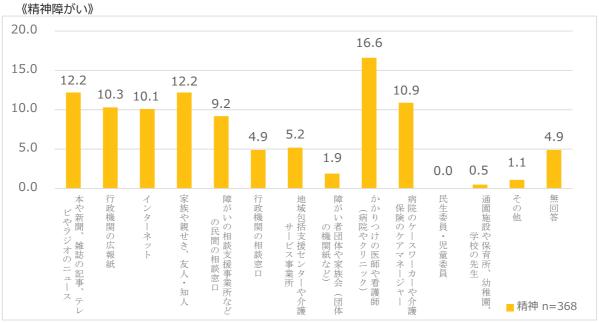
■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「障がいの相談支援事業所などの民間の相談窓口」「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が多く、精神障がいでは「かかりつけの医師や看護師(病院やクリニック)」が多く、重複障がいでは、「障がいの相談支援事業所などの民間の相談窓口」が多くなっています。



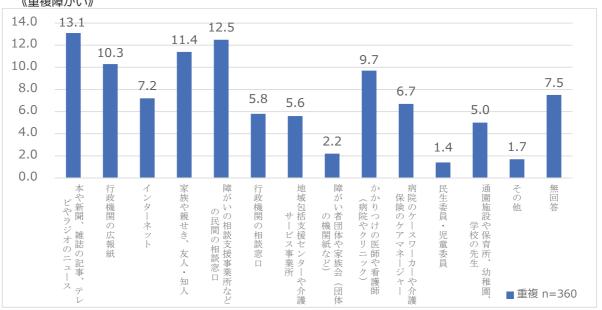
《知的障がい》



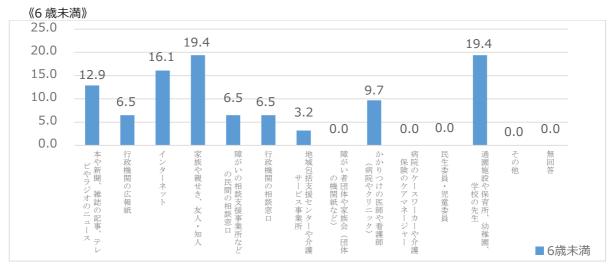


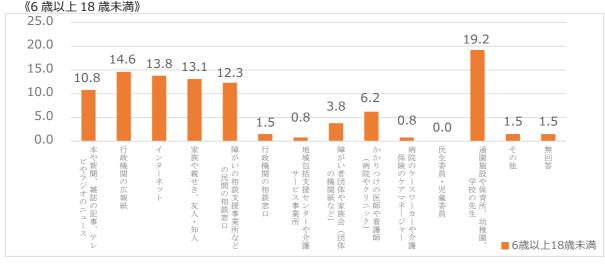


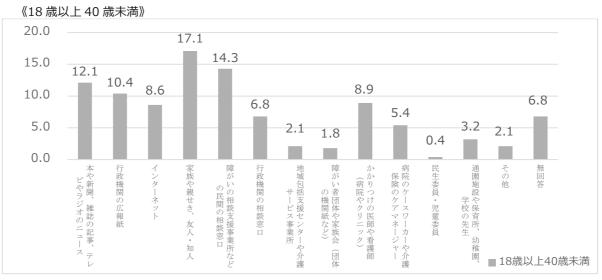




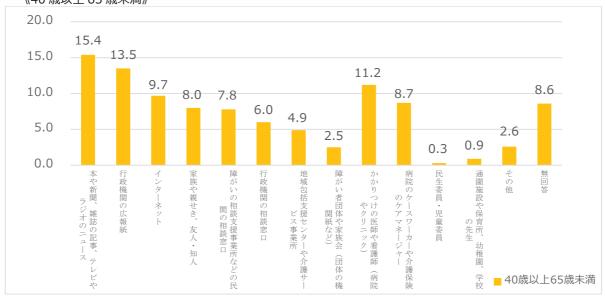
■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6歳未満では「家族や親せき、友人・知人」「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が多く、6歳以上 18歳未満では「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が最も多くなっています。75歳以上では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が多くなっています。





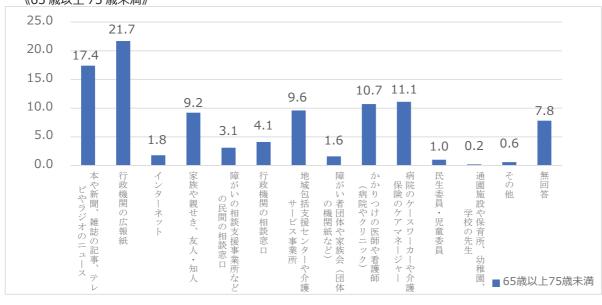


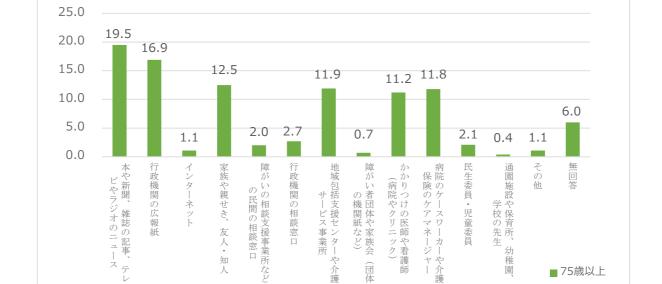
《40 歳以上 65 歳未満》



《65 歳以上 75 歳未満》

《75 歳以上》

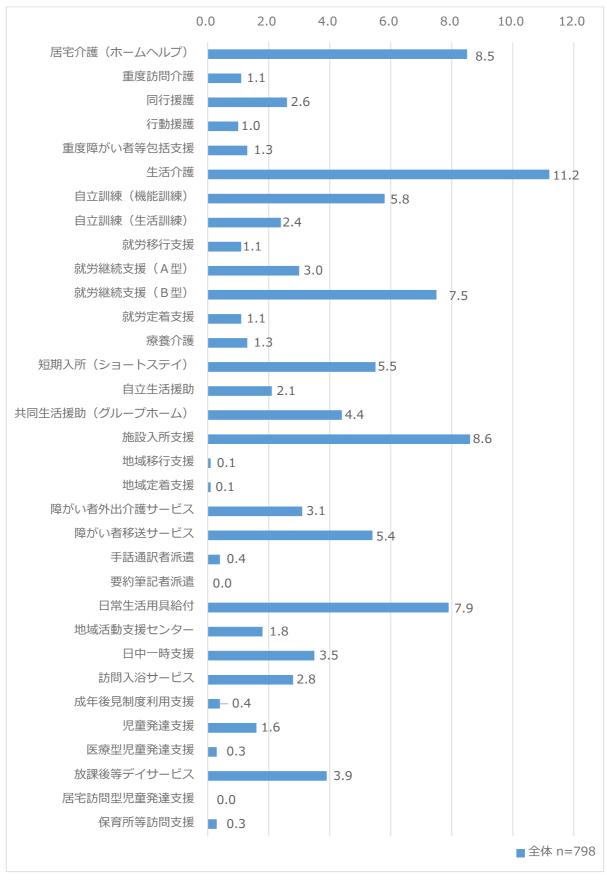




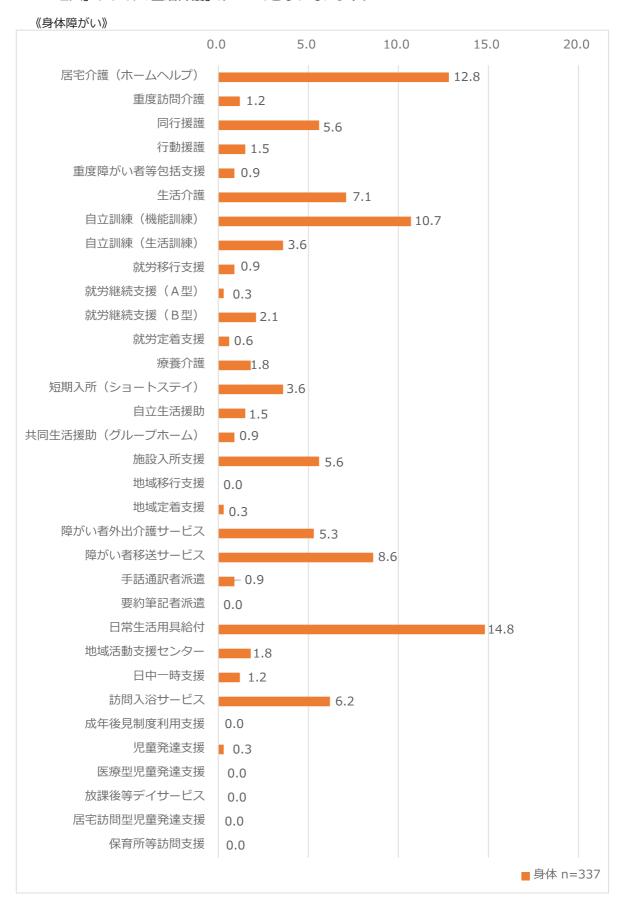
■ 75歳以上

問19 あなたは次のサービスを利用していますか。

■ 現在、利用しているサービスについては、「生活介護」が 11.2%と最も多く、次いで「施設入 所支援」が 8.6%、「居宅介護(ホームヘルプ)」が 8.5%「日常生活用具」が 7.9%となって います。

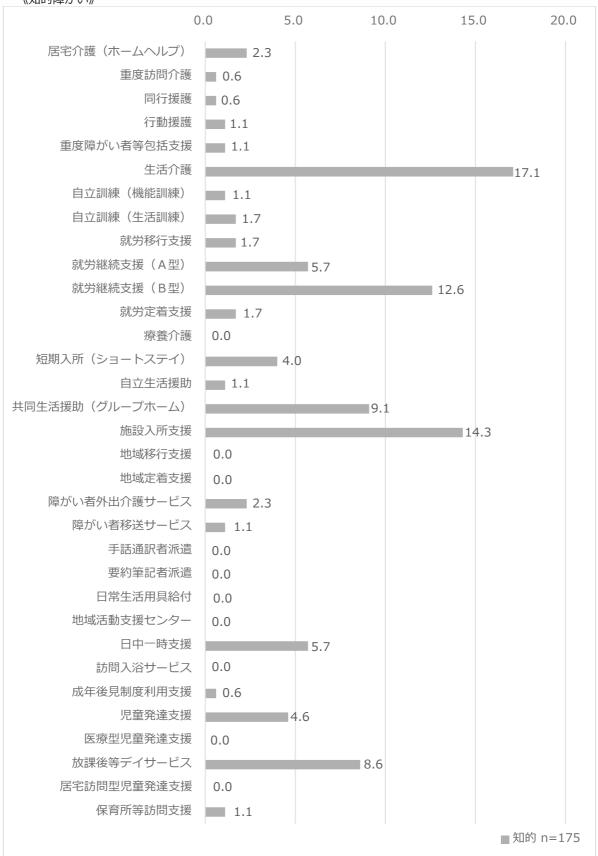


■ 障がい別にみると、身体障がいでは、「日常生活用具給付」が 14.8%と最も多く、次いで「居宅介護(ホームヘルプ)」が 12.8%、「自立訓練(機能訓練)」が 10.7%、「障がい者移送サービス」8.6%、「生活介護」が 7.1%となっています。



■ 知的障がいでは、「生活介護」が 17.1%と最も多く、次いで「施設入所支援」が 14.3%、「就 労継続支援(B型)」が 12.6%、「共同生活援助(グループホーム)」が 9.1%、「放課後等デイ サービス」が 8.6%となっています。

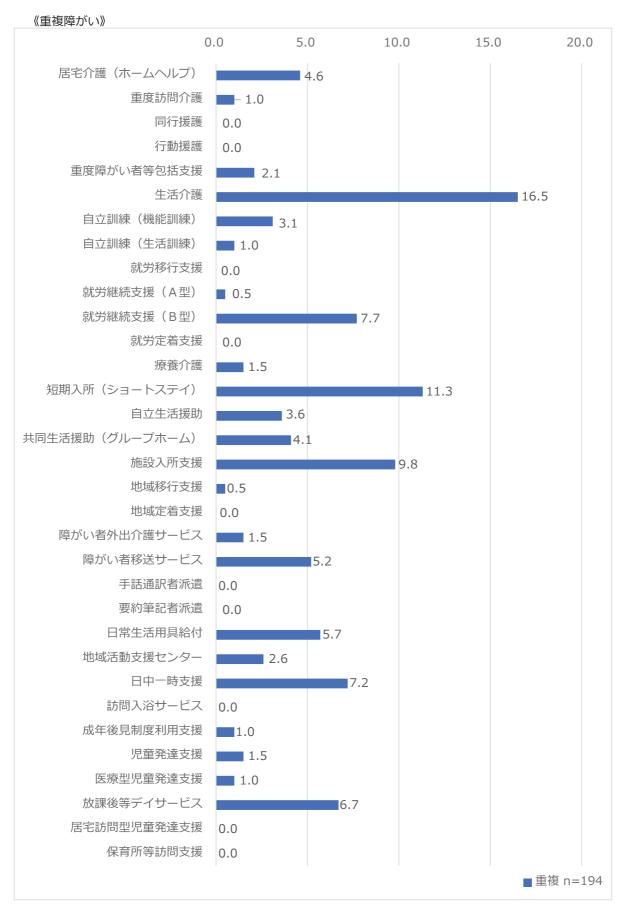




■ 精神障がいでは、「就労継続支援(B型)」が 21.1%と最も多く、次いで「就労継続支援(A型)」が 15.8%、「共同生活援助(グループホーム)」が 10.5%となっています。



■ 重複障がいでは、「生活介護」が 16.5%と最も多く、次いで「短期入所(ショートステイ)」が 11.3%、「施設入所支援」が 9.8%、「就労継続支援(B型)」が 7.7%となっています。



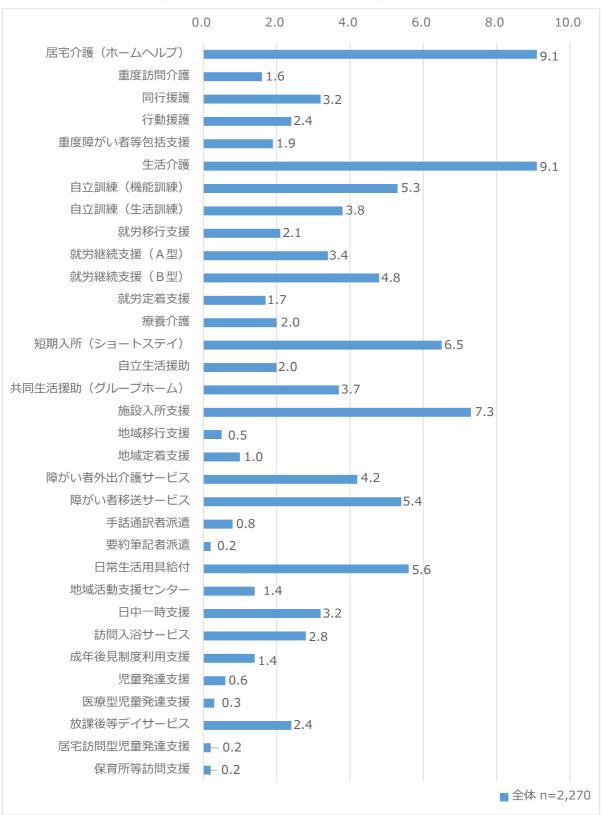
■ 年齢別にみると、6歳未満では、「児童発達支援」が80.0%と最も多くなっています。6歳以上18歳未満では、「放課後等デイサービス」が41.8%と最も多く、次いで「日中一時支援」が19.4%となっています。18歳以上40歳未満では、就労継続支援(B型)」が16.9%と最も多く、次いで「生活介護」が13.5%となっています。40歳以上では、「生活介護」の割合が多くなっています。

《年齢別》

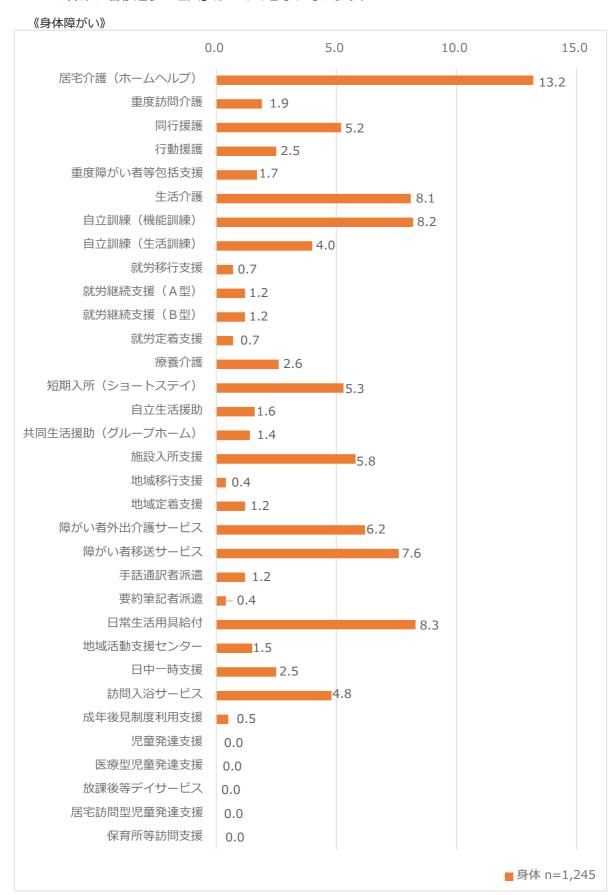
十	6 歳未満	6 歳以上	18 歳以上	40 歳以上	65 歳以上	(半位:70
		18 歳未満	40 歳未満	65 歳未満	75 歳未満	75 歳以上
居宅介護(ホームヘルプ)	0.0	0.0	3.4	8.8	8.7	15.8
重度訪問介護	0.0	0.0	1.4	1.6	0.8	1.1
同行援護	0.0	0.0	0.0	2.0	3.2	6.0
行動援護	0.0	1.5	0.0	0.8	0.8	1.6
重度障がい者等包括支援	0.0	0.0	0.7	2.8	0.0	1.1
生活介護	0.0	0.0	13.5	13.6	14.3	8.7
自立訓練(機能訓練)	0.0	3.0	2.7	3.6	6.3	12.6
自立訓練(生活訓練)	0.0	0.0	1.4	3.2	3.2	2.7
就労移行支援	0.0	0.0	2.0	1.6	0.0	1.1
就労継続支援(A型)	0.0	0.0	8.8	1.6	0.8	0.0
就労継続支援(B型)	0.0	0.0	16.9	4.4	0.8	1.1
就労定着支援	0.0	0.0	2.7	12.4	0.8	0.0
療養介護	0.0	0.0	0.0	1.6	2.4	1.1
短期入所 (ショートステイ)	0.0	9.0	11.5	2.4	4.8	4.9
自立生活援助	0.0	0.0	2.7	3.6	0.8	0.5
共同生活援助(グループホーム)	0.0	0.0	4.7	6.4	5.6	2.7
施設入所支援	0.0	1.5	4.7	13.2	7.1	10.4
地域移行支援	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
地域定着支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障がい者外出介護サービス	0.0	4.5	1.4	3.2	4.0	3.3
障がい者移送サービス	0.0	7.5	3.4	4.0	9.5	5.5
手話通訳者派遣	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	0.0
要約筆記者派遣	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
日常生活用具給付	10.0	3.0	6.1	5.2	16.7	9.3
地域活動支援センター	0.0	0.0	2.0	1.6	1.6	2.2
日中一時支援	0.0	19.4	6.8	0.4	1.6	1.1
訪問入浴サービス	0.0	0.0	1.4	0.0	4.8	7.1
成年後見制度利用支援	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0
児童発達支援	80.0	4.5	0.7	0.0	0.0	0.0
医療型児童発達支援	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	0.0	41.8	0.7	0.0	0.8	0.0
居宅訪問型児童発達支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保育所等訪問支援	10.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0

問 19-2 現在利用しているサービスも含めて、これから利用したいと 思うサービスをお答えください。

■ これから利用したいと思うサービスについては、「居宅介護(ホームヘルプ)」「生活介護」が 9.1%と最も多く、次いで「施設入所支援」が 7.3%、「短期入所 (ショートステイ)」が 6.5%、 「日常生活用具給付」が 5.6%、「障がい者移送サービス」が 5.4%となっています。

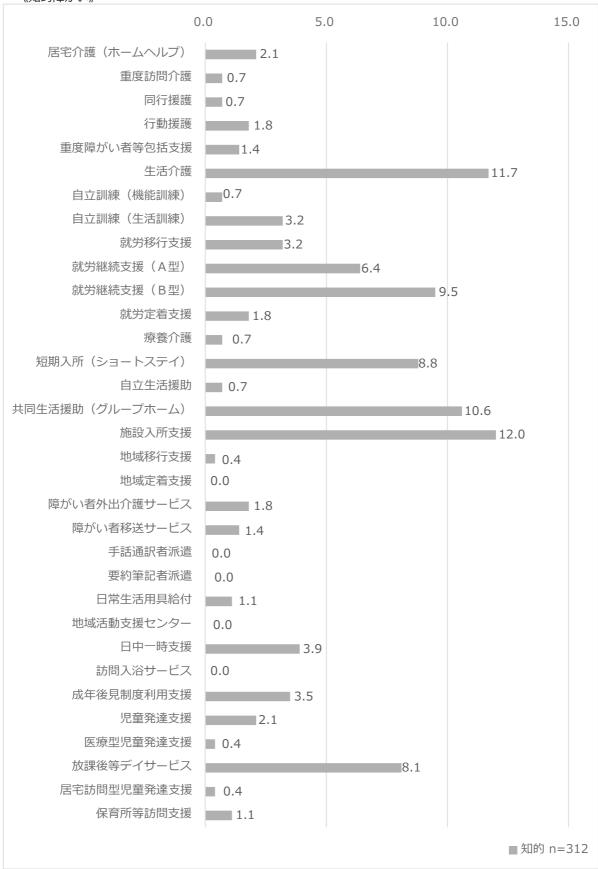


■ 障がい別にみると、身体障がいでは、「居宅介護(ホームヘルプ)」が 13.2%と最も多く、次いで「日常生活用具給付」が 8.3%、「自立訓練(機能訓練)」が 8.2%、「生活介護」が 8.1%、「障がい者移送サービス」が 7.6%となっています。



■ 知的障がいでは、「施設入所支援」が 12.0%と最も多く、次いで「生活介護」が 11.7%、「共同生活援助 (グループホーム)」が 10.6%、「就労継続支援 (B型)」が 9.5%、「短期入所 (ショートステイ)」が 8.8%となっています。

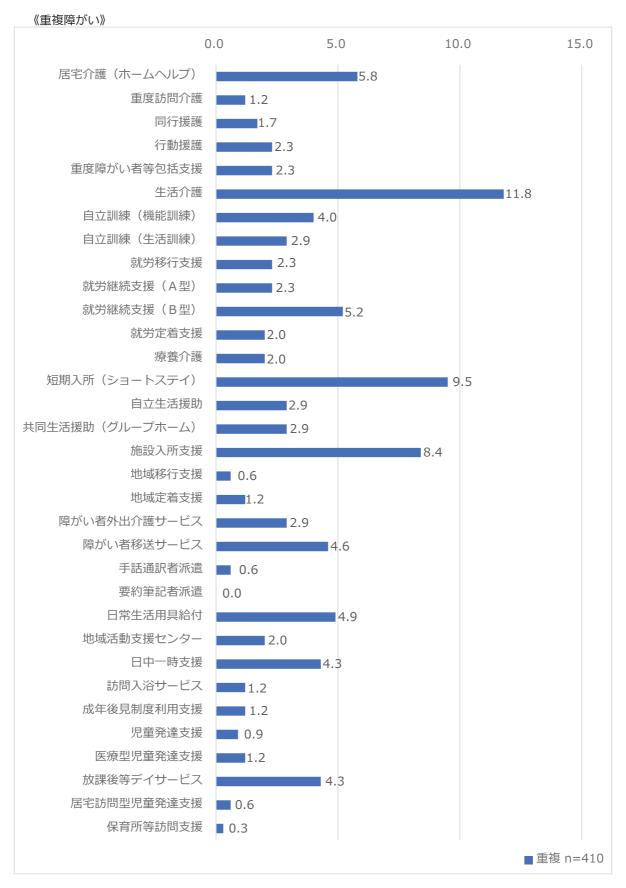




■ 精神障がいでは、「就労継続支援(B型)」が 12.8%と最も多く、次いで「就労継続支援(A型)」が 10.5%、「居宅介護(ホームヘルプ)」が 7.0%、「就労移行支援」が 6.4%となっています。



■ 重複障がいでは、「生活介護」が 11.8%と最も多く、次いで「短期入所 (ショートステイ)」が 9.5%、「施設入所支援」が 8.4%、「居宅介護 (ホームヘルプ)」が 5.8%となっています。



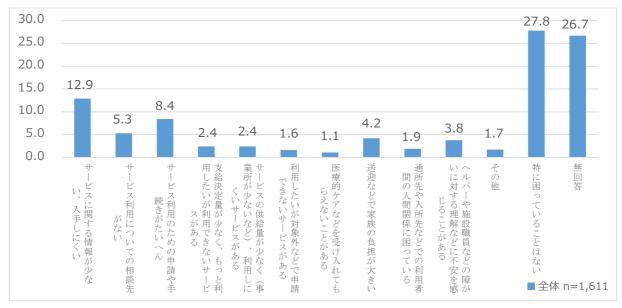
■ 年齢別にみると、6歳未満では、「放課後等デイサービス」が 47.1%と最も多く、次いで「児童発達支援」が 23.5%となっています。6歳以上 18歳未満では、「放課後等デイサービス」が 20.7%と最も多く、次いで「日中一時支援」が 9.3%となっています。18歳以上 40歳未満では、「短期入所 (ショートステイ)」が 12.7%と最も多く、次いで「就労継続支援 (B型)」が 10.0%となっています。40歳以上では、「生活介護」の割合が多くなっています。

《年齢別》 (単位:%)

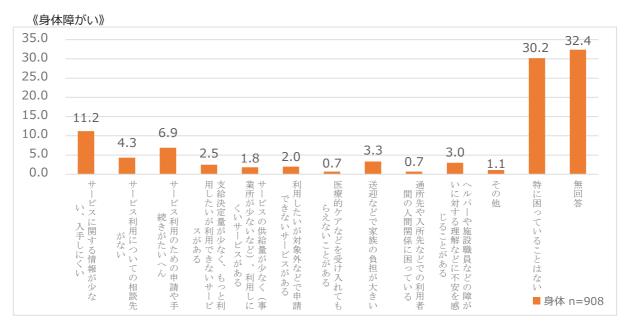
	6 歳未満	6歳以上	18 歳以上	40 歳以上	65 歳以上	75 歳以上
		18 歳未満	40 歳未満	65 歳未満	75 歳未満	
居宅介護(ホームヘルプ)	0.0	0.7	3.2	8.7	9.3	15.2
重度訪問介護	0.0	0.0	0.9	1.8	2.2	1.8
同行援護	0.0	0.7	1.4	3.0	3.6	5.2
行動援護	0.0	2.1	1.8	2.8	2.5	2.0
重度障がい者等包括支援	0.0	0.7	1.8	1.6	3.6	1.8
生活介護	0.0	4.3	9.1	10.5	11.5	8.2
自立訓練 (機能訓練)	0.0	2.9	2.7	4.6	7.2	7.5
自立訓練(生活訓練)	0.0	2.9	3.6	5.0	3.6	2.9
就労移行支援	0.0	5.7	3.6	2.8	0.0	0.7
就労継続支援(A型)	0.0	5.0	7.7	5.0	0.7	0.7
就労継続支援(B型)	0.0	5.7	10.0	8.1	1.1	0.7
就労定着支援	0.0	2.9	4.1	2.4	0.4	0.5
療養介護	0.0	0.0	0.0	1.8	3.6	3.2
短期入所 (ショートステイ)	0.0	7.9	12.7	3.6	4.7	7.7
自立生活援助	0.0	1.4	1.8	2.2	2.2	1.6
共同生活援助(グループホーム)	0.0	4.3	5.9	4.2	2.9	2.5
施設入所支援	0.0	2.1	7.7	8.1	6.8	8.6
地域移行支援	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.7
地域定着支援	0.0	0.0	0.0	1.8	0.7	0.7
障がい者外出介護サービス	0.0	2.9	1.8	4.2	6.1	4.8
障がい者移送サービス	0.0	5.0	4.1	4.0	8.6	5.7
手話通訳者派遣	0.0	0.0	0.5	1.0	0.7	0.9
要約筆記者派遣	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
日常生活用具給付	5.9	2.1	5.0	5.2	8.6	6.1
地域活動支援センター	0.0	0.0	1.4	1.6	2.2	1.4
日中一時支援	0.0	9.3	5.5	2.0	2.2	2.7
訪問入浴サービス	0.0	0.0	0.5	1.0	4.7	5.9
成年後見制度利用支援	0.0	2.1	3.2	2.2	0.4	0.2
児童発達支援	23.5	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
医療型児童発達支援	5.9	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	47.1	20.7	0.0	0.0	0.4	0.0
居宅訪問型児童発達支援	5.9	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
保育所等訪問支援	11.8	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0

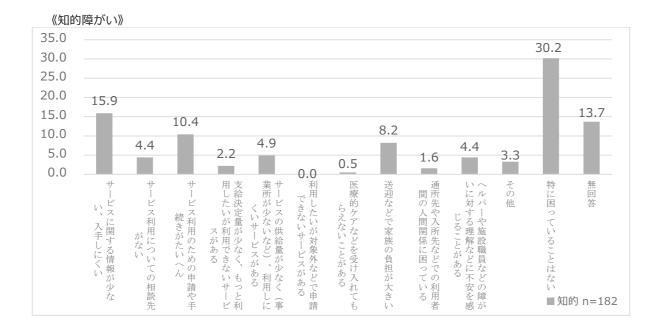
問 20 サービスの利用で困っていることはありますか。

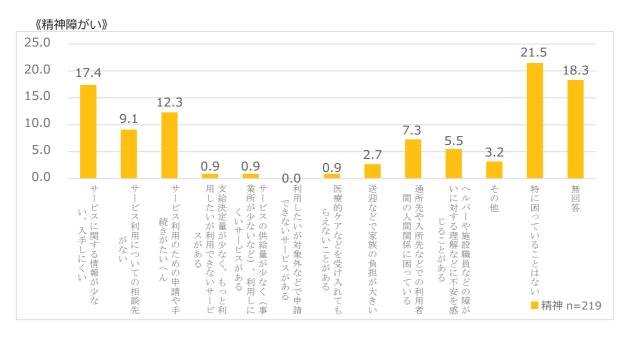
■ サービスの利用で困っていることについては、「特に困っていることはない」が 27.8%と最も 多く、次いで「サービスに関する情報が少ない、入手しにくい」が 12.9%、「サービス利用の ための申請や手続きがたいへん」が 8.4%、「サービス利用についての相談先がない」が 5.3% となっています。

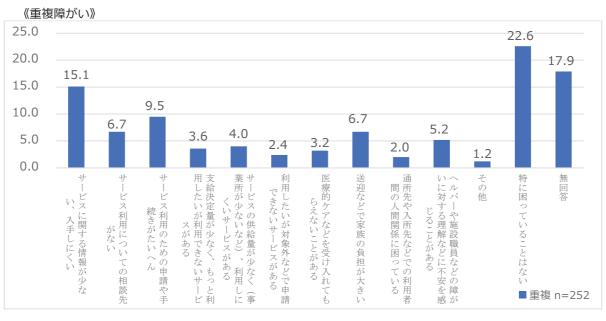


■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「送迎などで家族の負担が大きい」「サービスの供給量が少なく(事業所が少ないなど)、利用しにくいサービスがある」が多く、精神障がいでは「通所先や入所先などでの利用者間の人間関係に困っている」が多く、重複障がいでは、「送迎などで家族の負担が大きい」「ヘルパーや施設職員などの障がいに対する理解などに不安を感じることがある」が多くなっています。



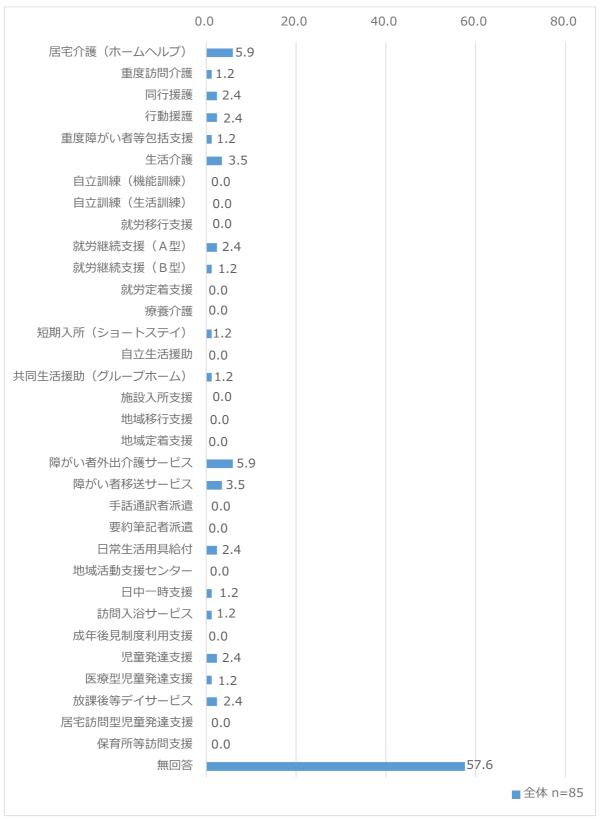






問 20-2 それはどのようなサービスでしょうか。

■ 「支給決定量が少ない」「サービス供給量が少ない」「対象外のサービスがある」との理由で利用に困っているサービスについては、「居宅介護(ホームヘルプ)」「障がい者外出介護サービス」が 5.9%と最も多く、次いで「生活介護」「障がい者移送サービス」がともに 3.5%となっています。



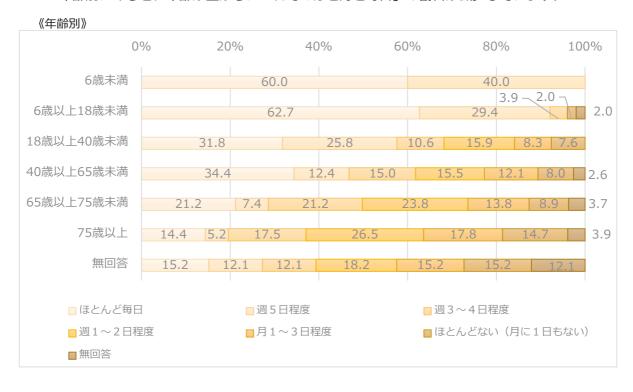
1-6 外出や移動手段について

問21 あなたは普段、どの程度外出しますか。

- 1週間の外出の頻度については、「ほとんど毎日」が 26.1%と最も多く、次いで「週1~2日程度」が 20.0%、「週3~4日程度」が 16.0%、「月1~3日程度」が 13.3%となっており、 週に1回以上外出する方は 73.5%を占めています。
- 障がい別にみても、「ほとんど毎日」が最も多くなっています。

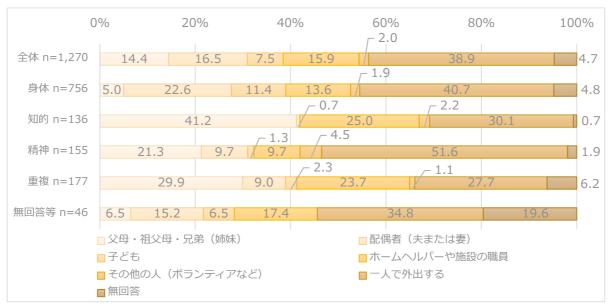


■ 年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「ほとんど毎日」の割合が減少しています。

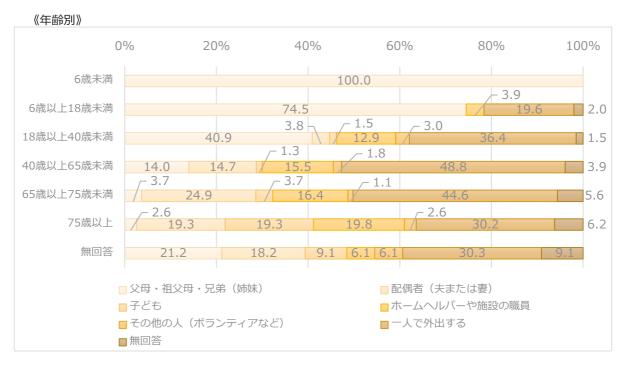


問 22 あなたが外出する際の主な同伴者はどなたですか。

- 外出する際の主な同伴者については、「一人で外出する」が 38.9%と最も多く、次いで「配偶者(夫または妻)」が 16.5%、「ホームヘルパーや施設の職員」が 15.9%となっています。
- 障がい別にみると、知的障がい、重複障がいでは「父母・祖父母・兄弟」が最も多くなっています。



■ 年齢別にみると、18歳未満で「父母・祖父母・兄弟(姉妹)」が7割以上と最も多くなっています。40歳以上では「一人で外出する」が最も多くなっています。

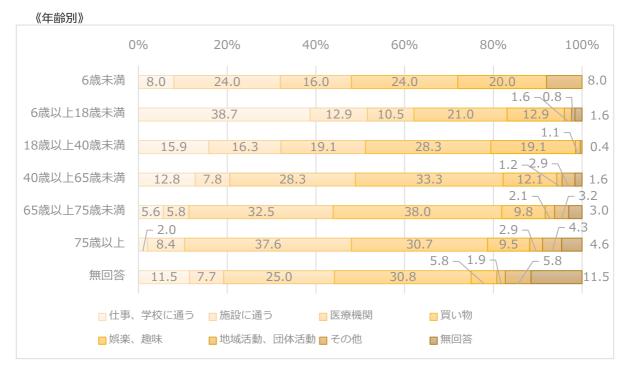


問23 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。

- どのような目的で外出することが多いかについては、「買い物」が 32.1%と最も多く、次いで「医療機関」が 29.4%、「娯楽、趣味」が 11.7%となっています。
- 障がい別にみると、知的障がいで「仕事、学校に通う」が、全体の傾向と比べて多くなっています。

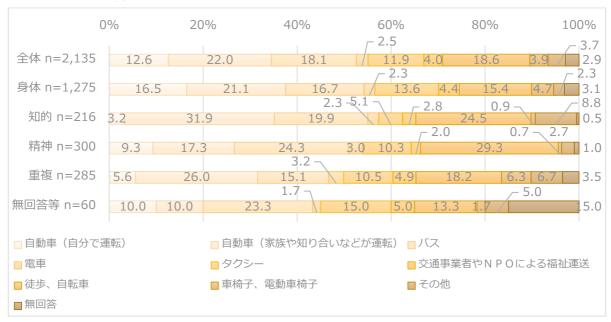


■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6 歳未満で「施設に通う」が多く、6 歳以上 18 歳未満で「仕事、学校に通う」が多くなっています。



問24 あなたは、どのような手段で外出することが多いですか。

- どのような手段で外出することが多いかについては、「自動車(家族や知り合い等が運転)」が 22.0%と最も多く、次いで「徒歩・自転車」が 18.6%、「バス」が 18.1%、「自動車(自分で 運転)」が 12.6%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がい、精神障がいでは「自動車(家族や知り合いが運転)」が多くなっています。

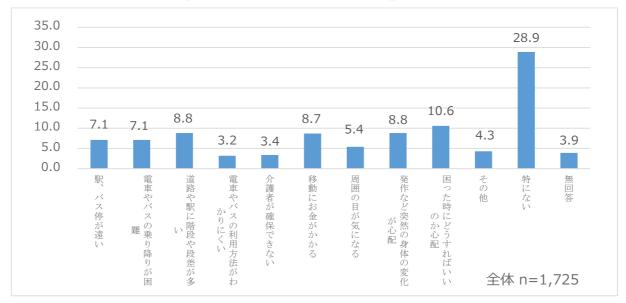


■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6歳以上 65歳未満では「徒歩・自転車」が多く、75歳以上では「タクシー」が多くなっています。

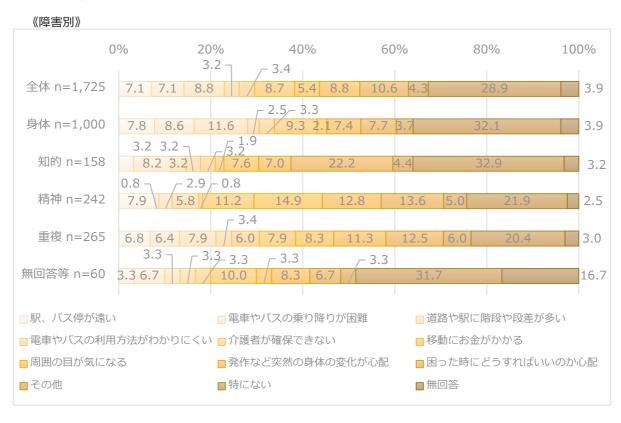


問 25 外出するときに困ることは何ですか。

■ 外出する時に困ることについてたずねたところ、「特にない」が 28.9%と最も多く、次いで「困った時にどうすればいいのか心配」が 10.6%、「発作など突然の身体の変化が心配」「道路や駅に階段や段差が多い」が 8.8%、「移動にお金がかかる」が 8.7%となっています。



■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、身体障がいでは「道路や駅に階段や段差が多い」、知 的障がいでは「困った時にどうすればいいのか心配」「電車やバスの利用方法がわかりにくい」、 精神障がいでは「周囲の目が気になる」、重複障がい者では「困った時にどうすればいいのか 心配」が多くなっています。



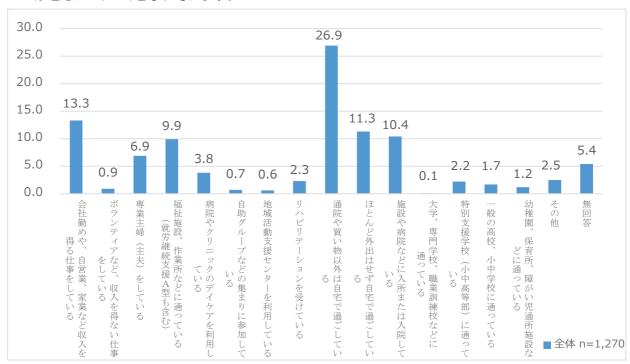
■ 年齢別にみると、65 歳未満では「困った時にどうすればいいのか心配」、65 歳以上 75 歳未満では「道路や駅に階段や段差が多い」、75 歳以上では「移動にお金がかかる」が多くなっています。



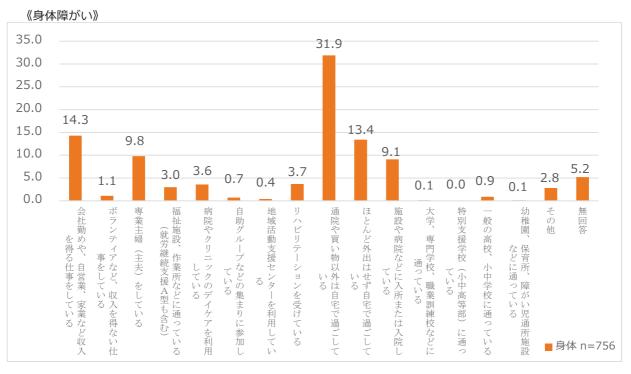
1-7 日中活動について

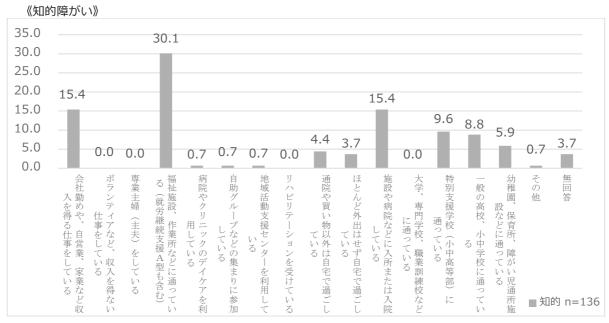
問26 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。

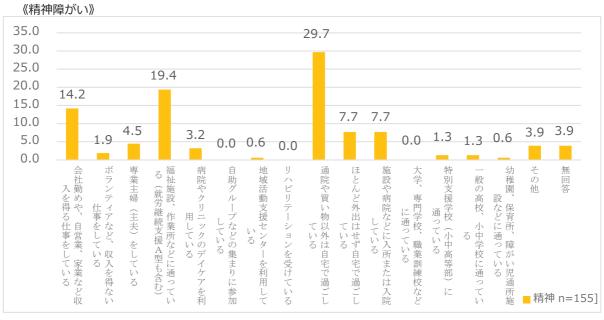
■ 平日の主な過ごしかたについては、「通院や買い物以外は自宅で過ごしている」が 26.9%と最も多く、次いで「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が 13.3%、「ほとんど外出せず自宅で過ごしている」が 11.3%、「施設や病院などに入所または入院している」がともに 10.4%となっています。

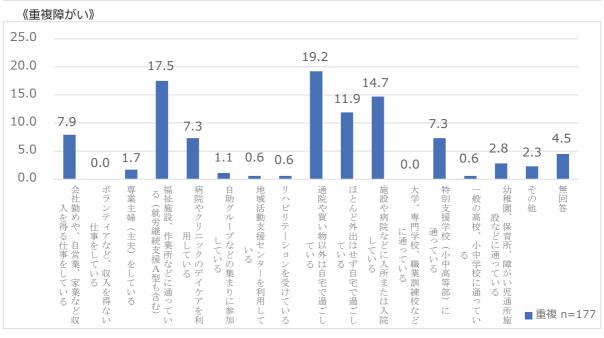


■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がい、重複障がいで「福祉施設、作業所など に通っている(就労継続支援A型も含む)」が多くなっています。



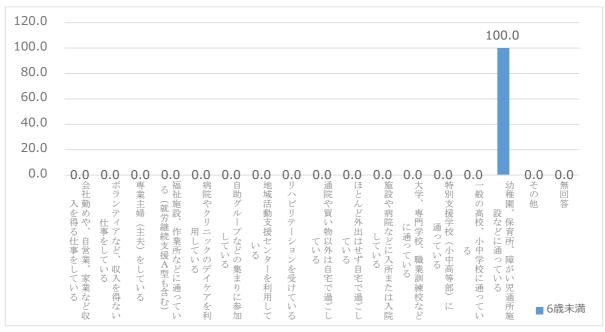




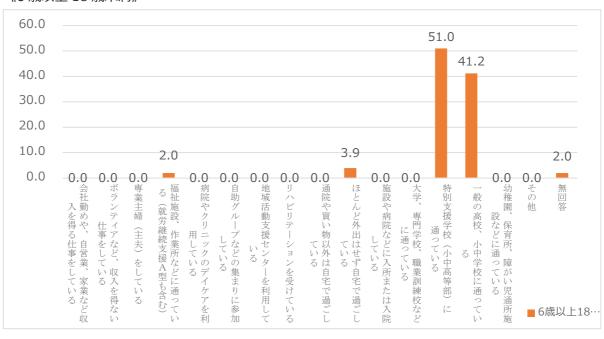


■ 年齢別には、全体の傾向と比べて、6歳未満では「幼稚園、保育所、障がい児通所施設などに通っている」が多く、6歳以上 18歳未満では「特別支援学校(小中高等部)に通っている」「一般の高校、小中学校に通っている」が多くなっています。18歳以上 40歳未満では「福祉施設、作業所などに通っている(就労継続支援 A 型も含む)」が多くなっています。65歳以上では「ほとんど外出はせず自宅で過ごしている」が多くなっています。

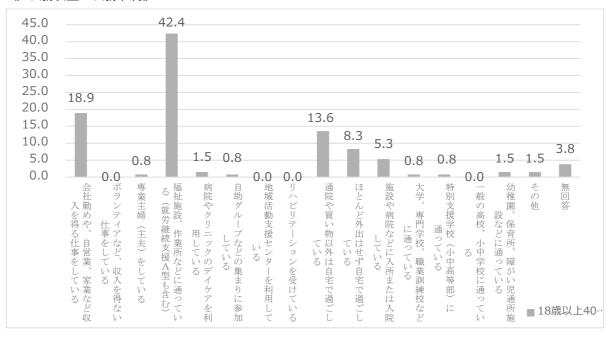
《6歳未満》



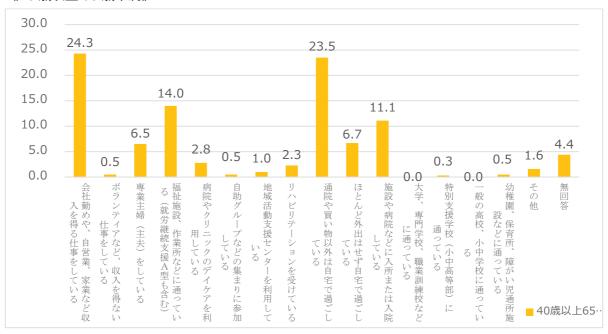
《6歳以上18歳未満》



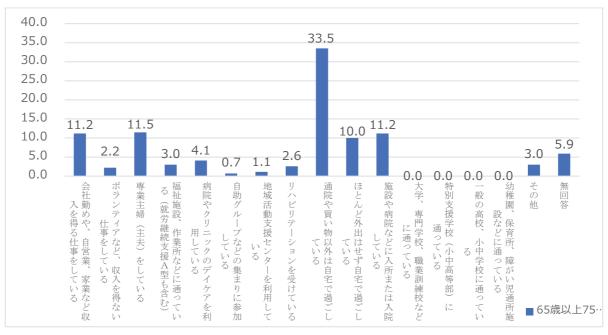
《18 歳以上 40 歳未満》

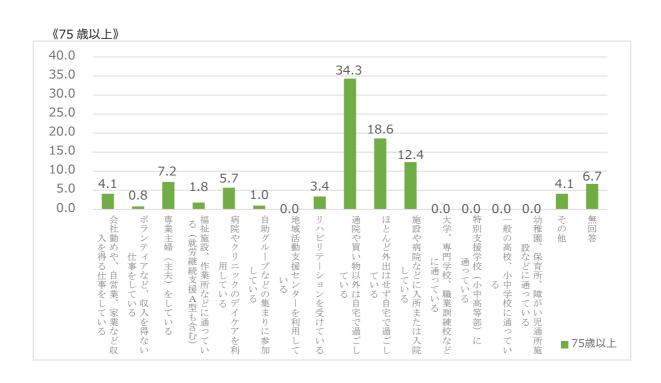


《40 歳以上 65 歳未満》



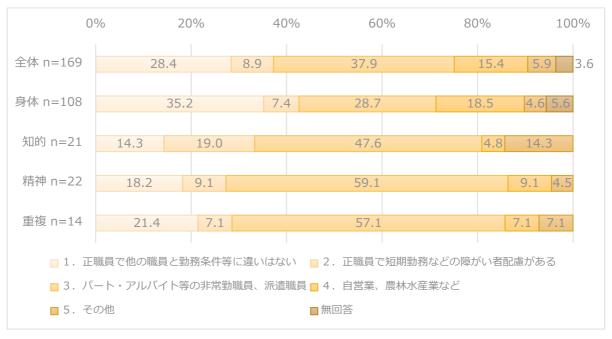
《65 歳以上 75 歳未満》



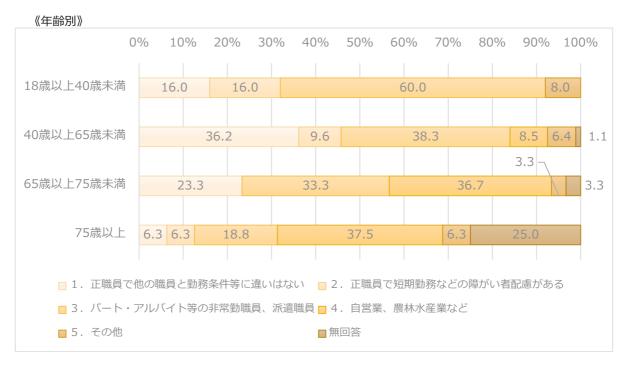


問 27 どのような勤務形態で働いていますか。

■ 問26で「会社勤めや、自営業、家業など収入を得る仕事をしている」と答えた方で、どのような勤務形態で働いているかについては、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が37.9%と一番多く、次いで「正職員で他の職員と勤務条件に違いはない」が28.4%となっています。

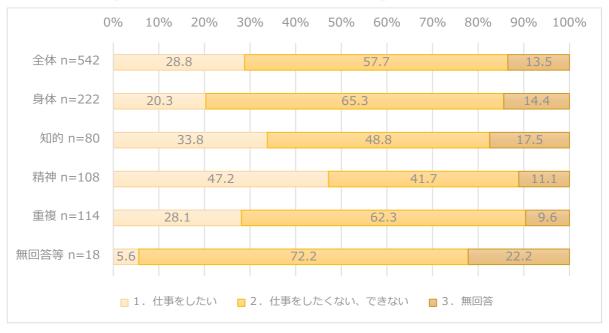


■ 年齢別にみると、18歳以上40歳未満では「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が60%と一番多く、40歳以上65歳未満では「正職員で他の職員と勤務条件に違いはない」が36.2%と多くなっています。



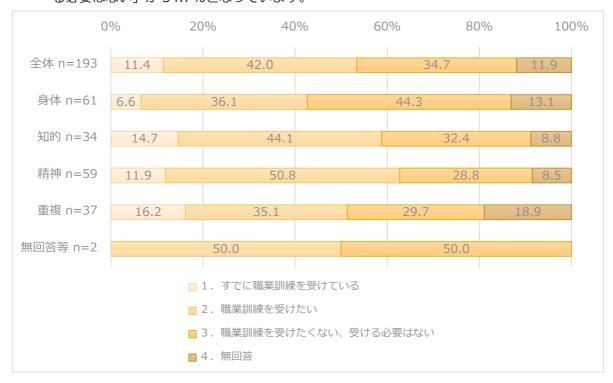
問 28 あなたは今後収入を得る仕事をしたいと思いますか。

■ 現在収入を得る仕事をしていない方で、今後収入を得る仕事をしたいと思うかについては、「仕事をしたい」が 28.8%、「仕事をしたくない、できない」が 57.7%となっています。



問 29 収入を得る仕事をするために、職業訓練を受けたいと思いますか。

■ 収入を得る仕事をするために、職業訓練を受けたいと思うかについては、「すでに職業訓練を受けている」が 11.4%、「職業訓練を受けたい」が 42.0%、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が 34.7%となっています。



問 30 あなたは自宅や職場、学校以外で日中過ごす場は必要だと思いますか。

■ 問26で「ほとんど外出はせず自宅で過ごしている」と答えた精神障がいのある方が、自宅や職場、学校以外で日中過ごす場は必要だと思うかについては、「必要だと思う」が40.0%、「必要だと思わない」が40.0%となっています。



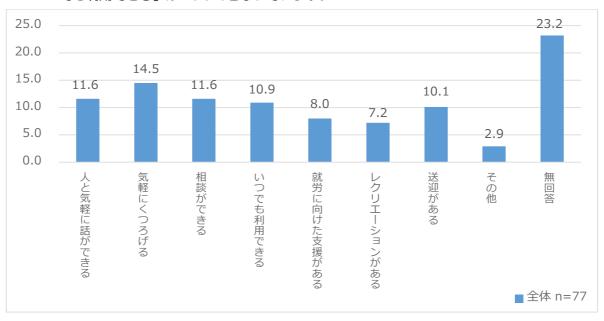
問30-2 あなたが必要だと思わないとお答えになった理由はどれですか。

■ 自宅や職場、学校以外で日中過ごす場について必要だと思わないと答えた方の理由については、「人と会うことが苦手」が 50.0%、「出かけることが面倒」が 50.0%となっています。



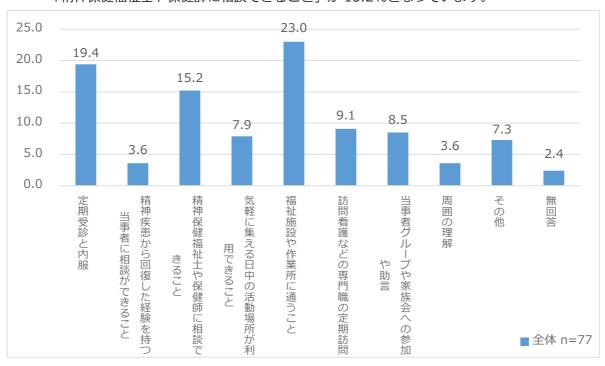
問 31 あなたが利用してみたいと思う日中活動の場所はどのような所ですか。

■ 利用してみたいと思う日中活動の場所はどのような所かについては、「気軽にくつろげる」が 14.5%と最も多く、次いで「人と気軽に話ができる」「相談ができる」がともに 11.6%、「い つでも利用できる」が 10.9%となっています。



問 31-2 あなたは精神疾患を抱える人々が病気を悪化させず、地域で 安定して暮らすには何が必要だと思いますか。

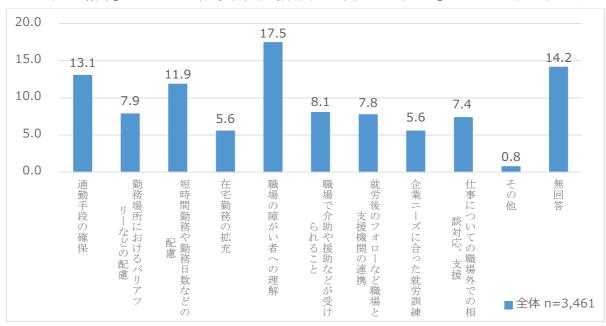
■ 精神疾患を抱える人々が病気を悪化させず、地域で安定して暮らすには何が必要かについては、「福祉施設や作業所に通うこと」が 23.0%と最も多く、次いで「定期受診と内服」が 19.4%、「精神保健福祉士や保健師に相談できること」が 15.2%となっています。



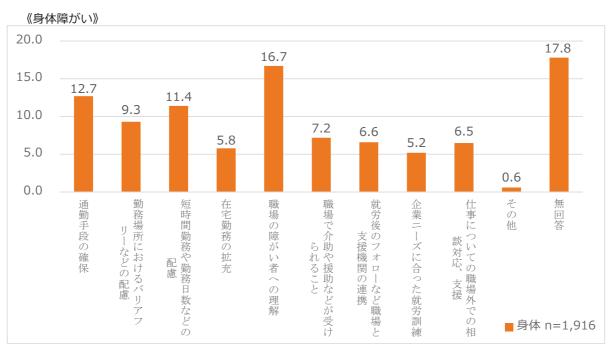
1-8 就労について

問 32 あなたは、障がいのあるかたの就労支援として、どのようなこと が必要だと思いますか。

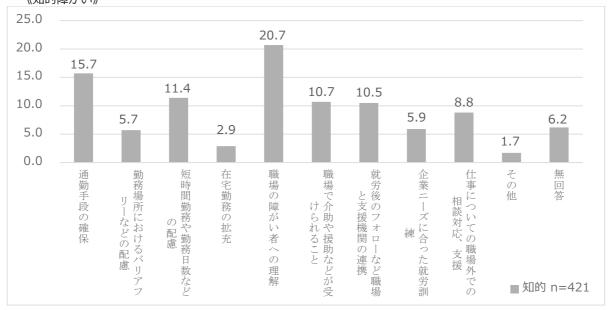
■ 障がいのある方の就労支援として、どのようなことが必要かについては、「職場の障がい者への理解」が17.5%と最も多く、次いで「通勤手段の確保」が13.1%、「短時間勤務や勤務日数などの配慮」が11.9%、「職場で介助や援助などが受けられること」が8.1%となっています。



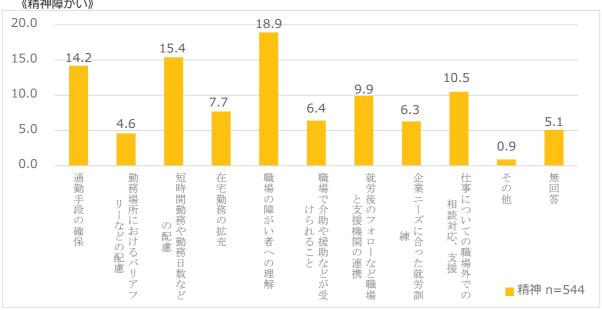
■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、精神障がいでは「短時間勤務や勤務日数などの配慮」、 「仕事についての職場外での相談対応、支援」が多くなっています。



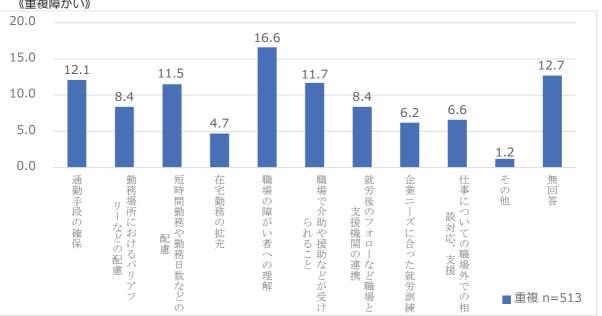
《知的障がい》



《精神障がい》

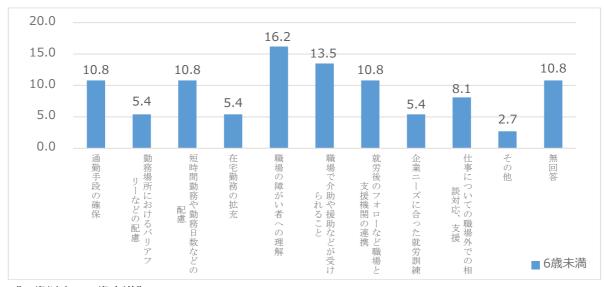


《重複障がい》

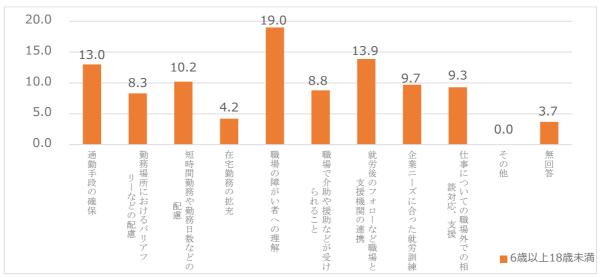


■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6歳以上 18歳未満では「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」が多くなっています。

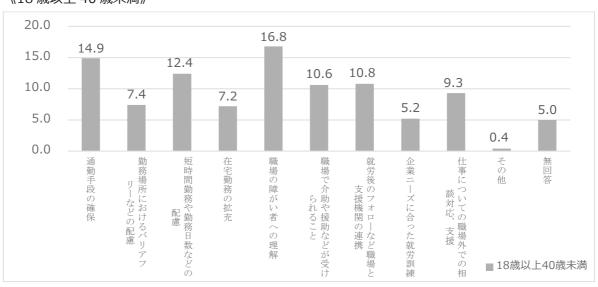
《6歳未満》



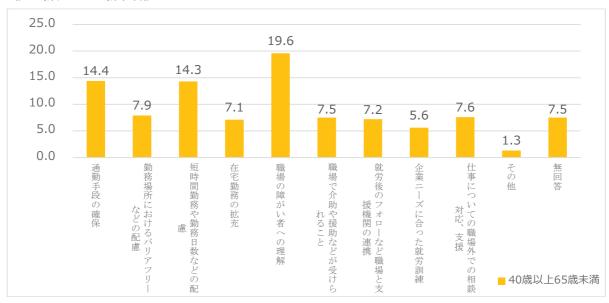
《6歳以上18歳未満》



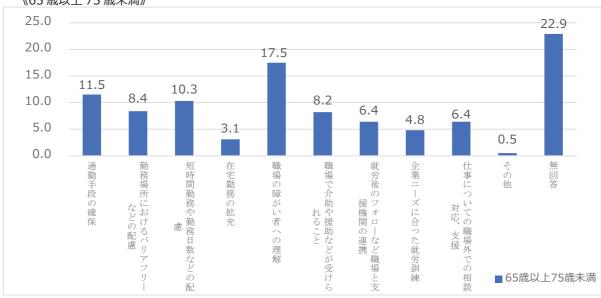
《18 歳以上 40 歳未満》



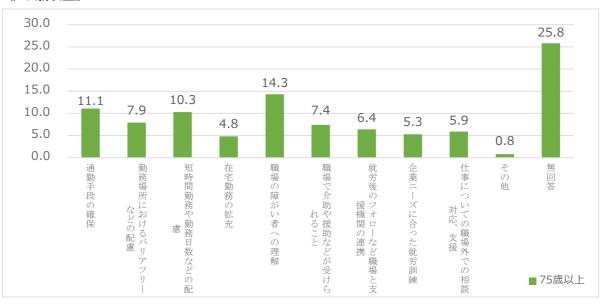
《40 歳以上 65 歳未満》



《65 歳以上 75 歳未満》

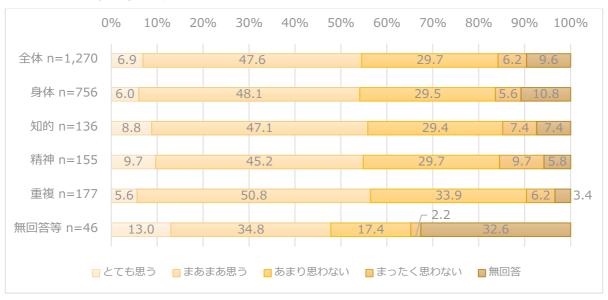


《75 歳以上》

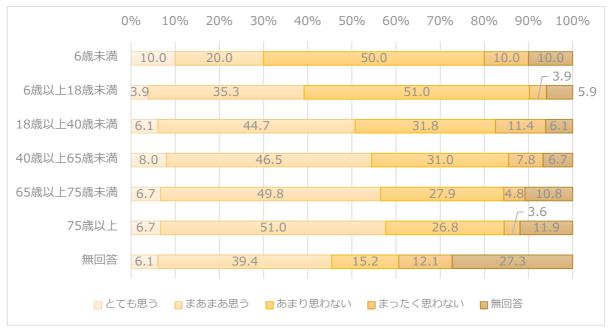


1-9 暮しやすさや将来の生活について

- 問 33 あなたは、青森市は障がいのあるかたにとって暮らしやすいま ちだと思いますか。
 - 障がい者にとって暮らしやすいまちかどうかについては、「まあまあ思う」が 47.6%と最も多く、次いで「あまり思わない」が 29.7%、「とても思う」が 6.9%、「まったく思わない」が 6.2%となっています。

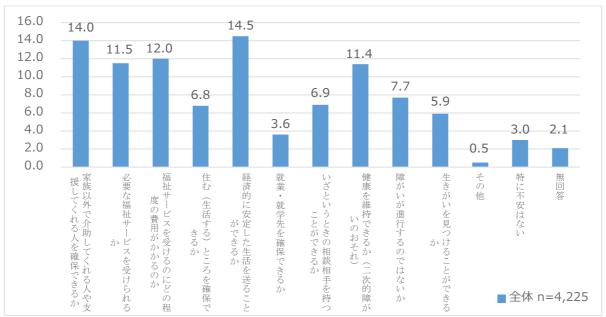


■ 年齢別にみると6歳未満、6歳以上18歳未満では「あまり思わない」の割合が多くなっています。

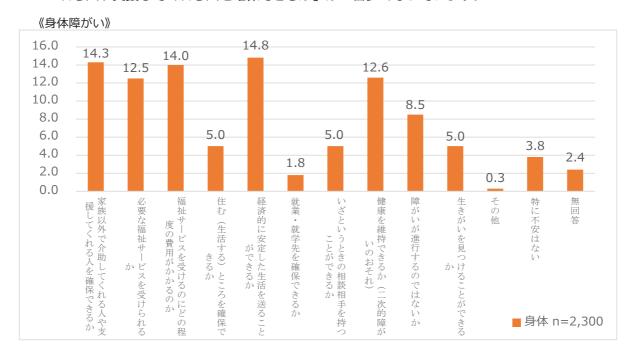


問34 将来の生活に対する不安についてお答えください。

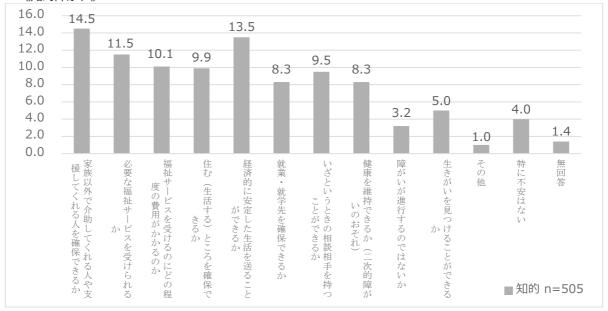
■ 将来の生活に対する不安についてたずねたところ、「経済的に安定した生活を送ることができるか」が 14.5%と最も多く、次いで「家族以外で介助してくれる人や支援してくれる人を確保できるか」が 14.0%、「福祉サービスを受けるのにどの程度の費用がかかるのか」が 12.0%、「必要な福祉サービスを受けられるか」が 11.5%、「健康を維持できるか(二次的障がいのおそれ)」が 11.4%となっています。



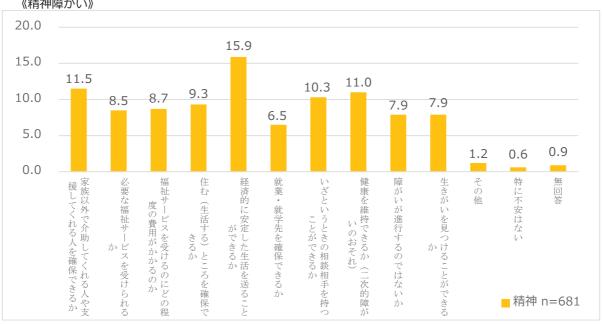
■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいと重複障がいで「家族以外で介助してくれる人や支援してくれる人を確保できるか」が一番多くなっています。



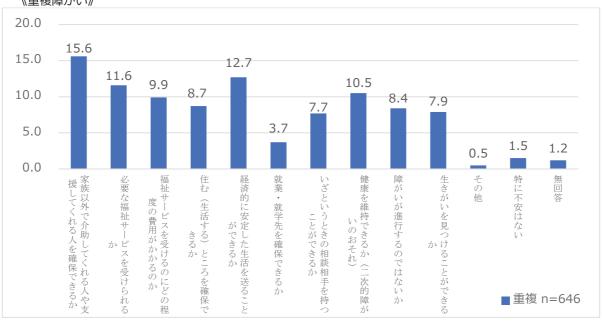
《知的障がい》



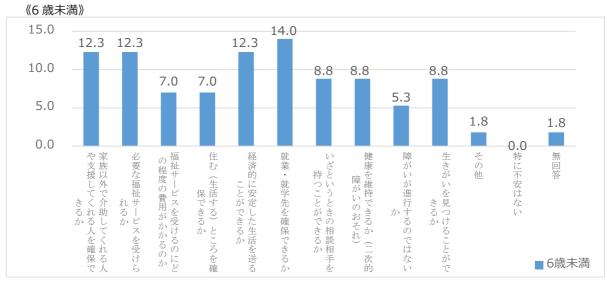
《精神障がい》

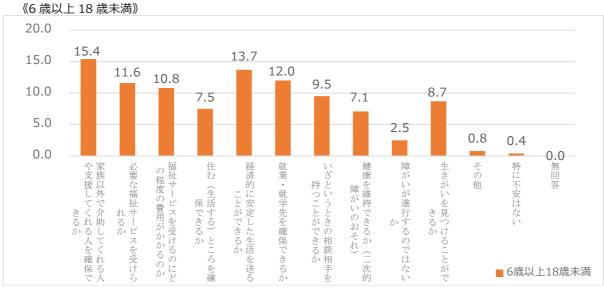


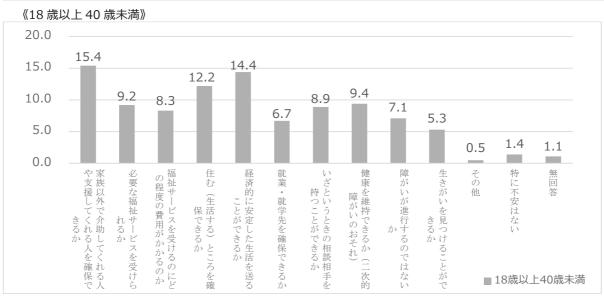
《重複障がい》



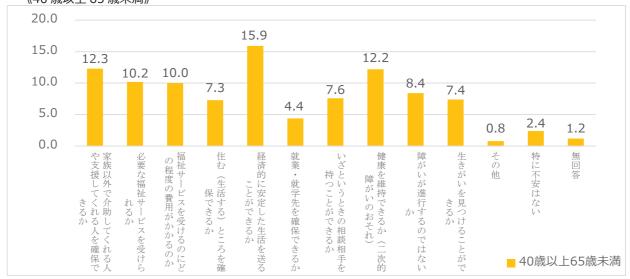
■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6歳以上 18歳未満、18歳以上 40歳未満では「家族 以外で介助してくれる人や支援してくれる人を確保できるか」が多くなっています。

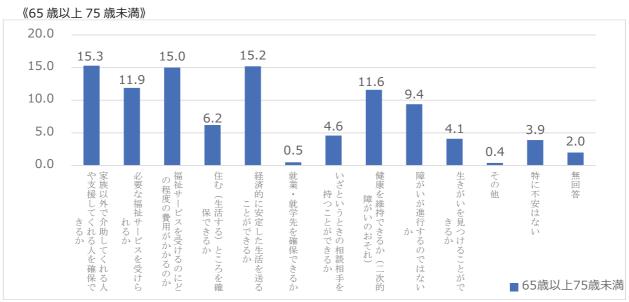


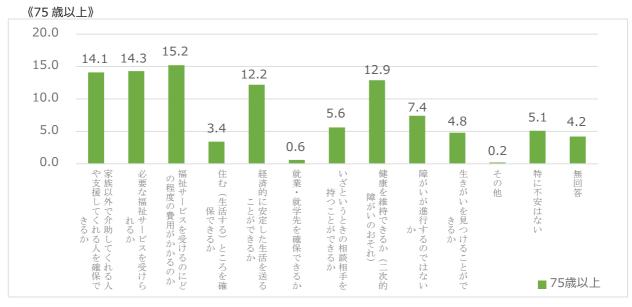




《40 歳以上 65 歳未満》



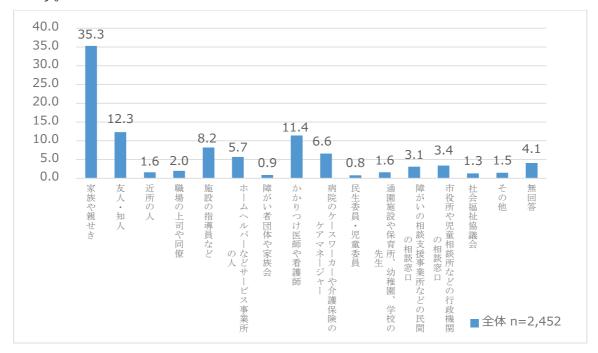




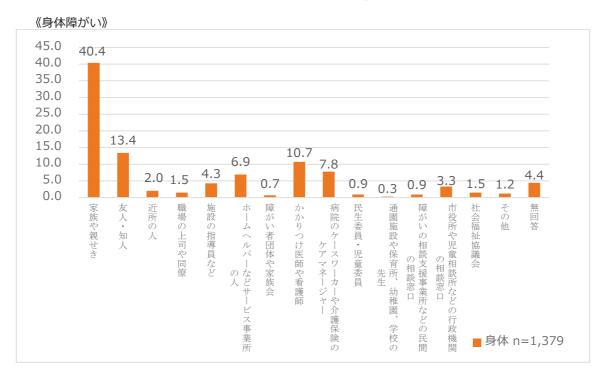
1-10 相談について

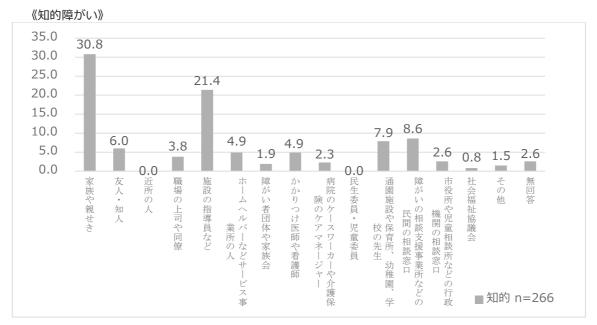
問35 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。

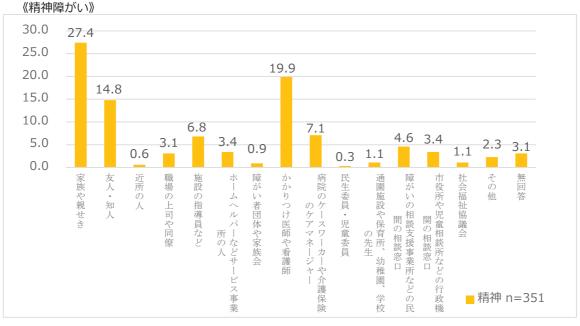
■ 普段、悩みや困ったことをどなたに相談するかについては、「家族や親せき」が 35.3%と最も 多く、次いで「友人・知人」が 12.3%、「かかりつけ医師や看護師」が 11.4%となっています。

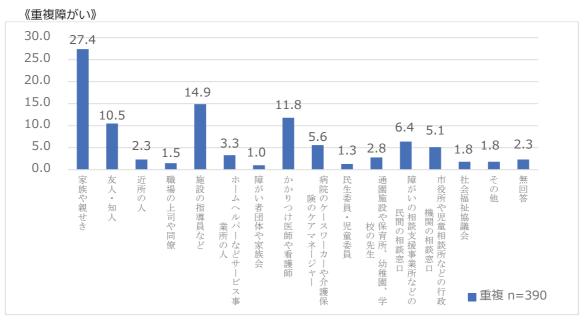


■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がい、重複障がいでは「施設の指導員など」 が多く、精神障がいでは「かかりつけ医師や看護師」が多くなっています。

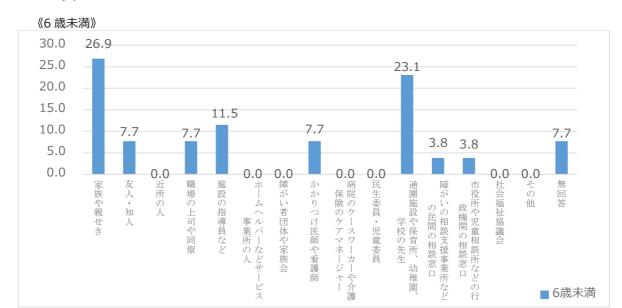


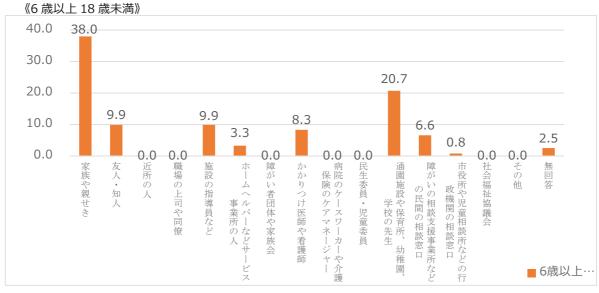


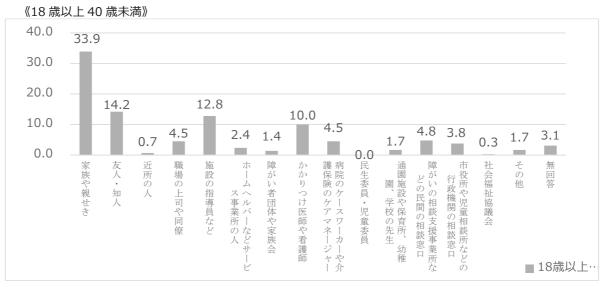




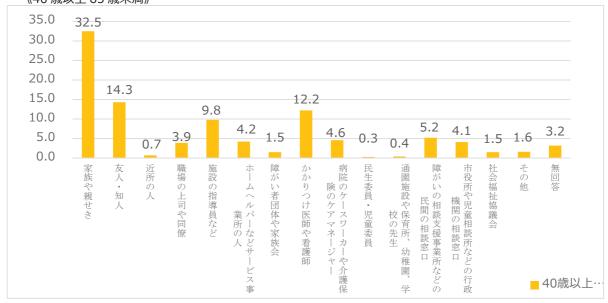
■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6 歳未満、6 歳以上 18 歳未満では「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が多く、40 歳以上 65 歳未満では「友人・知人」が多くなっています。



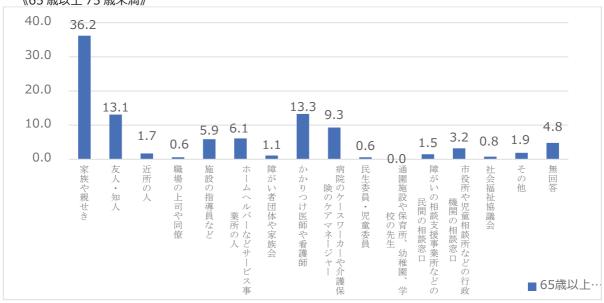




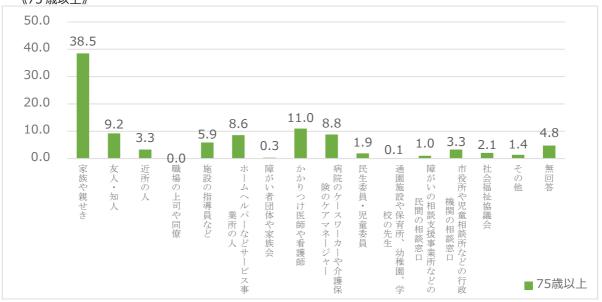
《40 歳以上 65 歳未満》



《65 歳以上 75 歳未満》



《75 歳以上》



1-11 権利擁護について

問 36 あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験がありますか。

- 障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験があるかについては、「ない」が 61.0%と最も多く、次いで「過去に経験がある」が 20.9%、「現在もある」が 11.0%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、身体障がいでは「ない」が 70.9%と多く、知的障が い、精神障がい、重複障がいで「過去に経験がある」が多くなっています。

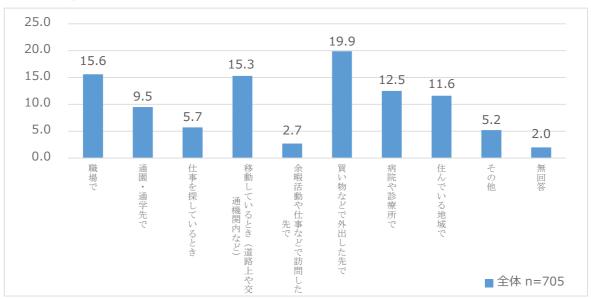


■ 年齢別にみると、6歳未満では「現在もある」が50.0%で最も多く、18歳以上40歳未満では「過去に経験がある」が40.2%で最も多くなっています。18歳以上では年齢が上がるにつれて「ない」が多くなっています。

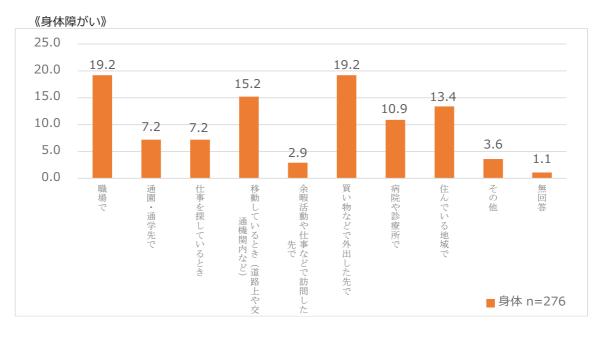


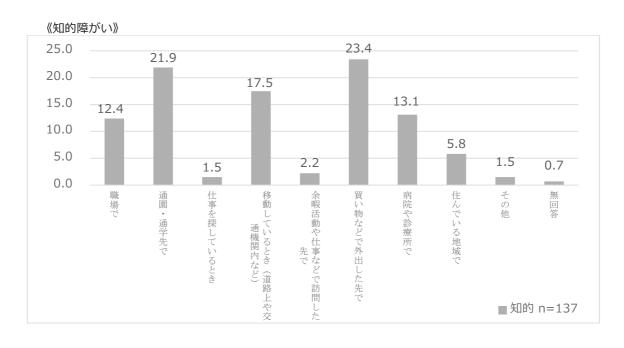
問 37 あなたは、どのような場所で差別を受けたり、いやな思いをしましたか。

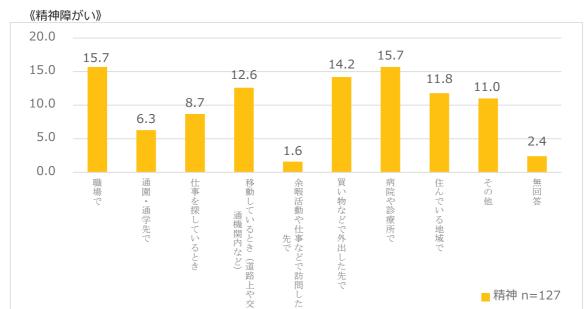
■ 現在や過去に障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験がある方が、どのような場所で差別を受けたり、いやな思いをしたかについては、「買い物などで外出した先で」が19.9%と最も多く、次いで「職場で」が15.6%、「移動しているとき(道路上や交通機関内など)」が15.3%、「病院や診療所で」が12.5%、「住んでる地域で」が11.6%、「通園・通学先で」が9.5%となっています。

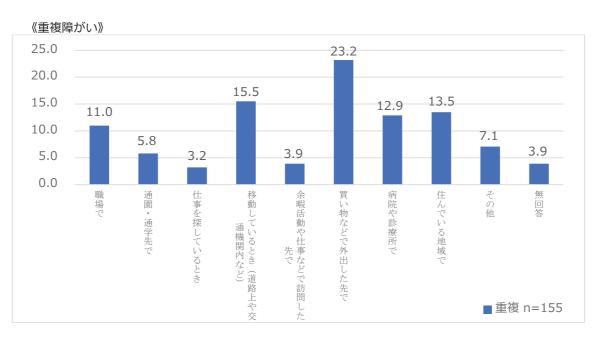


■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいで「通園・通学先で」が多く、精神障がいで「職場で」「病院や診療所で」「その他」が多くなっています。



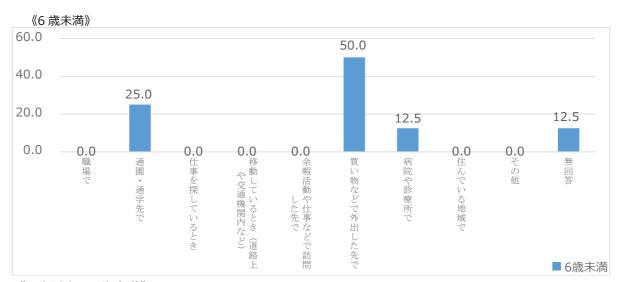




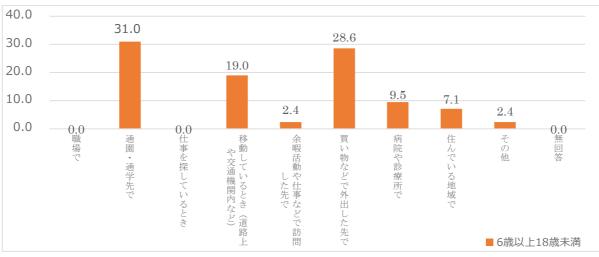


《年齢別》

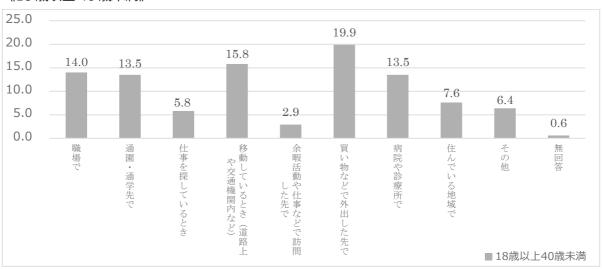
■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、18歳未満で「通園・通学先で」が多く、18歳以上で 「職場で」が多く、75歳以上で「住んでいる地域で」が多くなっています。



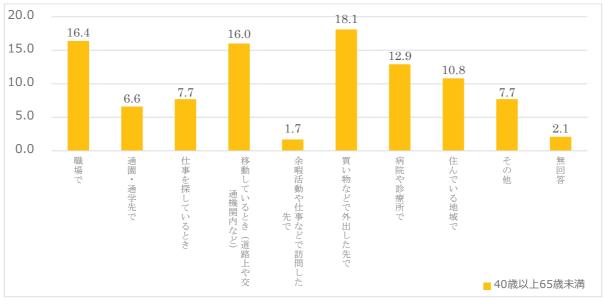
《6歳以上18歳未満》



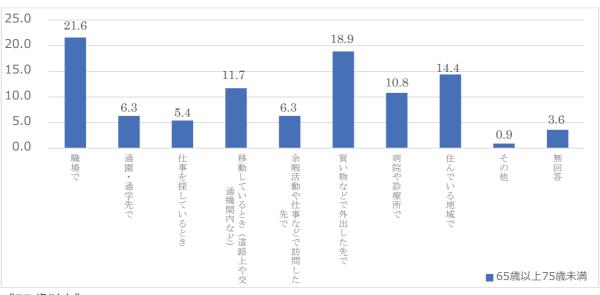
《18 歳以上 40 歳未満》



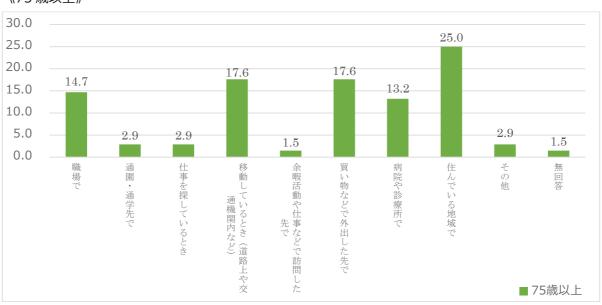
《40 歳以上 65 歳未満》



《65 歳以上 75 歳未満》

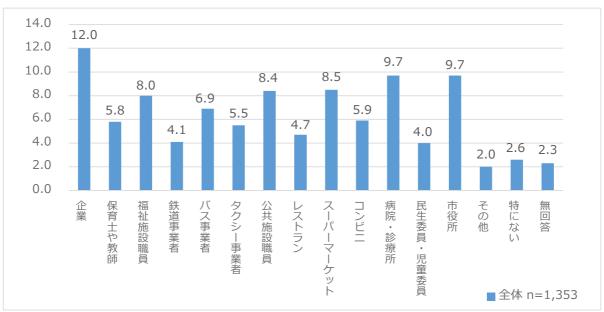


《75 歳以上》

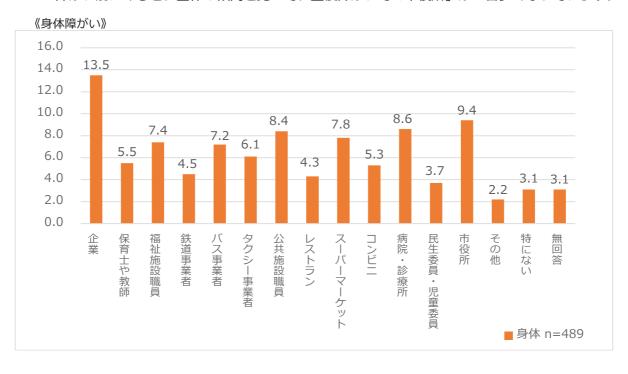


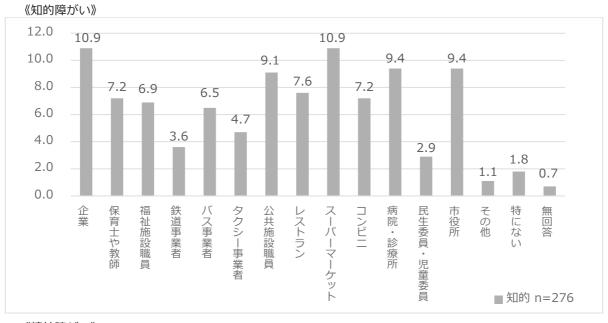
問 37-2 あなたは、差別がなくなるために、障がいや障がいのあるか たに対する理解啓発が今以上に進むとよいと思う先はどこですか。

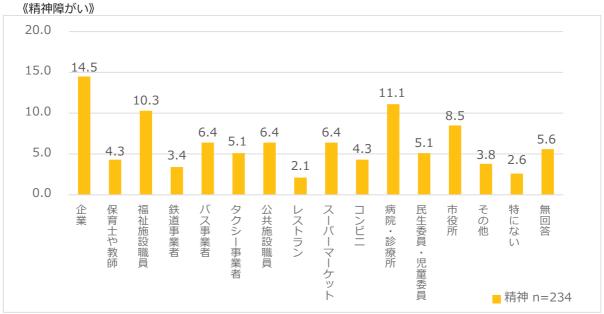
■ 現在や過去に障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験がある方に差別がなくなるために、障がいや障がいのある方に対する理解啓発が今以上に進むとよいと思う先については、「企業」が12.0%と最も多く、次いで「病院・診療所」「市役所」が9.7%、「スーパーマーケット」が8.5%、「公共施設職員」が8.4%、「福祉施設職員」が8.0%となっています。

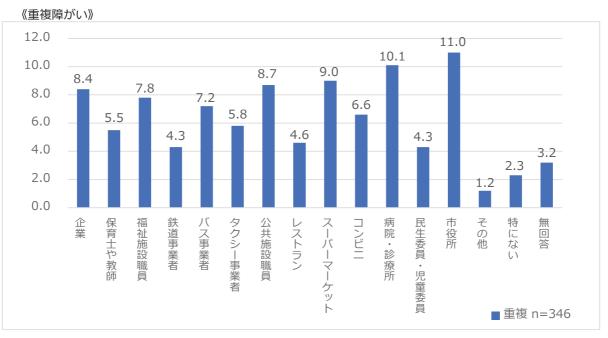


■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、重複障がいで「市役所」が一番多くなっています。

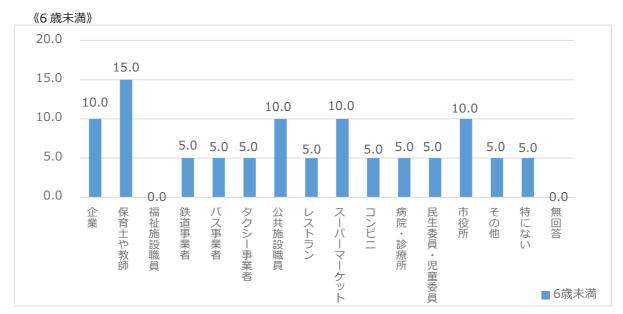


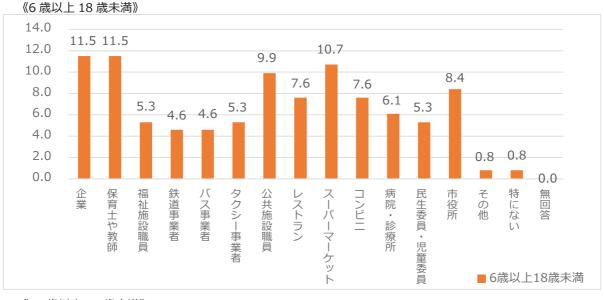


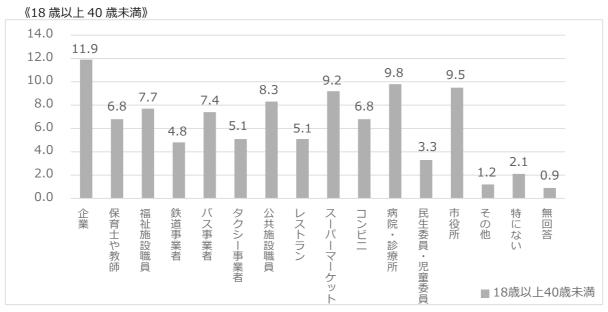




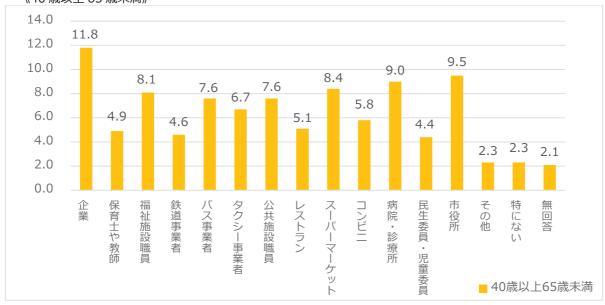
■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6 歳未満、6 歳以上 18 歳未満では「保育士や教師」 が多く、65 歳以上 75 歳未満では「病院・診療所」が多くなっています。



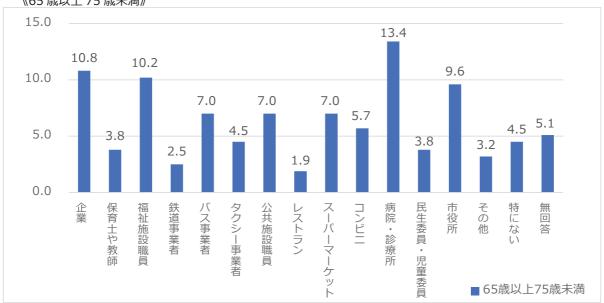




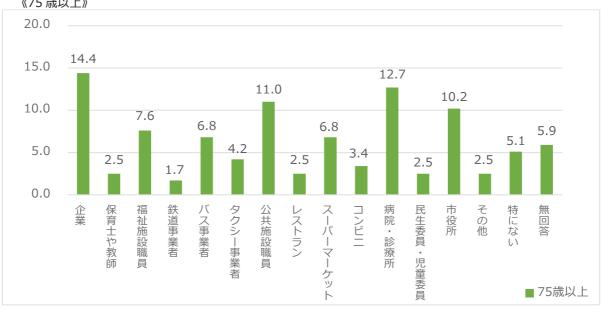
《40 歳以上 65 歳未満》



《65 歳以上 75 歳未満》

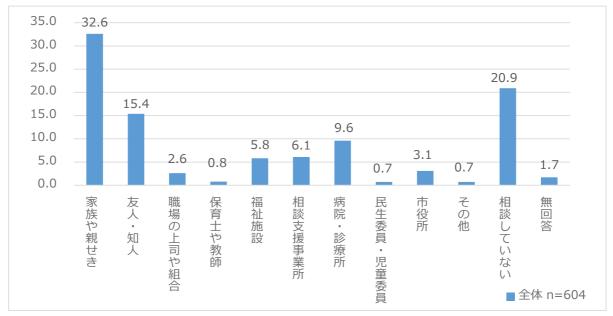




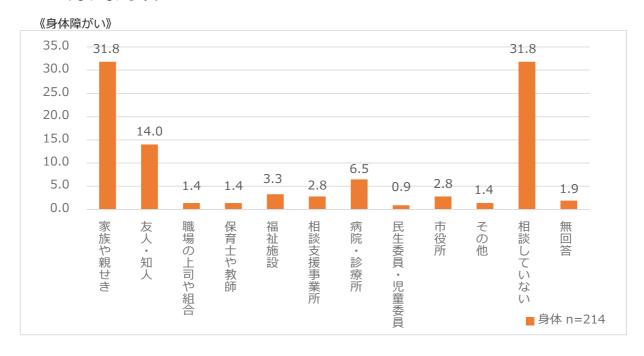


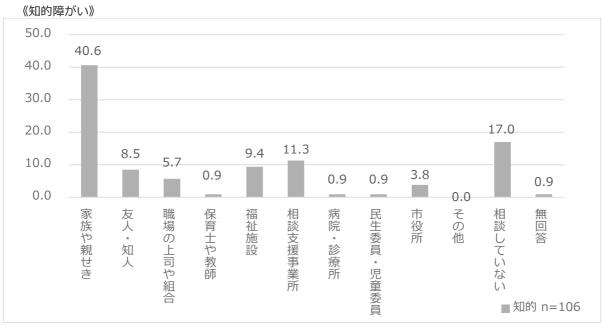
問37-3 あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした際にどこに相談しましたか。

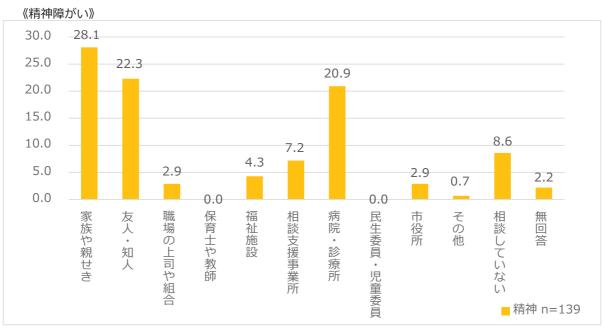
■ 現在や過去に障がいがあることで差別を受けたり、いやな思いをした経験がある方が、差別を受けたり、いやな思いをした際にどこに相談したかについては、「家族や親せき」が32.6%と最も多く、次いで「相談していない」が20.9%、「友人・知人」が15.4%、「病院・診療所」が9.6%となっています。

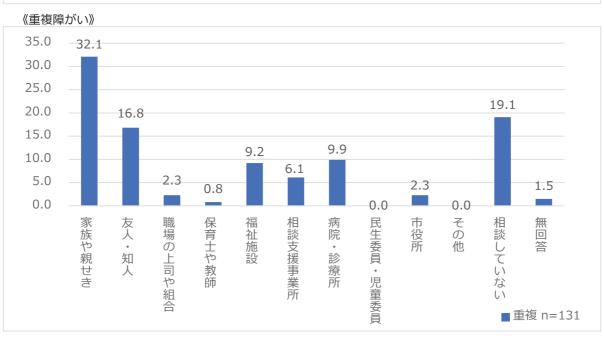


■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、精神障がいでは「友人・知人」「病院・診療所」が多くなっています。

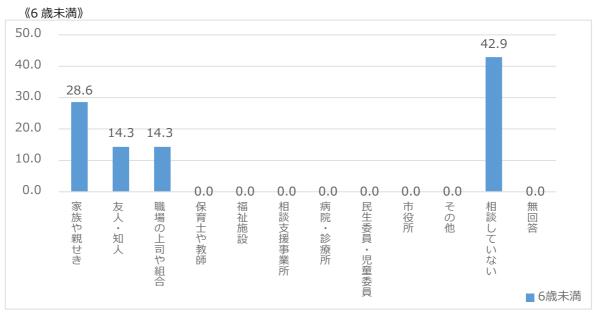


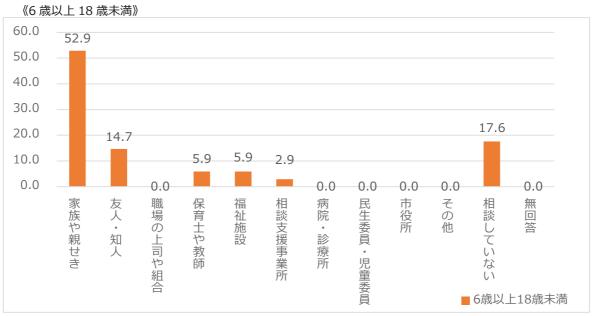


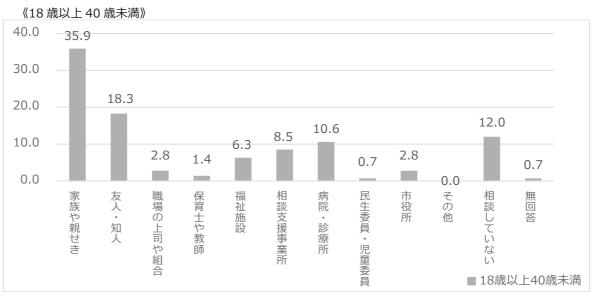


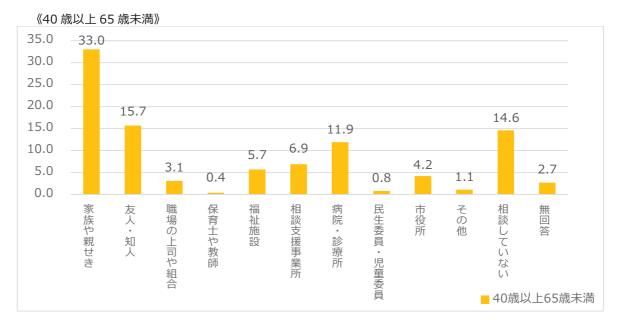


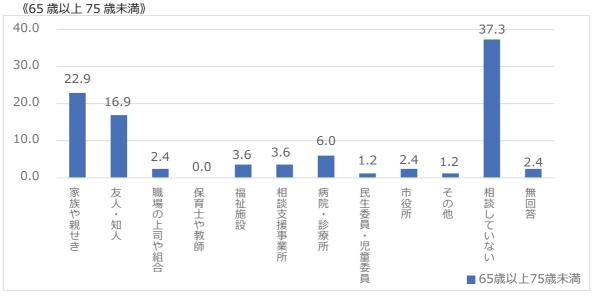
■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6歳未満では「職場の上司や組合」が多くなっています。

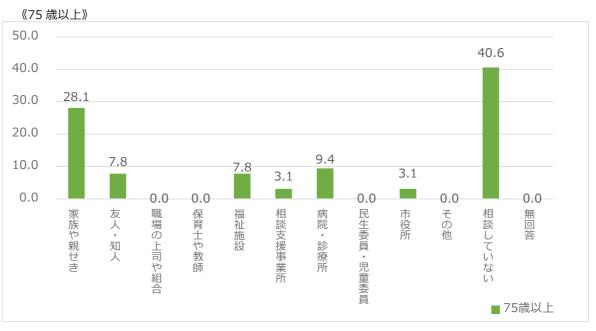






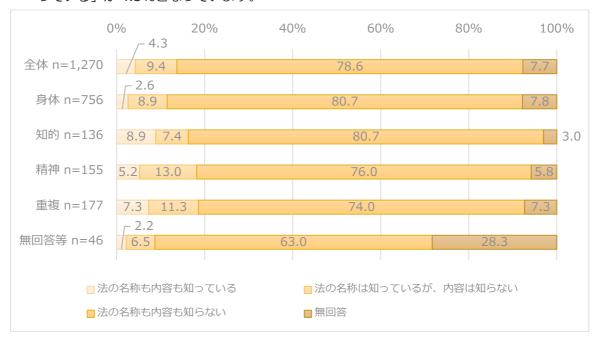




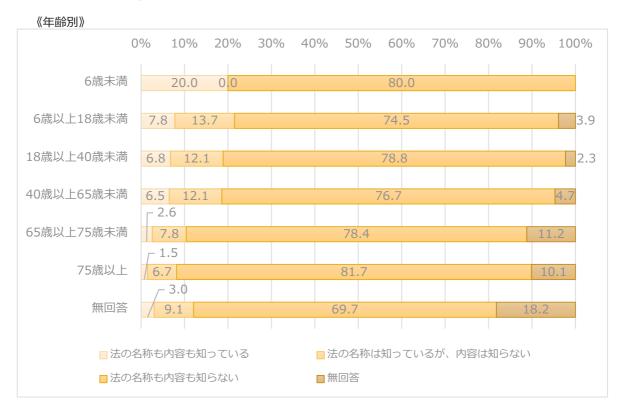


問38 あなたは、障がい者差別解消法を知っていますか。

■ 障がい者差別解消法を知っているかについては、「法の名称も内容も知らない」が 78.6%と最も多く、次いで「法の名称は知っているが、内容は知らない」が 9.4%、「法の名称も内容も知っている」が 4.3%となっています。

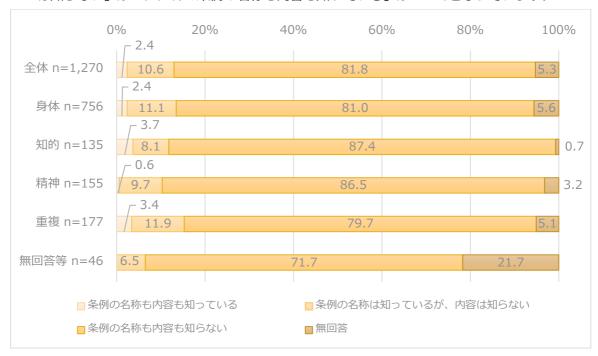


■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6歳以上 65歳未満で「法の名称は知っているが、内容は知らない」が多くなっています。

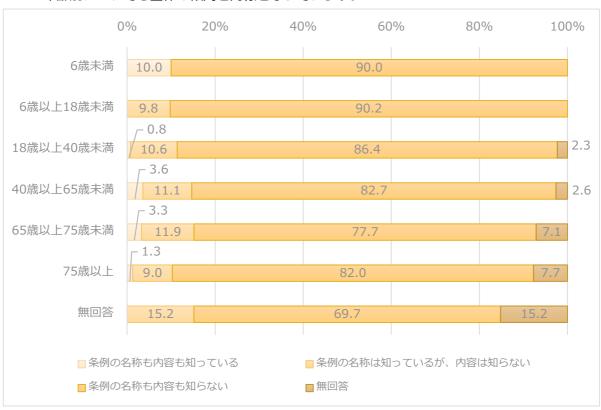


問 39 あなたは、本年4月1日に施行された「青森市障がいのある人も ない人も共に生きる社会づくり条例」を知っていますか。

■ 青森市障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例を知っているかについては、「条例の名称も内容も知らない」が81.8%と最も多く、次いで「条例の名称は知っているが、内容は知らない」が10.6%、「条例の名称も内容も知っている」が2.4%となっています。

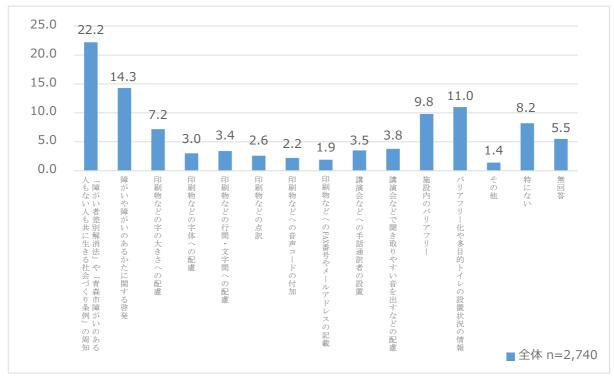


■ 年齢別についても全体の傾向と同様となっています。

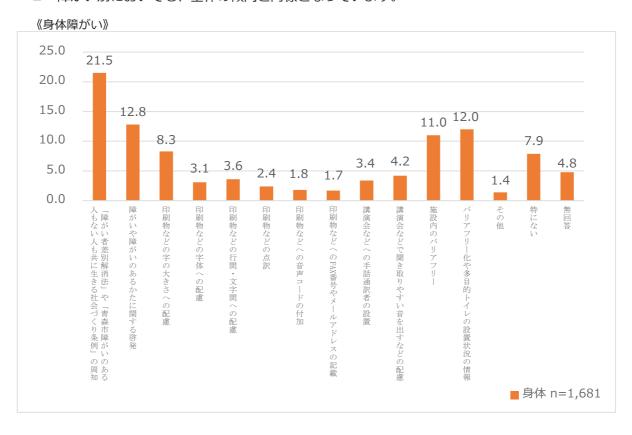


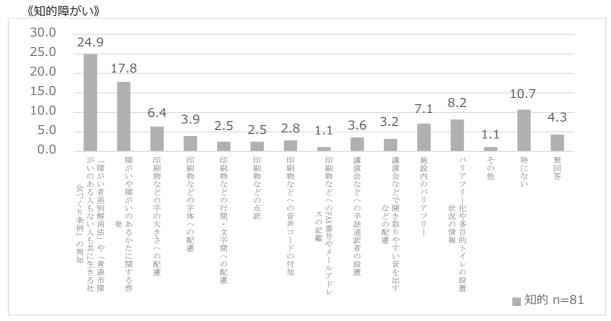
問 40 あなたは、差別がなくなるために、どういった配慮や取組が必要だと思いますか。

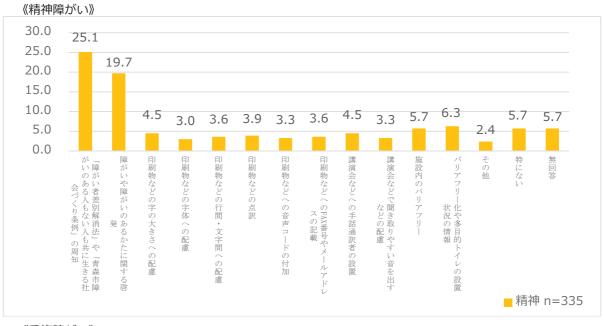
■ 差別がなくなるために、どういった配慮や取組が必要かについては、「「障がい者差別解消法」や「青森市障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例」の周知」が 22.2%と最も多く、次いで「障がいや障がいのあるかたに関する啓発」が 14.3%、「バリアフリー化や多目的トイレの設置状況の情報」が 11.0%、「施設内のバリアフリー」が 9.8%となっています。

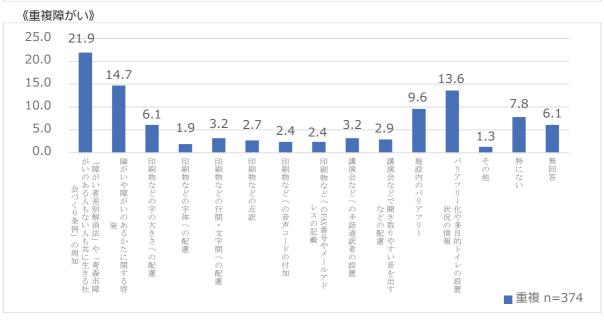


■ 障がい別においても、全体の傾向と同様となっています。

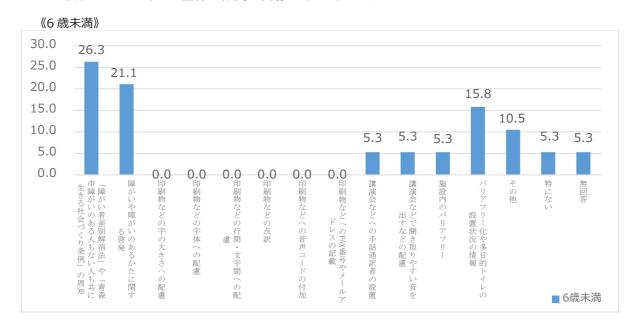


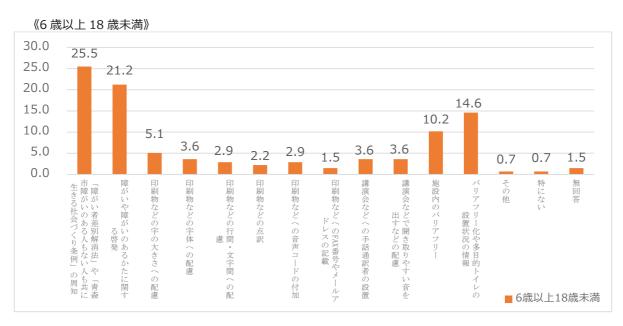


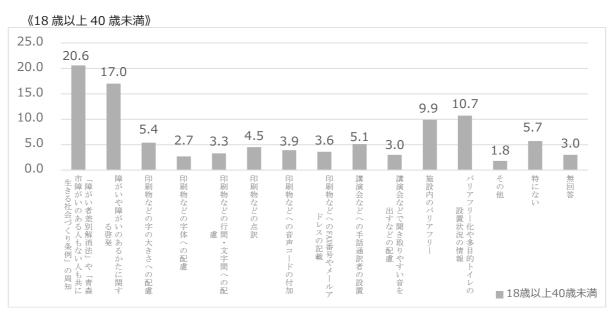




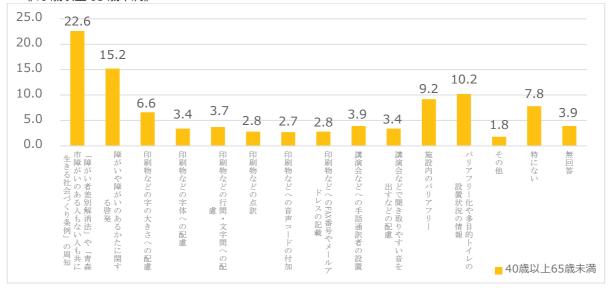
■ 年齢別においても、全体の傾向と同様となっています。



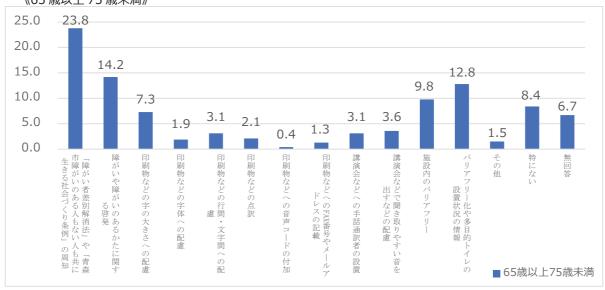




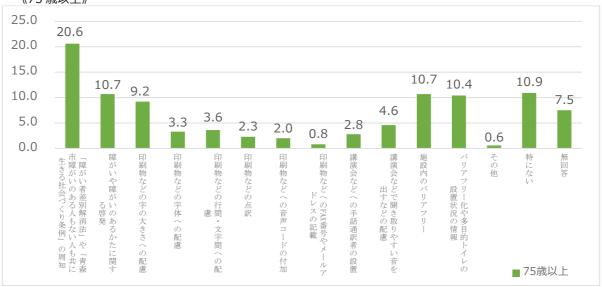
《40 歳以上 65 歳未満》



《65 歳以上 75 歳未満》

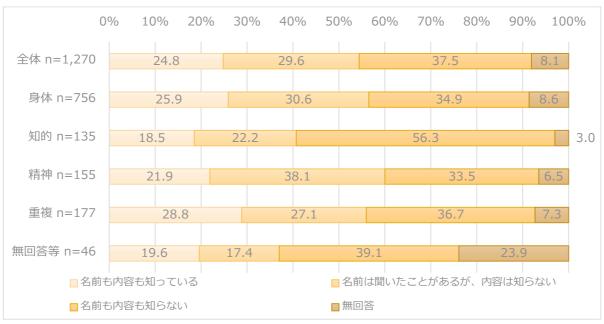


《75 歳以上》

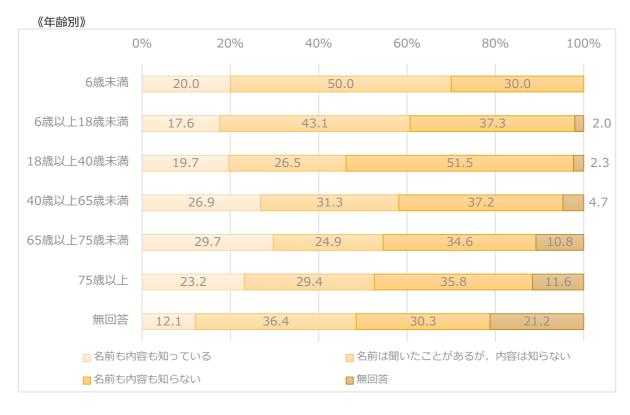


問 41 成年後見制度についてご存知ですか。

- 成年後見制度についてついては、「名前も内容も知らない」が37.5%と最も多く、次いで「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が29.6%、「名前も内容も知っている」が24.8%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、重複障がいでは「名前も内容も知っている」の割合 が多くなっています。



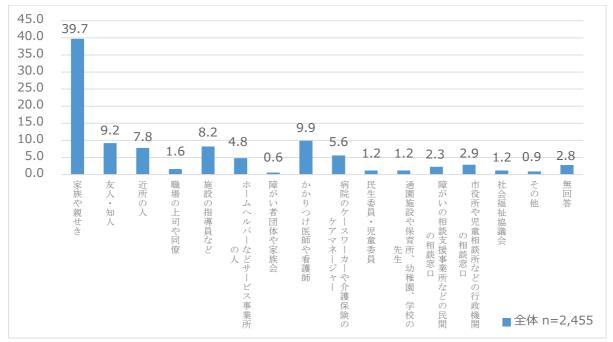
■ 年齢別においては、18歳以上40歳未満で「名前も内容も知っている」の割合が多くなっています。



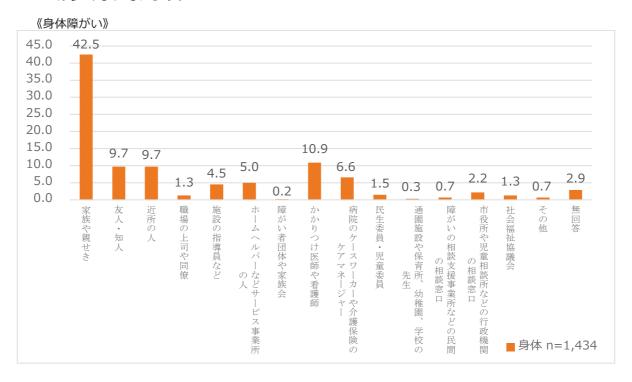
1-12 災害時の避難等について

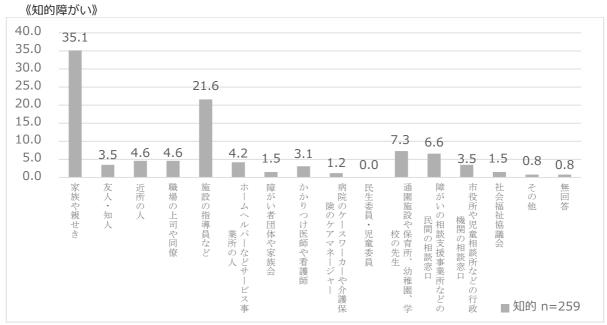
問 42 あなたは、緊急時にどなたに助けを求めますか。

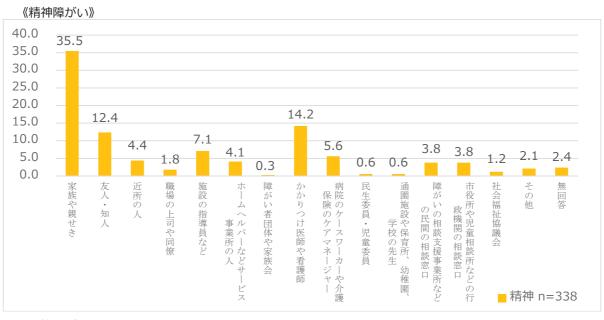
■ 緊急時にどなたに助けを求めますかについては、「家族や親せき」が 39.7%と最も多く、次いで「かかりつけ医師や看護師」が 9.9%、「友人・知人」が 9.2%、「施設の指導員など」8.2%、「近所の人」が 7.8%となっています。

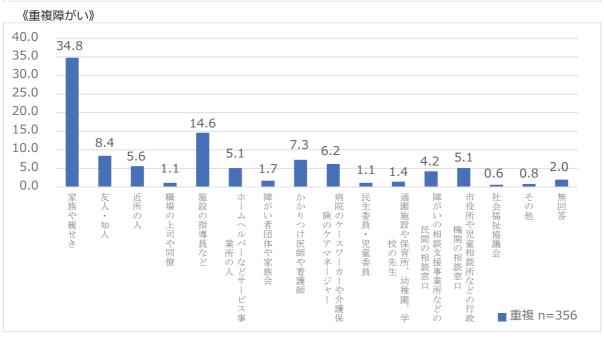


■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がい、重複障がいでは「施設の指導員など」 が多くなっています。

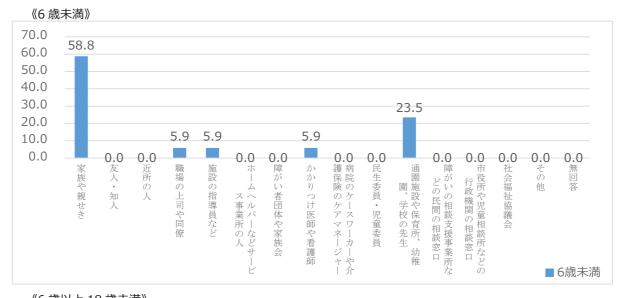


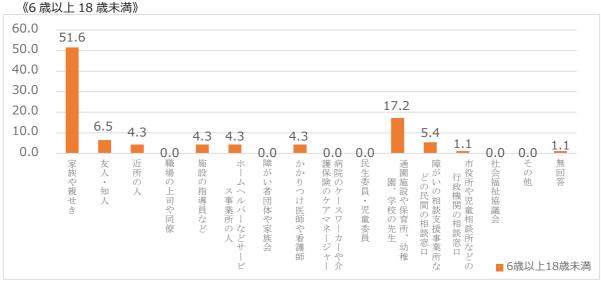


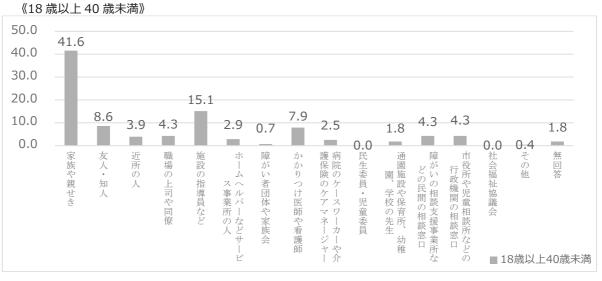


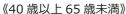


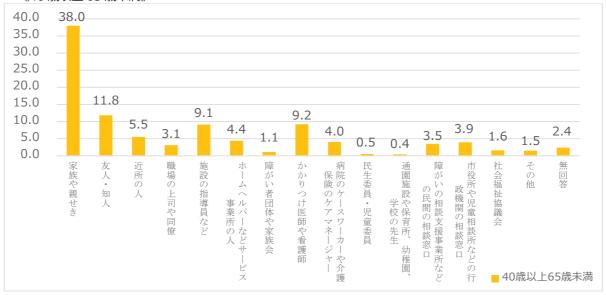
■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、6 歳未満、6 歳以上 18 歳未満では「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が多く、18 歳以上 40 歳未満では「施設の指導員など」が多くなっています。



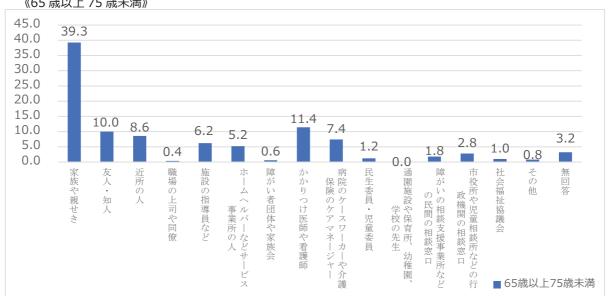




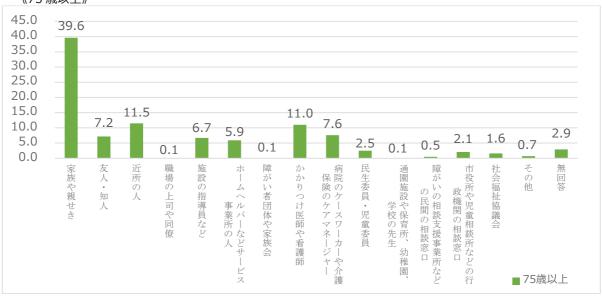




《65 歳以上 75 歳未満》

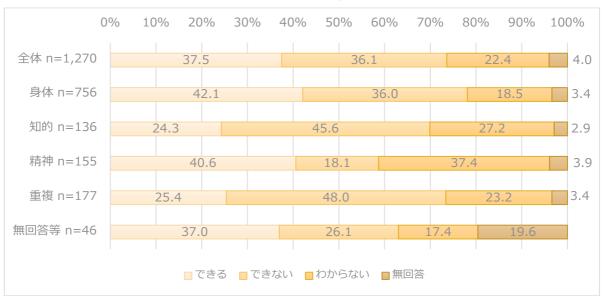


《75 歳以上》



問 43 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。

- 火事や地震等の災害時に一人で避難できるかについては、「できる」が 37.5%と最も多く、次いで「できない」が 36.1%、「わからない」が 22.4%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がい、重複障がいでは「できない」の割合が 多くなっています。精神障がいでは「わからない」の割合が多くなっています。



■ 年齢別にみると、65歳以上 75歳未満で「できる」の割合が多くなっています。 《年齢別》



問 44 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けて くれる人はいますか。

- 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいるかについては、「いない」が 36.9%と最も多く、次いで「わからない」が 31.1%、「いる」が 24.3%となっています。
- 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、精神障がいでは「いない」の割合が多くなっています。

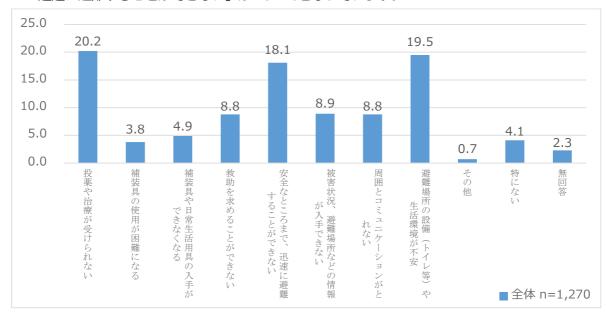


■ 年齢別にみると、18歳以上40歳未満で「いない」の割合が多くなっています。 《年齢別》

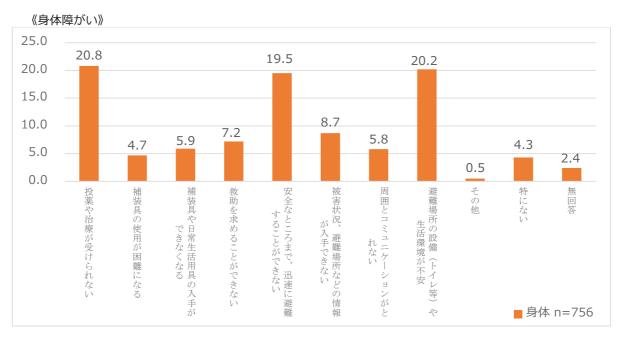


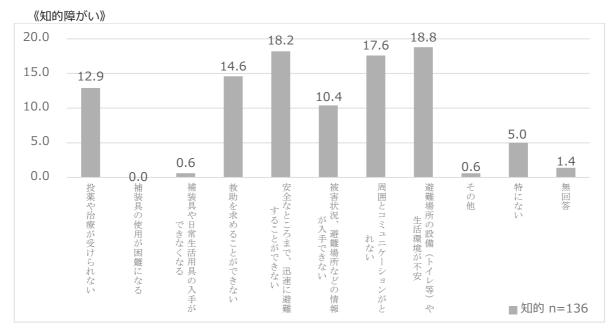
問 45 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。

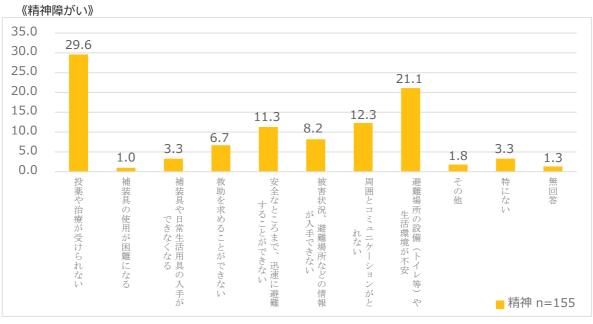
火事や地震等の災害時に困ることについては、「投薬や治療が受けられない」が20.2%と最も多く、次いで「避難所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が19.5%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が18.1%となっています。

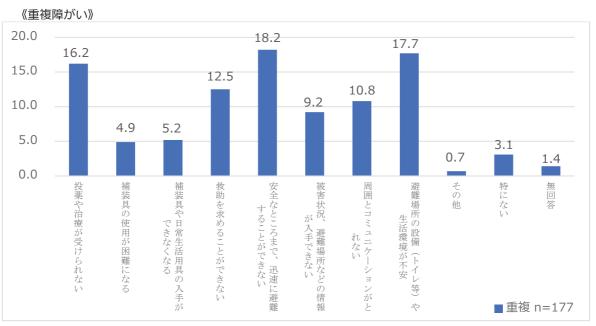


■ 障がい別にみると、全体の傾向と比べて、知的障がいでは「周囲とコミュニケーションがとれない」「救助を求めることができない」が多くなっています。



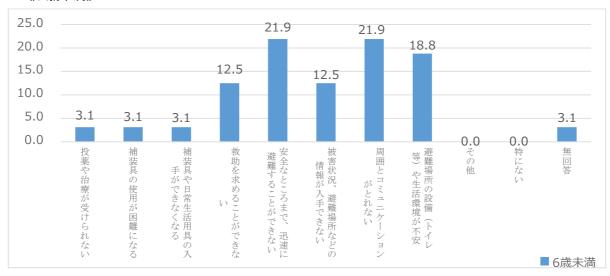




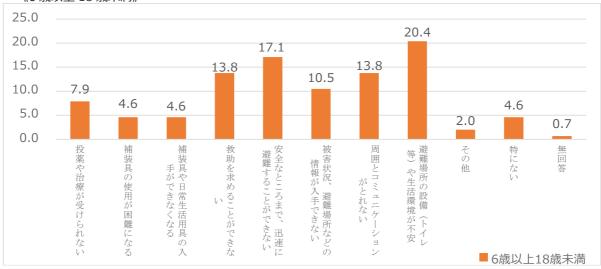


■ 年齢別にみると、全体の傾向と比べて、40 歳未満では「周囲とコミュニケーションがとれない」「救助を求めることができない」が多くなっています。

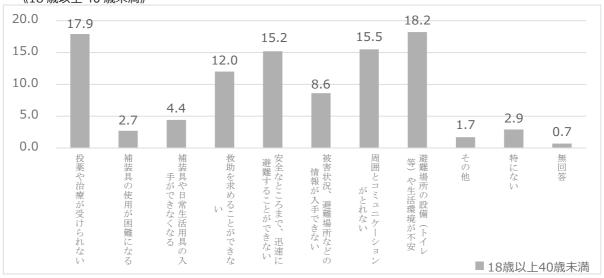
《6歳未満》



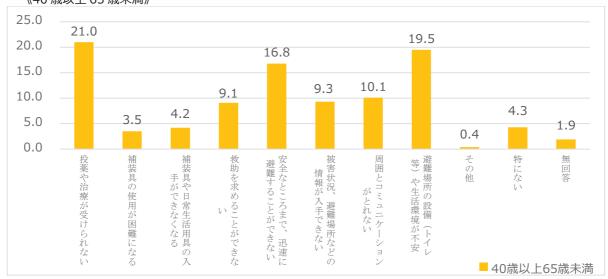




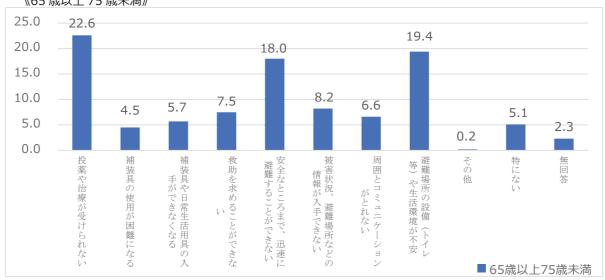
《18 歳以上 40 歳未満》



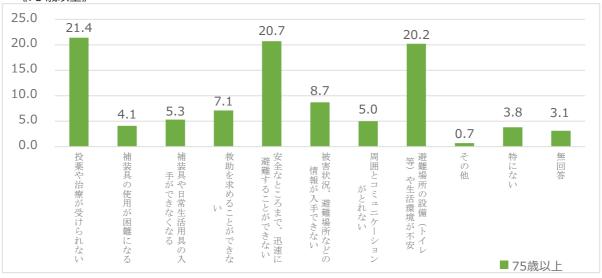
《40 歳以上 65 歳未満》



《65 歳以上 75 歳未満》



《75 歳以上》



2 事業所調査

問1 基本情報について

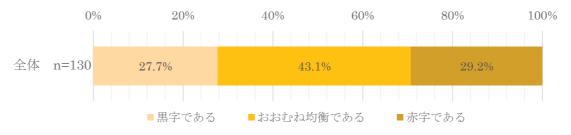
- (1) 貴事業所の概要を記入してください。
 - ※ 法人等の名称、事業所の名称や連絡先等の項目であるため省略
- (2)貴事業所が提供しているサービスの主な対象者はどれですか。(当 てはまるもの全てに○)
 - サービスの主な対象者については、障がい別の隔たりは少なく、おおむね均衡となっています。



問2 運営状況について

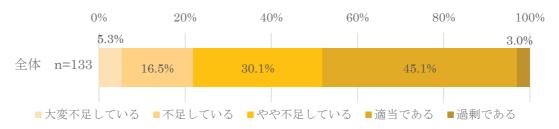
(1) 貴事業所の年間収支状況は次のうちどれですか。(1つに○)

■ 年間収支状況については、「おおむね均衡である」が 43.1%と最も多く、次いで「赤字である」が 29.2%、「黒字である」が 27.7%となっています。



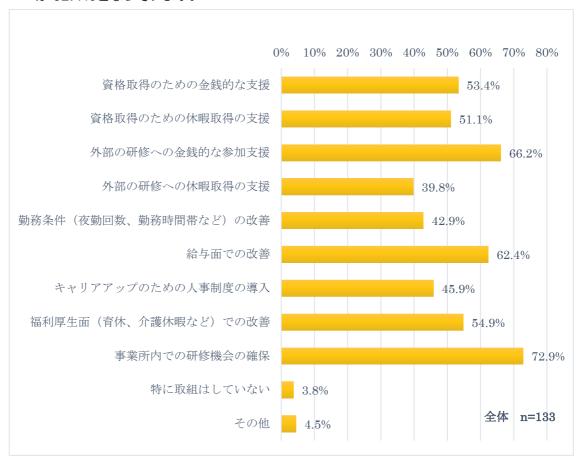
(2) 貴事業所の業務量に対する職員の過不足は次のうちどれですか。(1つに○)

■ 業務量に対する職員の過不足については、「適当である」が 45.1%と最も多く、次いで「や や不足している」が 30.1%、「不足している」が 16.5%、「大変不足している」が 5.3% となっています。

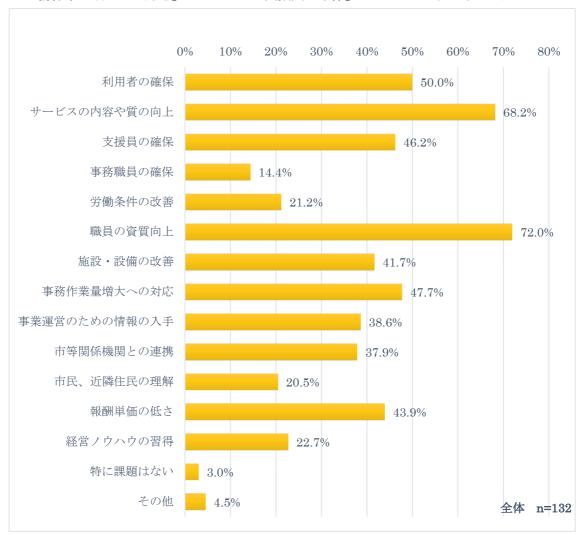


(3) 貴事業所で職員定着のために行っている取組は何ですか。(当ては まるもの全てに○)

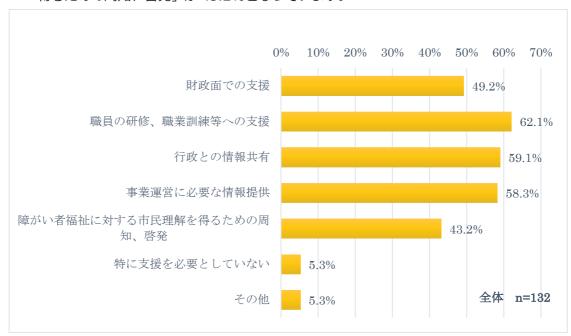
■ 職員定着のために行っている取組については、「事業所内での研修機会の確保」が 72.9% と最も多く、次いで「外部の研修への金銭的な参加支援」が 66.2%、「給与面での改善」が 62.4%となっています。



- (4) 貴事業所で円滑な事業運営のために改善したい課題は何ですか。(当てはまるもの全てに○)
 - 円滑な事業運営のために改善したい課題については、「職員の資質向上」が 72.0%と最も 多く、次いで「サービスの内容や質の向上」が 68.2%、「利用者の確保」が 50.0%、「事務作業量増大への対応」が 47.7%、「支援員の確保」が 46.2%となっています。



- (5) 今後の事業運営にあたって、行政等の関係機関のどのような支援 が必要でしょうか。(当てはまるもの全てに○)
 - 行政等の関係機関のどのような支援が必要かについては、「職員の研修、職業訓練等への支援」が62.1%と最も多く、次いで「行政との情報共有」が59.1%、「事業運営に必要な情報提供」が58.3%、「財政面での支援」が49.2%、「障がい者福祉に対する市民理解を得るための周知、啓発」が43.2%となっています。



問3 利用者数及び今後の動向等について

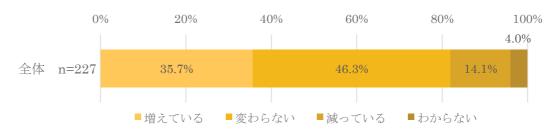
(1) 貴事業所が提供しているサービスについて、定員及び利用者数(契約者数)を記入してください。また、利用者数のうち、青森市の支給決定者についても記入してください。

ユードフの狂客	回答事業所数	平均定員	平均利用者数	うち青森市分
サービスの種類	(箇所)	(人)	(人)	(人)
居宅介護	19	-	10.7	9.9
重度訪問介護	4	-	4.0	4.0
同行援護	2	-	8.0	8.0
行動援護	2	-	2.0	2.0
生活介護	22	13.2	20.0	12.0
自立訓練(機能訓練)	3	35.0	0.0	0.0
自立訓練(生活訓練)	7	21.6	8.5	11.5
宿泊型自立訓練	2	16.5	15.5	12.0
就労移行支援	4	15.0	10.0	9.0
就労継続支援 A 型	16	15.0	10.0	9.0
就労継続支援 B 型	31	18.5	17.9	17.2
就労定着支援	2	-	12.5	10.5
療養介護	0	-	-	-
自立生活援助	0	-	-	-
短期入所	5	0.8	0.8	0.8
共同生活援助	16	25.3	24.3	9.2
施設入所支援	7	31.4	36.1	0.3
計画相談支援	15	-	117.5	65.7
地域移行支援	4	-	1.8	1.7
地域定着支援	1	-	1.0	1.0
児童発達支援	7	11.4	15.1	14.1
放課後等デイサービス	18	9.4	22.2	22.1
保育所等訪問支援	1	0.0	7.0	5.0
医療型児童発達支援	1	10.0	9.0	6.0
居宅訪問型児童発達支援	1	-	0.0	0.0
障害児相談支援	10	0.0	6.7	6.2
外出介護サービス	3	0.0	8.0	8.0
日中一時支援事業	11	3.7	21.0	20.5

(2) 現在提供しているサービス、または、今後提供を検討しているサービスについて、利用者の動向及びその対応策、また、その対応策 の実施予定時期について記入してください。(選択肢から1つだけ 選んで番号を記入してください)

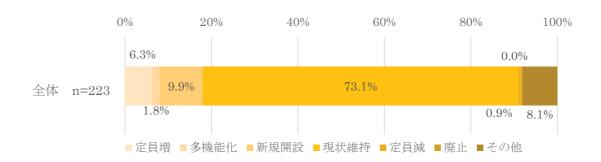
【利用者の動向】

■ 利用者の動向については、「変わらない」が 46.3%で最も多く、次いで「増えている」が 35.7%、「減っている」が 14.1%となっています。



【対応策】

■ 対応策については、「現状維持」が 73.1%で最も多く、次いで「新規開設」が 9.9%となっています。廃止と答えた事業所はありませんでした。



問4 地域生活への移行について

(1) 青森市の支給決定者のうち、退所されたかたの人数について、年度ごとに記入してください。(死亡を除く)

《施設入所支援事業における地域移行の実績》

(単位:人)

移行先	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
自宅	0	4	0
グループホームなど	4	1	0
アパートなど	0	0	0
その他	4	1	2

(2) 青森市の支給決定者のうち、今後、退所が見込まれるかたの人数を記入してください。(死亡を除く)

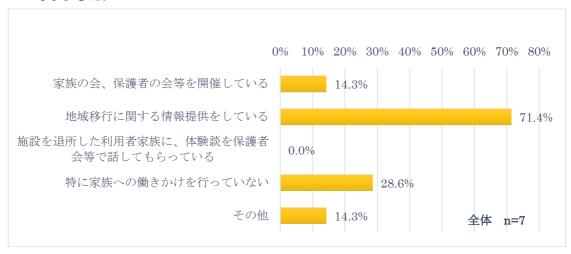
《施設入所支援事業における地域移行の見込》

移行先	令和 2 年度	令和 3~5 年度 (年度平均)
自宅	0	0
グループホームなど	0	0
アパートなど	0	0
その他	0	0

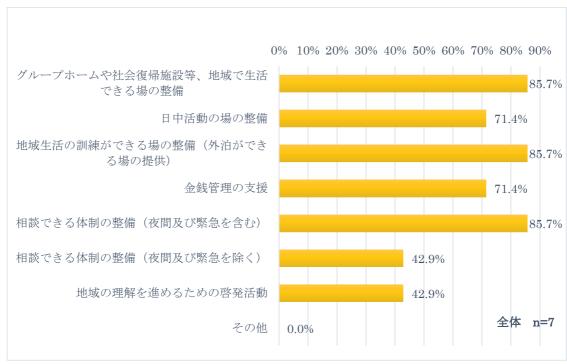
- (3) 地域移行に向けて、利用者の意識を高めるための動機づけについて取り組んでいることがありますか。(当てはまるもの全てに○)
 - 施設入所支援事業を提供する事業者における地域移行に向けた利用者の動機づけの取組については、「個別相談を行っている」事業所が57.1%、次いで「特に行っていることはない」が42.9%、「定期的な外出を行っている」が14.3%となっています。



- (4) 地域移行への取り組みを進める際、貴事業所では、利用者の家族の理解を得るために、家族に対してどのような働きかけを行っていますか。(当てはまるもの全てに○)
 - 家族に対する働きかけについては、回答のあった 7 事業所のうち 71.4%が「地域移行に 関する情報提供をしている」に取り組んでいるほか、「家族会、保護者の会等を開催してい る」事業所が 14.3%、一方で「特に家族への働きかけを行っていない」事業所が 28.6% ありました。



- (5) 地域移行に向けて、必要な条件は何だと思いますか。(当てはまるもの全てに○)
 - 地域移行に向けて必要な条件については、「相談できる体制の整備(夜間及び緊急を含む)」、「グループホームや社会復帰施設等、地域で生活できる場の整備」、「地域生活の訓練ができる場の整備(外泊ができる場の提供)」がいずれも85.7%となっています。



問5 貴事業所からの一般就労への移行について

(1) 青森市の支給決定者のうち、一般就労されたかたの人数について、 年度ごとに記入してください。

《就労移行支援事業等における一般就労の実績》

(単位:人)

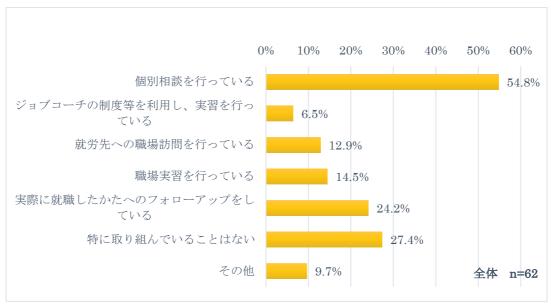
サービスの種類	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
就労移行支援	16	11	21
就労継続支援 A 型	14	27	27
就労継続支援 B 型	1	3	3
生活介護	0	0	1
自立訓練(機能訓練)	0	0	0
自立訓練(生活訓練)	0	1	0

(2) 青森市の支給決定者のうち、今後、一般就労が見込まれるかたの 人数について記入してください。

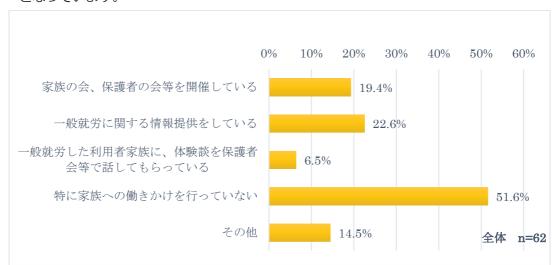
《就労移行支援事業等における一般就労の見込》

サービスの種類	令和 2 年度	令和 3~5 年度 (年度平均)
就労移行支援	11	16
就労継続支援 A 型	7	11
就労継続支援 B 型	1	4
生活介護	0	0
自立訓練(機能訓練)	0	0
自立訓練(生活訓練)	1	0

- (3) 一般就労に向けて、利用者の意識を高めるための動機づけについて取り組んでいることがありますか。(当てはまるもの全てに○)
 - 一般就労に向けた利用者の動機づけの取組については、「個別相談を行っている」が 54.8%と最も多く、次いで「特に取り組んでいることはない」が 27.4%となっています。



- (4) 一般就労への取組を進める際、貴事業所では、利用者の家族の理解を得るために、家族に対してどのような働きかけを行っていますか。(当てはまるもの全てに○)
 - 利用者の家族の理解を得るための働きかけについては、「特に家族への働きかけを行っていない」が 51.6% と最も多く、次いで「一般就労に関する情報提供をしている」が 22.6% となっています。



- 問6 貴事業所の重症心身障がい児(重度の肢体不自由と重度の知的障がいが重複した障がい児)の受け入れについて
 - (1) 青森市の支給決定者のうち、重症心身障がい児の受入人数について、年度ごとに記入してください。

《障がい児通所支援事業における受入の実績》

(単位:人)

サービスの種類	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
児童発達支援	1	1	0
放課後等デイサービス	22	24	24
保育所等訪問支援	0	0	0
医療型児童発達支援	5	5	5
居宅訪問型児童発達支援	-	0	0
障害児相談支援	10	9	10

(2) 青森市の支給決定者のうち、今後、重症心身障がい児の受入が見込まれる人数について記入してください。

《障がい児通所支援事業における受入の見込》

サービスの種類	令和 2 年度	令和 3~5 年度 (年度平均)
児童発達支援	0	0
放課後等デイサービス	14	13
保育所等訪問支援	0	0
医療型児童発達支援	2	4
居宅訪問型児童発達支援	0	0
障害児相談支援	10	10

- 問7 貴事業所の医療的ケア(痰吸引や経管栄養など)児の受け入れについて
 - (1) 青森市の支給決定者のうち、医療的ケア児の受入人数について、 年度ごとに記入してください。

《障がい児通所支援事業における受入の実績》

(単位:人)

サービスの種類	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
児童発達支援	0	0	0
放課後等デイサービス	2	3	2
保育所等訪問支援	0	0	0
医療型児童発達支援	3	4	6
居宅訪問型児童発達支援	-	0	0
障害児相談支援	6	5	5

(2) 青森市の支給決定者のうち、今後、医療的ケア児の受入が見込まれる人数について記入してください。

《障がい児通所支援事業における受入の見込》

サービスの種類	令和 2 年度	令和 3~5 年度 (年度平均)
児童発達支援	0	0
放課後等デイサービス	4	7
保育所等訪問支援	0	0
医療型児童発達支援	3	3
居宅訪問型児童発達支援	0	0
障害児相談支援	5	5

(3) 医療的ケア児を受け入れるための課題は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

■ 医療的ケア児を受け入れるための課題については、「看護師など人員体制の確保」と「設備が不足している」が 36.8%と最も多く、次いで「ノウハウがない」が 31.6%となっています。

